

三	野江線	一、一七〇	同	電鐵第四期線中善源寺町ヨリ東走シ野江ニ至リ南折シテ蒲生ニ至ル	同	上
四	天満蒲生線	九五一	同	空心中二丁目ヨリ東走野田町ヲ經テ蒲生ニ至ル	同	上
五	谷町上本町線	三、二九二	同	空心中二丁目ヨリ谷町上本町ヲ經テ天王寺公園前ニ至ル電車線路	既設八間道路	上
六	法圓阪町線	八七七	同	上本町二丁目ヨリ北走シ京橋前之町ニ至ル	軌道敷設	上
七	玉造延長線	四二三	同	東雲町一丁目ヨリ森之宮東ノ町ニ至ル	同	上
八	東西線	二、〇五二	同	谷町六丁目ヨリ松島町二丁目ニ至ル	既設八間道路	上
九	上本町九丁目線	四七〇	同	上本町九丁目ヨリ東走シ天王寺勝山通三丁目ヲ經テ城東線ニ至ル	軌道敷設	上
一〇	奈良街道線	一七一	同	天王寺大道四丁目ヨリ城東線ニ至ル	同	上
一一	阿部野街道線	三九〇	同	天王寺西門前ヨリ阿部野橋ニ至ル南海電鐵路線	既設八間道路	上
一二	木津霞町線	三二七	同	木津大國町第三等線ヨリ分岐シ關西線ニ沿ヒ南霞町ニ至ル	軌道敷設	上
一三	西濱線	六三二	同	木津北島町一丁目ヨリ南走シ第五等線ニ至ル	同	上
一四	傳法難波線	三、三七六	同	傳法町ヨリ四貫島、春日出町、市岡町、泉尾町ヲ經テ難波木津線ニ至ル	同	上
一五	同上延長線	二六三	同	第十四號線ヲ東方ニ延長シ難波河原町ニ至ル	同	上
一六	泉尾線	一、二〇〇	同	泉尾橋北詰ニテ第十四號線ヨリ分岐シ泉尾町ヲ經テ新千歲町ニ至ル	同	上
一七	野田傳法線	二、六一一	同	野田阪神前ヨリ神島村ヲ經テ常吉町ニ至ル	同	上
一八	櫻宮線	七一九	同	東野田町ヨリ北走シ櫻宮舊水源地北方ニ於テ梅田善源寺町線ニ至ル	同	上
第五等道路			八	筑前橋北詰ヨリ北走シ西梅田町ヲ經テ第三等線ニ至ル	新設	上

二	安治川北通線	二、〇五四	同	梅田橋北詰ヨリ曾根崎川安治川ノ北岸ニ沿ヒ北安治川通三丁目ニ至ル	同	上
三	木津津守線	九〇〇	同	木津大國町第三等線ヨリ分岐西走シ木津川落合上渡ニ至ル	同	上
四	千島泉尾線	九〇〇	同	落合上渡ヨリ西走尻無川甚兵衛渡ニ至ル	同	上
五	新千歲平尾線	一、〇〇〇	同	新千歲町屈曲點ヨリ南走シ後東走シテ木津川ニ至ル	同	上
六	新千歲鶴町線	四八〇	同	新千歲町ヨリ西走シテ築港鶴町ニ至ル	同	上
七	千島町線	三四〇	同	千島運河ニ並行シ小林町停留場ヨリ東走シ木津川ニ至ル	同	上
八	千島平尾町線	一、二一〇	同	千島町第五等線ヨリ分岐シ木津川ニ沿ヒ市立屠場西側ヲ經テ西折南恩加島町線ニ至ル	同	上
九	市岡木屋町線	六八〇	同	築港線沙路橋ヨリ北走シ安治川南岸ニ至ル	同	上
一〇	福崎石田町線	一、二〇〇	同	尻無川甚兵衛渡ヨリ北走シ安治川松ヶ鼻渡ニ至ル	同	上
一一	田中町線	五四〇	同	築港線ヨリ分岐シ田中町ヲ貫通シ安治川ニ至ル	同	上
一二	新池田町線	四二〇	同	築港線朝汐橋ヨリ天保山運河浮島橋ニ至ル	同	上
一三	九條市岡縱貫線	二、二〇二	同	端建藏橋南方ヨリ川口、九條、市岡田中町ヲ貫通シ築港線朝汐橋ニ至ル	同	上
一四	春日出線	七〇〇	同	恩貴島北之町ヨリ恩貴島橋ヲ渡リ春日出町ヲ貫通シ安治川北岸ニ至ル	同	上
一五	恩貴島南ノ町線	五二〇	同	松ヶ鼻渡ヨリ北走シ正運寺川ニ至ル	同	上
一六	島屋町線	七四〇	同	安治川入堀西方ヨリ櫻島町島屋町ヲ經テ正運寺川ニ至ル	同	上
一七	西島町線	二六〇	同	(一五)ノ對岸ヨリ北走シテ新淀川堤ニ至ル	同	上
一八	常吉町線	二三〇	同	(一六)ノ對岸ヨリ北走シテ新淀川堤ニ至ル	同	上
一九	海老江線	三〇八	同	阪神北大阪線ヨリ分岐シ海老江ヲ貫通シ阪神國道ニ至ル	同	上

前表路線ノ中ニハ固ヨリ本市交通ノ大幹線トシテ新設取換ケテ要スルモノ尠ナカラスト雖モ其他或ハ電車線ノ連絡普及ヲ以テ主タル目的トセルアリ或ハ荷馬車ノ交通ヲ旨トセルアリ又或ハ稍局部的ニ新市開發ノ方針ヲ定ムルニ出タルモノアルヲ以テ一々其採擇ノ理由ヲ詳悉スルノ煩ニ堪エス以下特ニ一般交通系統ノ上ニ關係少ナカラサルモノヲ撰ヒテ之カ説明ヲ加ヘン

(一) 御堂筋線

本市ノ公館地區カ將來中之島ノ新市廳ヲ中心トシテ其周圍ニ展開セラルヘキハ最早何人モ之ヲ疑フノ餘地ナシ從テ北ニ大阪驛ヨリ此公館地區ノ中心ヲ經テ淀屋橋ヲ越ヘ御堂筋ヲ南下シテ難波驛前ニ達シ以テ南北ニ大交通中心點ト市ノ中心地區トヲ一直接ニ連絡スヘキ縱貫大道路力種々ノ意味ニ於テ本市最高級ノ機能ヲ達成スヘキ所以ハ之ヲ築設スルヲ俟タス故ニ本路線ハ是非共コレヲ永遠ノ必要ヨリ考數シテ大大阪市ノ中央街路タルニ恥チサル幅員ト體裁トヲ具備セシメサル可カラス審議ノ末之ヲ二十四間幅ニ決セリ即チ街路ノ中央ニ於ケル電車軌道敷ノ兩側ニ夫々自動車ノ二列ト荷馬車ノ二列トヲ並ヒ馳セシムルノ外別ニ一列ノ車馬ヲ停留セシムルニ足ル寸法ヲ採ツテ車道幅トシ添フルニ各側三間半ノ歩道ヲ以テセルカ故ニ大都市中心ノ高級路線トシテハ略合理ノ經濟的幅員タルヲ得ンカ惟フニ交通上是ヨリ小ナル路幅ノ好マシカラサルハ勿論ナカラ又此以上ニ大ナルモノハ其目的寧ロ數條ノ植樹地帯ヲ點綴シテ街路ノ美觀ヲ添フルノ趣旨ニ出テ本路線ノ場合必スシモ之ニ倣フニ及ハシ

(二) 南北線及日本橋筋線

御堂筋ノ中央街路ヲ挾ンテ南北ニ之ト並走スルモノ東ニ堺筋線アリ西ニ南北線アリ共ニ市ノ肺腑タル商業地帯ヲ貫キ交々相扶ケテ本市南北交通ノ要路タルモ然モ南北線ニアリテハ渡邊橋以南ノ現在幅員僅ニ八間ナルニ過キス又堺筋線ニアリテモ其南ヘノ延長タル日本橋筋三丁目ヨリ五丁目ノ間ハ之レ亦八間幅タルニ止マリ何レモ路面電車以外車馬ノ往來ニ充ツヘキ餘地幾許ヲタモ存セス現ニ交通混亂ノ障礙最モ甚キモノアルヲ以テ須ク此際之カ擴張ヲ斷行シテ中央市街ノ面目ヲ一舉ニ一新セシムルヲ要ス但シ日本橋筋ノ路幅ハ之ヲ其以北ニ準シテ十二間ニ止ムヘキモ南北線ニアリテハ其前途益々南北縱貫ノ意義ヲ深ウシ即チ南ニハ難波木津線ヲ經テ遠ク市ノ南郊ヲ貫キ堺市ニ達スル新幹線ト連リ北ハ大阪驛ノ改築ニツレテ北野ニ延ヒ十三橋ヲ渡リテ北郊能勢街道ニ通スヘキカ故ニ其廣キヲ利トシ規格ニ違ヒ十三間幅ヲ採レリ

(三) 堂島十三線及西濱線

南北線ト並行シテ西ニ堂島大橋ヨリ難波櫻川町ニ至ル市電第四期路線ハ北ニ堂島大橋以北トノ連絡ヲ講セサル限リ遂ニ其利ヲ十間ニ堂島大橋以北ヲ十二間ニ定ムルヲ適當トスヘシ

(四) 長柄橋筋線及松屋町筋線

北ニ長柄橋ヨリスル北郊一圓ノ交通ヲ受ケテ之ヲ南ニ天王寺公園ニ結ヒ若ハ惹テ南方郊外地ニ達セシムヘキ要路トシテハ宜敷天神橋筋ニ沿ヘル電車線路ヲ南北ニ延長スヘク即チ北ニハ天神橋筋六丁目以外長柄橋ニ至ル十間道路ノ延長ヲ圖リ南ニハ天神橋筋一丁目ヨリ少シク東シテ天神橋ヲ渡リ松屋町筋ヲ一直線ニ南下シテ下寺町筋ヲ天王寺公園前ニ達スル路線ヲ十三間幅ニ擴張セサル可カラス就中松屋町筋ノ如キハ之ヲ市内交通量ノ分布ニ察シ市内電車網ノ普及ニ積ヘ又更ニ其附近ノ地勢ト人口ノ密度トニ鑑ミンニハ速ニ其取換ケヲ斷スルノ外ナキト同時ニ其實現ノ商業ノ中心地トシテ寧ロ顯著ナル面目一新ノ效果ニ想到セサル能ハス

(五) 九條中之島線ノ一部

本市ヲ東西ニ貫通スル第一ノ幹線トシテハ西ニ水運ノ一大中心タル築港埠頭ヨリ出テ途中川口町ノ運輸中心ヲ併セテ以テ東ニ中之島ニ通スル路線ヲ擧クヘシ然モ本路線タル埠頭ヨリ境川ニ至ル幅員十八間ニ次テ境川ヨリ花園橋マテノ十六間ヲ算スルニ拘ラス其以北端建藏橋ニ達スル區間ハ僅ニ八間幅タルニ止マリ現ニ日夕交通激甚ニ伴フ混雜名狀スヘカラサル者アリ殊ニ將來此方面一圓ノ開發ヲ以テセンニハ其咽喉タルヘキ此區間ノ交通狀態ハ到底尋常ヲ以テ之ヲ律スル能ハスサレハ今日之ヲ十六間道路ニ擴張シ端建藏橋ニ及ハシムルノ急務タルノミナラス別ニ川口町ニ起リ九條ノ中央ヲ縱斷シテ市岡町田中町ニ延ヒ以テ築港線ニ合スル幅員八間ノ新路線ヲ設定シテ是カ副道ヲラシメサル可カラス但シ端建藏橋以北ニ至リテハ自ラ其交通系統三分セラレ一ハ船津橋ヲ經テ西野田方面ヲ指シ一ハ荷馬車ヲ主トシテ大阪驛ヘノ直路タル安治川北通ノ新設八間道路ヲ採リ他ハ即チ人車ノ交通ヲ主トシ堂島川南岸ニ沿ウテ大江橋方面ニ向フ可キカ故ニ端建藏橋ノ改築ヲ機トシテ地形上能フ限リ其橋幅ヲ擴張メ且ツ其附近ヲ整理スルニ於テハ其以北ニ互リ強テ道路擴張ノ要ヲ認メス

(六) 傳法 難波線

新市ニ屬スル西區ノ一體ハ大小河川ノ爲ニ其地形數多ニ分裂シ勢ヒ箇々ニ縱貫路線ヲ以テ舊市トノ交通ニ資セルモ横ニ是等ヲ連貫スヘキ手段トシテハ一路僅ニ九條高津線ヲ存スルニ過キス之ヲ將來ノ必要ニ察セバ更ニ一幹線ノ設定ヲ要望セサル可クムキ即チ北ニ尼崎市ヲ發シテ直路新淀川尻ヲ渡リ傳法、四貫島、春日出ヲ經テ安治川ニ達シ對岸市岡町ヲ貫キテ尻無川ヲ渡リ三軒家ヲ東シテ木津川ヲ越エ更ニ難波ノ中央ヲ一直線ニ難波驛ノ南ニ出テ以テ本市ノ中央大街路ト連絡セシムヘキナリ但シ此間大河ノ橫斷ヲ以テ問題トスヘキモ木津川ノ如キハ最早其上流一局部ニ對スル帆船出入ノ便否ヲ以テ強テ架橋ノ利害ヲ爭フニ足ラス况ヤ六軒屋、正運寺、傳法三川ノ如キヲ唯茲ニ安治川及ヒ尻無川ノアルアリ若シ之ヲ越ユルニ固定橋ヲ以テセンカ水面上少クトモ百尺以上ノ高度ヲ要シ零口其前後ノ取附ケニ窮セサル可カラズ廻轉橋其他ヲ可動方式ニ依ランカ理ニ於テ可ナルモ實用ニ於テハ寧ロ其不便ノ甚シキニ堪エス然モ之ヲ地下道トセンニハ河底ノ地質ニ多大ノ疑問アリ故ニ該河ノ連絡ハ姑ク完全ナル渡船設備ニ俟ツヘキモノトシ其以外ニ於ケル幅員十間ノ路線ヲ設定シテ部分的ニタモ尙且ツ着々交通ノ利便ヲ進メ以テ最後ノ理想的連絡ヲ將來ニ期スヘシ

(七) 阪神 國道線

本線ハ福島中五丁目ニ於テ現在ノ福島線ヨリ分歧シ阪神電鐵線路ノ南ニ沿ヒ野田停留所ニ至リ北折シテ西成大橋ヲ越ヘ神島歌島、佃ヲ經テ尼崎ニ達スルモノニシテ其幅員ハ西成大橋ニ至ル部分ヲ十三間トシ其以北ヲ十間トスヘシ大橋ノ幅員ハ八間以上ニ改築ノ要アリ

(八) 梅田 天滿線

梅田角田町ニ起リ東走シテ近市ノ住宅經營地タルヘキ舊監獄敷地跡ノ南端ヲ貫キ天滿橋筋四丁目ヲ南シテ空心町二丁目ニ出テ既設電鐵線ト連絡シテ以テ此方面ニ於ケル東西縱貫道路ノ不足ヲ補ヒ且ハ前記住宅地區ノ利便ニ供セントスルモノニシテ其幅員十間トス

(九) 天滿 蒲生線

空心町二丁目ヨリ東シテ舊泉布觀ノ南端ヲ經略々一直線ニ淀川ヲ渡リテ東野田町ヲ橫貫シ蒲生ニ於テ古堤街道線及玉造蒲生線ト合スルモノニシテ其幅員八十間トス本路線ハ西ニ空心町二丁目ニ於テ現在ノ福島天滿橋線ト連絡シ本市北部ノ中央ヲ東西ニ橫貫スル大動脈ヲ以テ目スヘク其利用ノ大アルハ勿論東郊開發ニ資スルコト亦尠カラズト認ム

(一〇) 野江 線

電鐵梅田善源寺町線ノ内櫻宮舊水源池東北隅ニ起リ東走シテ野江ニ出テ京街道線ヲ連ネテ南シ蒲生ニ至リテ天滿蒲生線ニ合スルモノニシテ其幅員八十間トス本路線ハ以テ市ノ東北郊開發ニ利スヘキハ固ヨリ一面ニハ天滿蒲生線ト相俟チテ電鐵既定路線一部ノ修正ニ充ツヘシ其然ル所以ハ畢竟該既定計畫タル此方面ノ地勢ニ照シテ其規模狹少ニ失シ其布置妥當ナラサルニ察シ之ヲ大局ヨリスル道路系統ノ整齊ト主要幹線ト連絡トニ就テ稽査シタルニ出ツ

(一一) 城 南 線

谷町三丁目ニ起リ大阪城ノ南ニ沿ヒテ東走シ官線城東線ニ至ルモノニシテ將來ハ更ニ郊外ヲ遠ク放出停車場ノ南ニ延ヒ南北縱走ノ假定縣道ニ達セシムヘシ本路線ハ西ニ谷町三丁目ニ於テ現在ノ觀本町線ニ合シ市ノ中心地區ニ至ルガ故ニ其利用ノ甚大ナルヲ期スヘク更ニ他日師團移轉ノ騰ニ至ラバ自ラ該方面ニ於ケル新住宅地區ノ中心道路トシテ一段ノ價值ヲ加ヘン其幅員市内ハ十二間郊外ハ十間トナスヘシ

(一二) 上本町六丁目線及上本町九丁目線

一ハ上本町六丁目ヨリ大阪軌道線ニ沿ヒテ東シ霞町玉造線及官線城東線ヲ橫斷シテ暗越奈良街道線ニ連絡シ他ハ上本町九丁目ヨリ東シテ天王寺勝山通四丁目ニ出テ霞町玉造線及官線城東線ト交叉シテ生野村ニ出テ東郊縱貫ノ豫定幹線ニ連絡スルモノニシテ共ニ市内ト東郊トノ交通上必須ノ施設タルノミナラス上本町ト霞町玉造線トノ軌道連絡上特ニ其必要ヲ認ム路線ハ前者ハ十二間後者ハ十間トナスヘシ

(一三) 既設電鐵路線ノ擴張

八間幅ヲ以テ現ニ電車ヲ通セル路線ノ内南北線及九條中之島線ノ一部ニ對スル擴張ニ就テハ既ニ説ク處ノ如シト雖モ外ニ谷町線及上本町線ノ全部、東西線、玉造線、西道頓堀天王寺線及會根崎天滿橋線ノ一部ノ如キ又齊シク將來ノ交通幹線トシテ十間幅ニ擴張ノ要アリ但シ交通ノ狀態ニ察セハ其實行ニハ尙數年ヲ緩ウシ能ハサルニ非ス故ニ是等ハ先ヅ其建築法線ヲ設定シテ豫メ家屋ノ新築改築ノ規準ヲラシメ其着手ニ對シテハ相當ノ猶豫期限ヲ附スルヲ以テ寧ロ適當ノ措置ト爲スヘシ

第五章 舊市ノ路幅整理

由來舊市ノ道路ニハ其幅員ニ就テ開府以來ノ制定アリト雖モ後ニ「軒下大道」ト稱シ行人ノ來往ヲ妨ケサル限リ道路數ニ互リテ軒先ノ掛出シヲ認容シタリシ結果漸次道路數ヲ侵シテ家屋ヲ建設スルノ弊ヲ生シ當時ノ大阪町奉行ハ數次之ヲ取締ヲ布達セシモ其實績多ク擧ラサリシガ如ク遂ニ下リテ明治四年大阪府達ヲ以テ爾後家屋ノ新築又ハ改築ノ場合ハ必ス道路境界線迄後退シテ建築スヘキ旨ヲ規定スルニ及ビ初メテ鐵カニ修理ノ緒ニ就クヲ得タリ然レドモ前記府達ノ効果タルヤ家屋ノ自然積廢若ハ燒失ニ因リ其新築又ハ改築ノ必要アルヲ俟テ初メテ顯ハルルニ過キサルヲ以テ整理ノ進行甚ダ遲緩ニシテ雷ニ交通量ノ增加ニ伴フ時代ノ要求ニ應スル能ハザルノミナラス既ニ改築ヲ了セルモノト未ダ了ラセサルモノト交互ニ凸凹錯綜シテ街路ノ美觀ハ更ナリ寧ロ其一般の效果ヲタモ認ムルニ由ナシ

此ニ於テカ市ハ之ガ進捗ヲ期スヘク大正六年度以降軒先切取ニ要スル見積費用ノ半額ヲ家屋所有者ニ補給シ緊急ヲ要スル部分ヨリ序ヲ追ヒテ幅員整理ヲ遂行スルニ決シ爾來之ガ實施ヲ續ケテ今日ニ至レリト雖モ固ヨリ此ノ方法タル豫メ繼續年度ヲ定メズ只年々普通經濟ノ餘力ニヨリ進行ヲ圖レルニ過キサルヲ以テ其結果ハ幾分整理ノ速度ヲ増加シ得タルニ止マリ未ダ満足ナル實績ヲ擧グルニ至ラス之レ特ニ都市計畫事業ノ一部トシテ舊市ノ全部ニ互リ迅速ニ軒先ノ切取整理ヲ決行セサル可カラサル所以ナリ

舊市ノ道路數ヲ侵セル建物坪數ハ自然改築ニ因リ絶ヘス異動スルヲ以テ正確ナル數字ヲ定メ難キモ大正九年度以後ニ於テ尙約七萬一千坪ヲ算セン故ニ本計畫ニ於テハ此內擴張路線ニ該當スヘキ部分並事業進行期間中ニ自然減少スヘキ推定坪數ヲ控除シ今後整理ヲ要スル面積ヲ六萬七千坪ト見做シ尙軒先切取ニ伴ヒ街角地ヲ買收スルモノトシ交通上緊急ヲ要スル部分ヨリ順次之ガ遂行ヲ期スベキナリ

第六章 路面ノ鋪裝

都市ノ街路ハ單ニ其路幅ノ擴大又ハ整理ノミヲ以テ其効用ヲ完ウシ得ヘキモノニ非ス路面ノ鋪裝ハ即之ト併セテ當然具備サルヘキ必須ノ要件ニシテ以テ始メテ其交通能率ヲ増スヘク其輸送費用ヲ節スヘク又以テ都市ノ體裁ヲ整ヘ市民ノ活動ニ便シ其衛生ニ利スヘク物質的ニ將タ精神的ニ其價值ノ甚深ナルコト敢テ多言ヲ用キスサレハ將來市内道路ノ新設又ハ擴張ニ方リテハ必然之ト附帶シテ鋪裝設備ニ出ツヘキハ勿論能フ可クムハ進シテ之ヲ全市ノ道路ニ普及シ且ツ速ニ其遂行ヲ斷セサル可カラス但シ市内道路ノ中ニアリテモ幅員三間未満ノモノノ如キハ其利用頗ル局限セラルルヲ以テ些シテ考慮ノ要ナク三間以上ノモノト雖モ其所在若ハ交通ノ關係ヨリシテ自ラ彼此利用ノ狀態ヲ異ニシ其間相當ニ緊急ノ差ヲ認メ得ヘキカ故ニ又必スシモ一舉ニ其全部ニ互リテ之ヲ實施スルニ當ラス乃チ先ツ市内主要路線ノ改良ヲ程度トシテ第一期鋪裝工事ノ範圍ヲ定メンニハ恐ラク左ノ標準ニ據ルヲ適度トセン

- 一 市區改正道路ノ全部
 - 二 路面電車敷設道路ノ全部
 - 三 舊市ニテハ幅員三間以上ノ道路全面積ノ約四分の一
 - 四 新市ニテハ道路全面積ノ約十分の一
 - 五 築港埋立地ニテハ幅員十間以上ノ道路及ヒ貿易地帯内ノ要路
- 是ニヨレハ市内ニ屬スル第一期鋪裝面積合計八十六萬六千坪ニシテ市内道路總面積百六十七萬三千三百坪ノ約五割ニ該リ略以テ全市ノ面目ヲ一新セシムルニ足ラムカ而シテ之ニ洩レタルモノハ第二期工事トシテ更ニ一般の普及ノ方途ニ出ツヘキヤ論ナシ路面鋪裝ノ工法ニ就テハ木塊、石塊、アスファルト、混凝土、ターマカダム、マカダム等ヲ以テスルノ一般ナルモ各優劣アリ宜敷街路ノ性質ニ見交通ノ狀態ニ察シテ路線毎ニ適當ニ之ヲ選定セサル可カラスト雖モ歐米ノ實績並ニ我國既往ノ經驗ニ徴セハ其間自ラ一定ノ標準トスヘキモノナカラス即チ交通頻繁ナルカ又ハ美觀ヲ主トスル街路ニアリテハ木塊鋪裝ノ最モ彈力性ニ富ミ且ツ頗ル耐久性アリ併セテ通行ニ快感ヲ與ヘ摩損ニ不均一ノ虞少キヲ採ルヘク獨リ其工費ノ不廉ナルヲ病ムモ其保存年限ト修繕費トヲ併セ較査センニハ又必スシモ然ラス更ニ木塊ノ形狀寸法等ニ就テ深ク拘泥スル所ナクハ恐ラク其利用ノ範圍ヲ相當大セシムルヲ得本市ノ一等乃至三等道路ノ如キハ宜敷此工法ヲ以テセサル可カラス次ニアスファルト鋪裝ニアリテハ歐米ニ於テ頗ル其利用ノ大ナルニ拘ラス我國既往ノ實績ヨリスレハ施工後數年ナラスシテ往々其彈力性ヲ失ヒ表面變質シテ脆弱爲スナキニ至ル此ノ如キハ之レ施工ノ不備ニ因ルカ將タ品質ノ劣惡ナルカ爲カ未ダ得テ辨セスト雖モ交通頻繁ノ街路ニハ寧ロ其使用ヲ避クヘク混凝土ターマカダム其他ノ鋪裝ト共ニ四等道路以下ニ於テ更ニ其比較ヲ重ヌヘキナラン獨リ石塊鋪裝ハ其實堅牢ニシテ持久ナルヲ以テ光熱ノ反射並ニ車馬ノ燥音ヲ忌ムヘシト雖モ荷馬車道トシテハ恐ラク最モ經濟的ナルヲ得ヘク殊ニ本市ニ於テハ其利用尠カラサルヘシ

第三章 大阪市區改正設計

鋪裝工事ノ遂行ニ方リテハ特ニ公私ノ理解ヲ得テ或程度マテ同時ニ地下並ニ路上工作物ノ整理ヲ遂ケサル可カラズ殊ニ新市...

第七章 河川及運河

我大阪市ハ流石ニ水ノ都ナリ五十餘ヲ數フル大小ノ河川運河ハ到ル所ニ市内ヲ貫流シテ齊シク水運ニ便セサルナク其總延長...

第三表 市内河川運河改修閉塞箇所調

Table with 4 columns: 新 (New), 改修 (Modification), 延長 (Length), 幅員 (Width). Lists rivers like 木場川, 今宮運河, etc.

Table with 4 columns: 改修 (Modification), 延長 (Length), 幅員 (Width), 經路 (Route). Lists rivers like 木場川, 堂島堀, etc.

第三章 大阪市區改正設計

一五	難波入堀川	四一九・七	平均	一〇・〇	浪芳橋ヨリ入船橋ニ至ル
一六	難波入堀川	二四〇・〇	同	七・三	入船橋ヨリ船出橋ニ至ル
一七	高津入堀川	一、〇五〇・〇	同	六・七	船出橋ヨリ星池橋上流ニ至ル間及道頓堀川ヨリ増井橋ニ至ル
一八	百間堀川	三九三・〇	同	一六・八	鷺島橋ヨリ江島橋ニ至ル
一九	古堀川	四八〇・四	同	八・〇	親和橋ヨリ國津橋ニ至ル
二〇	曾根崎川	六四九・六	同	九・〇	出入橋下流ヨリ堂島川ニ至ル
二一	長堀川	一、四一八・四	同	一九・〇	東横堀川ヨリ木津川ニ至ル
二二	鯉江川	一、五〇〇・〇	同	一四・〇	今福村ヨリ備前島橋ニ至ル
二三	十三間川	三、一〇〇・〇	同	九・〇	萬歳橋ヨリ大和川ニ至ル
二四	天滿堀川	一、〇五二・五	同	七・三	樋之口下ノ町地内ニテ淀川ヨリ分岐シ堂島川ニ至ル
二五	逆川	四九〇・〇	同	八・〇	安治川ヨリ六軒家川ニ至ル

(二) 堂島川土佐堀川其他ノ幹川

曩ニ内務省ノ淀川改修計畫ヲ以テスレハ天滿堀川ヨリ下流ノ堂島川及ヒ東横堀川以テ西ノ土佐堀川ニ於テ沿岸整理ノ餘地尙少ナカラサルニ拘ラス政府トシテハ之カ遂行ノ意圖ナキモノノ如ク爲ニ舊態依然トシテ河岸ノ亂雜不揃ヲ極ムルノミカ道路沿ノ部分ハ往々護岸ノ崩壊土砂ノ墜落ニ委シテ又顧ル所ナシ 本市ノ中樞地區トシテ殊ニ其美觀ヲ誇示スヘキ大河ニアリテ多年斯カル不體裁ヲ呈スルモノ能ク忍ブ可クムヤ宜敷クカ管理ヲ市ニ收メテ直ニ其整理ヲ決行セサル可ラス况ヤ整理ニ伴フ埋立地積一萬三千坪ハ以テ道路ノ擴張共同物揚場ノ増大ニ資スヘキノミナラス別ニ河岸地ヲ新設シテ好箇ノ一財源ヲラシムヘキヲヤ木津川ノ改修及ヒ之ニ伴フ沿岸ノ整理ノ如キ又齊シク其急務タルアリ中津川、傳法川ノ整理ニ伴フ埋立計畫ノ如キモ之ヲ都市計畫上ノ見地ヨリスレハ當然市ノ手ニ收メテ以テ郡部ニ跨ル市區改正事業ノ好資源ヲラシムヘク殊ニ安治川下流松ヶ鼻渡附近湊屋町石田町地先突出部約七千坪ヲ切取り其河幅ヲ百間以上ニ擴大シテ以テ水運ニ便シ海難頻出ノ危險ヲ除クノ費途ニ充ツヘク其對岸六軒家川トノ合流點ニ於ケル船先切取ノ如キモ亦斯カル財源ニ俟テテ初テ其實行ヲ期スヘシ

(三) 木場川

近來尼崎市カ工業地トシテ顯著ナル發達ヲ爲シテヨリ以來同市ヨリ傳法開門ヲ經テ本市ニ來往スル野舟ノ數著シク増加シ且ツ市ノ北方新淀川ニ沿ヘル長柄運河沿岸ノ一帶ノ地域カ工場地トシテ開發セラル、結果同運河ト安治川方面トノ水運亦特ニ矚目ニ値スルモノアリ而シテ之等ノ方面ト市ノ中心部トノ連絡ハ一ニ六軒家川若ハ逆川ヲ以テスルノ外ナク然モ前者ハ著シキ迂路トナリ後者ハ幅員甚シク狹小ニ失シ共ニ航行ノ不便ト混雜トヲ免レス加之將來正蓮寺川、傳法川ノ沿岸ノ一帶ノ發達ヲ以テセンニハ到底現狀ノ儘ニ放置スル能ハサルヲ以テ之ト適應スヘク木場川筋ヲ幅員十五間ニ擴張シ泉島ノ南端ニ近ク中津川ト連絡シテ水利ノ増進ヲ期スヘシ

(四) 今宮運河及難波入堀川

曩ニ市ノ西南郊開發ノ一要目トシテ其大要ヲ揭ケタル如ク天保山運河及ヒ千島町運河ニヨリ安治、尻無、木場ノ三川ヲ連絡スル水路ト相應シテ更ニ東ニ木津川左岸ノ小難堀ニ起リ今宮町ヲ經テ高津入堀川ニ通スル今宮運河ヲ開發シ進シテ高津入堀ノ一部並ニ難波入堀ヲ擴張シテ道頓堀川ニ達セシメンニハ一面以テ湊町驛トノ連絡ヲ保ツハ更ナリ其沿岸ノ一帶ニ工場地域ヲ開發シ併セテ高津入堀ノ疏通ヲ善クシ且ツ十三間川トノ連絡ヲ通スル等其利固ヨリ尋常ニ非ス水路ノ幅員ハ之ヲ十間乃至二十五間トスヘク其總延長約二千二百間タリ

(五) 堂島堀割

現在大阪驛構内ト堂島川トヲ連絡スル重要ノ水路トシテ鐵道貨物ノ水運ニ依ルモノ擧ケテ之ニ頼ラサルハ非ス然モ其幅員甚タ狹小ニシテ往々舟行ノ杜塞ヲ見ル况ヤ將來驛ノ擴張ニ伴ヒ又北方食料品卸賣市場ノ新設ヲ以テスヘキヤ宜敷鐵道院ト協力シテ能フ限リノ擴張ヲ期スヘク此延長二百五十間ニシテ少クモ二十間内外ノ幅員ヲ有セシメサル可カラズ

(六) 猫間川平野川及寢屋川

之ヲ本市東郊ノ開發ニ察シ更ニ其衛生的必要ニ鑑ミンニハ猫間、平野二川ノ改修ノ如キ頗ル其急務タルヲ見ル乃チ之ヲ寢屋川ノ浚深ト併セテ沿岸工場地區ノ發展ニ資センニハ以テ倍々其效果ヲ發揮スヘキ所以尙之ト同時ニ寢屋川尻ノ附替並ニ不用水面ノ埋立ヲ決行シテ之等河水ヲ適當ニ淀川本流ニ導キ能フ限リ市内枝川ヘノ混流ヲ避ケテ其汚濁ヲ輕減スルニ力メ併セテ有利ニ右ノ埋立地ヲ處分セサル可カラズ但シ事ヤ一市四郡ニ跨リ水利ノ關係上由來其解決ヲ難ンズルノ狀ナカラズト雖モ之ヲ都市經營ノ大局ヨリ打算シ來ランニハ疏水ト水運トヲ先ニセシテ此方面ノ開發サルヘキ機會寧ロ絶無ナルヘキヲ如何

(六) 市ノ西部方面ニ於ケル主要運河

木津、尻無、安治、正運寺ノ四大川ニ依リテ抱擁セラレ、地域内ノ運河ニ就テハ夙ニ民間各種ノ起業者ニ於テ相當ノ計畫ヲ立テ府市ノ協賛ヲ經テ逐次其遂行ニ任スルノミナラス此方面土地開發ノ手段トシテモ亦必然其實現ヲ期待シ得ヘキヲ以テ何等市ノ事業トシテハ新ニ此間ニ企畫スルノ必要ヲ認メズ其幹線ト目スヘキモノヲ掲ケテ配置ノ一般ヲ示シ併セテ其遂行ヲ律セン

第四表 西部方面運河表

名稱	延長	幅員	徑	路	企業者
安治川運河	一、三五〇	二五	天保山運河難波津橋ヨリ北走シ湊屋町地先ニテ安治川ニ合ス		安治川土地株式會社
市岡運河	一、一三〇	二〇	石田町ヨリ市岡町ニ至リ安治川尻無川ヲ連絡ス		同 市岡土地株式會社
千島運河	一、〇八〇	二五	新千歲町ヨリ千島町ニ至リ尻無川木津川ヲ連絡ス		千島土地株式會社
島屋町運河	八〇〇	二五	櫻島町島屋町地内ヲ貫キ安治川ヨリ正運寺川ニ通ス		住友 吉左衛門

第八章 築港ノ擴張

本市築港義務工事ノ完了ニ尙數年ヲ要スル今日直ニ其以上ノ擴張ヲ議センハ幾分尙早ノ感アルカ如キモ然モ事實ハ然ラス既ニ大阪港ノ眞價ニシテ着々一般ノ認ムル所トナリ且ツ年一年著シキ出入船舶ノ増加ト内外貿易額ノ激進トヲ見ルニ於テハ市ハ益々積極的ニ其施設ノ充實ト其規模ノ擴大トヲ策シテ飽迄大商工都市ノ活躍ヲ背景トスル水運上ノ大機關ヲ完成セシメザル可カラス殊ニ此方面ニ於ケル將來ノ計畫如何ハ西大阪全般ノ都市經營上第一ノ利害ヲ及ホスモノナルヲ以テ其細目ニ互ル施設如何ハ姑ク之ヲ措クモ豫メ大體ノ擴張方針ニ就テ備ヘサル能ハス

加之大阪港ノ港域ハ現ニ南北ノ二大防波堤ニヨリテ抱擁セラレル水面約二百七十七萬坪ヲ算スト雖モ此内大潮干潮平均水面以下二十九尺深ニ淺深セラレタル區域ハ僅ニ其四割約八十六萬坪ニ過キサルカ故ニ近來ノ如ク港内碇泊汽船數一日平均三十隻ヲ超ユ多キハ六十隻ニ上ルノ盛況ヲ以テシテハ最早當面ノ問題トシテ淺深水面ノ不足ヲ考慮セサル可カラス即チ市ハ當ニ其殘工

事タル二大突堤ノ完成ト及ヒ之ニ伴フ陸上附帶設備トノ充實ニ向ツテ銳意其力ヲ致スヘキノミナラス又別ニ港内大淺深ノ計畫シテ深水面積ノ増大ヲ期スヘク從テ該淺深土砂處分ノ關係ヨリスルモ今日豫メ港域ノ擴張ヲ企圖シテ一定ノ埋立地域ヲ劃シ以テ一面不用土砂利用ノ計ヲ立ツルト同時ニ他面將來ノ貯炭場、危險物置場ヲ始メ進テ一般の荷役ノ大設備ニ應スル素地ヲ構フルノ要アリ況ヤ又之ト同時ニ都市計畫上ノ考慮ヲ逸ス可カラサルモノトシテ北ニハ正運寺川ノ港内取込問題アリ南ニハ木津川取込問題アリ齊シテ其沿岸開發ノ見地ヨリシテ切實ニ之カ築港トノ直接連絡ヲ要望スルノ機運ニ會セルヲヤ

即チ北ニ正運寺川ニアリテハ本市北突堤ノ起點ニ近ク其一部ヲ切開キテ新航路ヲ通スルト共ニ之ト平行スル防波堤ヲ築キテ新淀川左岸ノ導流堤附近ニ達シ其所ニ副門ヲ開イテ尼崎市方面ヨリスル船舶ノ往來ニ便スルト共ニ航路ハ東方ニ彎曲シテ正運寺川ヲ溯リ以テ恩賞島橋下流ノ全部ヲ海運ニ開放セントスルニアリ其利ノ及フ處當ニ該河兩岸ノ廣大ナル地積ニ新生命ヲ附與スルノミニシテ止マラス新ニ尼崎市ト大阪港トノ間ニ安全ナル水運ノ捷路ヲ得テ相互ノ關係ヲ緊密ナラシムルハ固ヨリ爲ニ神崎川流域一體ノ經濟的活動ヲ促シ同時ニ本市トシテハ又右ノ新防波堤底護ノ下ニ櫻島堤外ノ水面約二十萬坪ヲ新埋立地並ニ帆船船溜トシテ活用シ能フノ便アリ又轉シテ南ニ木津川ニ見ルモ該河兩岸ノ利用既ニ今日ノ隆盛ヲ致セルニ方リテ依然之ヲ港外ニ委棄シ僅ニ幅員四十間ノ木津川運河ヲ以テスル外大船出入ノ自由ヲ附與セサルカ如キハ獨リ該河ノ價值ヲ半減スルノミナラス折角大規模ノ造船修船其他ノ工場地帯トシテ發展シ來レル該河下流ノ新生命ヲ無視スルニ等シ即チ宜敷内港防波堤ノ起點ニ近ク其一部ヲ切開キテ該河ヲ港内ニ取入レ一旦ハ之ニ代ユベキ新防波堤ヲ築キテ大和川トノ間ニ廣潤ナル船溜ヲ湛エ且ツソレヲ周ラスニ適當ナル埋立地ヲ以テシテ該河口ノ利用ヲ講スルト同時ニ順次全河ノ整理ト淺深トヲ進メテ船園場附近ニ潮ラシメシニハ其利ノ及フ處殆ト豫測ノ外ニアラン若シ夫レ稍遠キ將來ヲ想ヘハ更ニ此方面ニ一層大規模ノ埋立ト防波堤工事トヲ施シテ現在ノ南防波堤以外ニ廣潤ナル水面積ヲ拓スル理想の新港ヲ營ミ北ニ正運寺川方面ノ計畫ト對應シテ恰モ鵬翼ヲ張ルノ構ヘヲ立テ擧ゲテ自由ナル海陸連絡設備ニ供スルノ日アラン

要ハ其實現ノ遲速ヲ別トスルモ須ラク今後一切ノ沿海施設ヲシテ此豫定方針ニ則ラシメ公私ノ力ヲ合セテ着々其擴張ト整備トニ任セサル可カラス無論本市ノ實力ヲ以テセンニハ今日如是ノ期待カ直ニ明日ノ實行トナリテ現ハレンモノ之ヲ疑フノ餘地ナシト雖モ然モ民間往々ニシテ無謀ノ埋立計畫ヲ出願シ爲ニ築港經營ノ前途ヲ危カラシムルノ虞アルヲ以テ茲ニ都市計畫上豫メ大和川以北新淀川ニ至ル沿海設備ノ基本設計ヲ打定シ當然本市ノ手ニ其施設運用ヲ左右セズンハ非サルナリ

第二節 市區改正設計の決定及び變更

第一項 市區改正設計決定の經過

本市の市區改正設計は前節迄に記した如く、遠く明治中葉の市區改正方案取調委員會の調査成案に端を發し、其の後回を累ぬる調査を基本としてゐるが、その骨子となつたものは前掲市區改正部の細密な調査に基く設計案である。即ち、市區改正部においては、前節の如く大正八年十一月交通運輸系統整理に關する成案を得、之を市長に報告すると共に、更に市區改正委員會と協力して研究を進めた結果、前記の成案に基き實施すべき道路改良を目的とする「大阪市區改正設計」を樹て、市長名を以て内務省大阪市區改正委員會委員長内務次官小橋一太に進達、大正九年度以降に之を實施したき旨を上申したのである。此處に於て、委員長は本市の具申案を議題として第一回委員會を大正八年十二月十三日に召集、審議せしめることとした。此の委員會委員は左の通りであつた。

出席委員

- | | | | | |
|----------|--------|--------|--------|--------|
| (長) 小橋一太 | ○堀田 實 | ○酒井猪太郎 | ○近藤虎五郎 | 沼田嘉一郎 |
| 岡本英太郎 | ○吉津 度 | ○米田奈良吉 | 巖 又兵衛 | ○松本 修 |
| ○岡 胤 信 | ○石丸重美 | ○中井準太 | ○種谷喜兵衛 | 布目滿造 |
| ○本田友衛 | ○添田敬一郎 | 佐々木辰之進 | ○片岡 安 | ○多賀谷 陳 |
| ○林 市 藏 | ○二川茂助 | 潮 惠之輔 | 佐多愛彦 | ○和田榮太郎 |

○池上四郎
直木倫太郎

○前野芳造

佐野利器

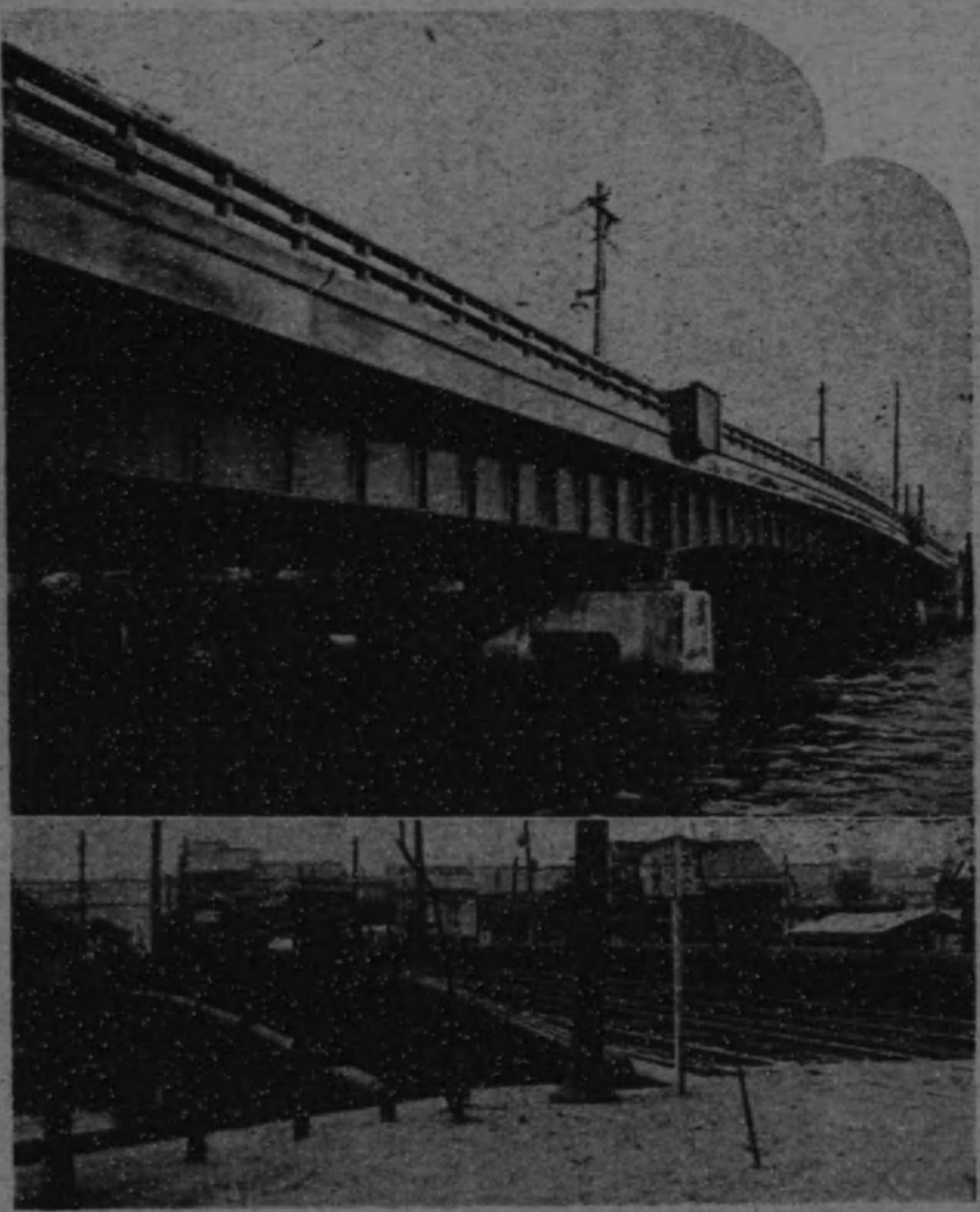
増田種松

池田 宏

(本出席委員中○印ヲ附シタルハ、特別調査委員ニ委員長ヨリ選定セラレタルモノナリ)

而して同委員會に於ては、特別調査委員を選定して之に細目の審議を託することとなつたので、委員長は前表中○印の十九名を之に選任、特別委員會を組織した。仍て特別調査委員會は委員長に石丸重美氏を、副委員長に添田敬一郎氏を互選して同日直ちに第一回會議を開催、爾後二回の會議を経て一應討論を終結し、十二月十七日の第二回大阪市區改正委員會に特別調査委員長からその經過を述べ修正案を提出したのである。

市區改正委員會に於ては本報告の通り之を承認



橋梁の(下)前案と(上)後案

し、修正案を内務大臣に具申した。特別調査委員長の報告及び具申案は左の通りである。

―前 略―

○十七番 (添田徹一郎君) 唯今御報告ニナリマシタル第二號議案ノ特別委員會ノ經過及ビ其ノ結果ノ御報告ヲ致シマス。特別委員會ハ去ル十三日、十五日及ビ十六日ノ三日間ニ亙リマシテ會議ヲ開キマシテ、各委員トモ御捕ヒノ上デ慎重ニ審議ヲシマシタ結果、御手許ニ差上ゲテアル通りニ修正ノ上デ可決ヲシタノデアリマス。其ノ修正シタ點ハ非常ニ廉ガ多ウゴザイマスカラ、唯大體ノ事ヲ御報告申上ゲマシテ、詳細ノ點ニ付テハ尙ホ御質問デモアレバ御答スルヤウニ致シタイト思ヒマス。尙ホ此ノ修正決議ニ併セマシテ特別委員會ニ於テ希望ヲ併セテ決議致シテ置キマシタカラ、其ノ點ヲ特ニ先キニ御報告申上ゲタイト思ヒマス。ソレハ原案ノ一等大路第三類ノ第九號、即チ湊町停車場ノ北端ノ方ヲ通ズル道路デアリマス。ソレトソレカラ二等大路第一類ノ第三號線ノ中デ、難波及ビ三軒家地内ノ計畫線ハ、近ク鐵道院ニ於キマシテ湊町停車場改築ノ議ガアリマスカラ、其ノ設計ノ確立マデ是ガ議定ヲ延期ヲ致シタイ、併ナガラ此ノ路線ハ街路ノ系統上尙ニ適當ナル設計デアリマスカラ、鐵道院ニ於キマシテモ充分ニ其ノ趣旨ニ依ツテ停車場改築ノ設計ヲ立テラレンコトヲ希望スルノデアリマス。丁度委員會ニ於テハ鐵道院ノ當局モ御列席デアリマシテ、出來得ル限り此ノ趣旨ニ則ツテ設計ヲシテ見ヤウ―斯ウ云フ御話デアリマシタカラ、今回ノ計畫ノ内カラハ除イテ置キマスケレドモ、成ベク速ニ鐵道院デ設計ヲ確立セラレマシテ、此ノ路線ノ計畫ガ行ハレルヤウニ致シタイ、而シテ若シ鐵道院ノ御設計ガ確立致シマシテ、強イテ此ノ路線ヲ動カス必要ガナイト云フコトデアリマスレバ、直ニ委員長ニ於テ此ノ設計ヲ前ノ原案通りニ追加セラレンコトヲ望ムト云フコトデアリマス。サウシテ鐵道院ニハサウ云フ意味ニ於テ停車場改築ノ設計ヲセラレタイト云フコトヲ本會ヨリ建議ヲ致シタイ、斯ウ云フノデアリマス。ソレカラ各路線ノ修正ヲシマシタ主ナル點ハ、第一ニ一等大路第二類ノ築港カラ參ル路線ヲ、端建藏橋ヨリ延長致シマシテ、肥後橋カラ北ニ曲ツテ梅田停車場前ニ出ルト云フ線ヲ追加シタノデアリマス。此ノ道路ハ最モ幅狭ヲ極メル所ノ道デアリマシテ、殊ニ今回ハ梅田ノ停車場ヨリ難波ニ至リマスル廣路ハ出來マスケレドモ東西ヲ貫通スル所ノ路線ガ途中デ切レテ居ルト云フヤウナコトモ、非常ニ遺憾デアリマスカラ、此ノ築港ニ至ル線ヲ梅田ノ停車場マデ延長スルト云フ意味合ニ於キマシテ、十六間幅デ計畫ノ中ニ入レルト云フコトニナツタノデアリマス。ソ

レト同時ニ廣路ニ直角ヲ成シテ居リマス土佐堀川南岸ノ既成線路ヲ西ニ延長致シマシテ、一等大路第三類ノ十一號線トシテ、十二間幅デ今ノ一等大路第二類ノ第一號線ニ肥後橋ノ南詰ニ於テ合スルト云フ線ヲ追加致シマシタ。ソレカライマツ主ナル點デアラウト思ヒマスノハ一等大路第三類ノ三號線、四號線ノ新淀川以北ノ線ソレカラ南ノ方ニ於キマシテモ、郡部ニ入ツテ居ルヤウナ線ガ五六本アリマス。ソレハ將來ノ都市計畫トシテハ適當ナ計畫ノヤウニ思ハレマスケレドモ、非常ニ郡部ノ方ニ入ツテ居リマスカラ、殊ニ都市計畫ノ區域ガ未ダ決定ヲ致シテ居ラヌ今日デアリマスカラ、成ベクハ餘リニ郡部ニ立入ルト云フコトハ、此ノ際ダケハ見合セテ置イタ方ガ宜カラウ。追ツテ都市計畫ノ區域ノ確定ノ上デ之ニ伴フ適當ナ計畫ヲ立テタナラバ宜シカラウ。殊ニ都市計畫法ノ施行ト共ニ、明年ヨリ地方委員會モ出來ルコトデアリマスカラ、是等ノ點ハ能ク大阪府並ニ大阪府ナリ、或ハ郡部ノ當局ナドガ寄ツテ適當ナル計畫ヲ立テラレタ方ガ穩カデアラウ。斯ウ云フ意味ニ於キマシテ、此ノ修正ノ通りニ總テ途中ノ適當ナル場所デ切ルコトニ致シタノデアリマス。唯天神橋カラ吹田ニ至ル道路ハ、現在大阪ノ水道ノ水源地ガアリマシテ、此處ニハ常ニ交通モ盛ンデアリマスカラ、此ノ線ハ新淀川ヲ渡ツテ水源地ノ附近ニ於テノ適當ナル地點マデ此ノ際ニ計畫シテ置カウ。ソレカラ天王寺田町カラ平野町通リニ至ル線路ハ、是モ郡部ニ達スル道デアリマスケレドモ、此ノ道ハ既ニ大阪府ニ於テ設計ヲ立テラレテ、目下府會ニ提案中デアルサウデアリマス。唯路幅ガ九間ト云フコトデ出テ居リマシテ、此ノ計畫ハ十間デアリマスケレドモ、十間トシテ定メテ置イテモ施行上ニハ差支ナイグラウト云フノデ此ノ二線ダケハ郡部ニ亙ツテ計畫ヲ立テルト云フコトニ決定ヲ致シタノデアリマス。大體委員會ノ修正ノ主ナルモノハ以上ノ通りデアリマス。其ノ他ハ此ノ修正案ニアリマス通り湊山修正ガアリマスケレドモ、或ハ原案ノ道路ノ幅員ヲ十間トアルノヲ十二間ニシタリ、或ハ起點終點ノ違ツタ關係上文字ガ違ツタリスルヤウナ點デアリマスカラ、御質問ガアレバ御答スルコトニ致シタイト思ヒマス。大體以上ノ通りデアリマス。

○委員長 (小橋一太君) 特別委員長ノ報告ニ對シテ御質問ヲ願ヒマス。

(「異議ナシ」ト呼ブ者アリ)

○四番 (沼田嘉一郎君) 格別御質問モ無イヤウニ思ヒマスカラ、私ハ委員長ノ報告ヲ異議ナク決シタイト思ヒマス。

(「異議ナシ」ト呼ブ者アリ)

○委員長（小橋一太君）ソレデハ採決致シマス。唯今特別委員長ノ報告ニ依ル修正案ニ於テ御異議ナイモノト認メテ宜シウ
ゴザイマスカ。

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○委員長（小橋一太君）ソレデハ左様決定致シマス。

尙ホ特別委員長ノ報告ノ中ニ、當市區改正委員會ヨリ内閣總理大臣並ニ内務大臣ニ對シテ、停車場ノ問題ニ就テ希望ヲ附
ケタイト云フコトデアリマス。是モ全會一致デアレバ其ノヤウニ取計ヒタイト思ヒマスガ……。

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○委員長（小橋一太君）ソレデハ左様取計ヒマス。

大議第二號

大阪市區改正設計議定ノ件

大阪市區改正設計ノ件ニ付左ノ如ク内務大臣ニ具申セムトス

具申案

大阪市ニ對シ東京市區改正條例ヲ準用セラル、ヤ熟ラ同市興隆發展ノ情勢ニ稽ヘ永久ニ且ル市民ノ安寧ト福利ヲ目的トシ交通
衛生保安及經濟等ニ關スル各方面ノ重要施設ノ計畫ヲ確立セムトシテ鋭意調査ヲ遂クルニ較近同市ノ内外ニ於ケル發展ノ
急激ナル先以テ交通運輸ノ系統ヲ整正スルノ方針ヲ備フルニ非サレハ一切ノ都市計畫ヲ確立スル能ハス。依テ茲ニ其ノ基本計
畫トシテ街路ノ設計ヲ定メテ速ニ之ヲ實施セムト欲シ慎重調査ノ結果別紙圖書ノ通り大阪市區改正設計ノ議定ヲ經タリ。冀ク
ハ速ニ採納アラントシテ
右具申候也

大正 年 月 日

委員長

内務大臣宛

大阪市區改正設計

街路ノ部

第一 街路ノ等級幅員及構造ハ左ノ標準ニ依ル

一 廣路 幅員二十四間以上

第一類 幅員二十間以上

第二類 幅員十六間以上

第三類 幅員十二間以上

三 二等大路ハ左ノ二類トス

第一類 幅員十間以上

第二類 幅員六間以上

二等大路以上其ノ他必要ナル街路ニハ舗裝工事ヲ施行ス

第二 橋梁ノ幅員及構造ハ左ノ標準ニ依ル

一 長サ三十間未満ノ橋梁ノ幅員ハ街路幅員ト同一トス、但シ交通ノ情勢ニヨリ街路幅員ノ十分ノ八迄トナスコトヲ得

二 長サ三十間以上ノ橋梁ノ幅員ハ街路幅員ノ三分ノ二迄短縮スルコトヲ得、但シ二等大路第一類線ニ在リテハ八間ヲ下ル
コトヲ得ス

三 橋梁ノ主要部ハ鐵、石、鐵筋「コンクリート」等不燃質耐久材料ヲ以テ築造スルモノトス

四 假設橋梁ニ付テハ大阪市區改正委員會ノ議ヲ經テ前各號ニ依ラサルコトヲ得

第三 二等大路第一類以上ノ街路ニハ複線軌道ヲ敷設スルモノトス

二等大路第二類ノ街路ニ在リテハ單線軌道ヲ敷設スルコトヲ得

第四 設計ノ實施ニ方リ測量ノ結果其ノ設計ニ些少ノ異動ヲ生スル場合ハ大阪市區改正委員會ノ議定ニ依リ之ヲ變更シタルモ
ノヲ以テ本設計ト看做ス

第五 街路ノ新設及擴張並其ノ位置及幅員左ノ如シ

一 廣 路

一 大阪驛前北野角田町三百四十九番地ノ一ヨリ大江橋、淀屋橋並長堀川及道頓堀川ノ各新橋梁ヲ經テ難波驛前難波新地五番町五十三番地ノ一ニ至ルノ路線 幅員 二十四間

二 一 等 大 路 ノ 部

第 二 類

一 九條通一丁目七百三番地ノ一ヨリ本田町ヲ經テ端藏橋南詰木津川新橋梁及江戸堀北通二丁目ヲ經テ肥後橋南詰ニ至リ北折シ肥後橋及渡邊橋ヲ經テ東梅田町三百十四番地ノ一ニ至ルノ路線 幅員 十六間

二 難波新地三番町四十五番地ノ一ニ於テ廣路第一號線ヨリ分岐シ賑橋西詰ニ至ルノ路線 幅員 十六間

第 三 類

一 肥後橋南詰ニ於テ一 等 大 路 第 二 類 第 一 號 線 ヨリ分岐シ西長堀橋及深里橋ヲ經テ賑橋西詰ニ於テ一 等 大 路 第 二 類 第 二 號 線 終 點 卜 接 續 シ 市 場 橋 ヲ 經 テ 宮 津 町 三 百 五 十 六 番 地 ノ 一 ニ 至 ル ノ 路 線 幅員 十三間

二 鳴尾町二番地ノ一ヨリ天神橋及松屋町筋ヲ經テ天王寺邊坂下之町三番地先ニ至ルノ路線 幅員 十三間

三 上福島中五丁目十四番地ヨリ西野田茶園町ヲ經テ鷺洲町海老江三百二番地ノ八ニ至ルノ路線 幅員 十二間

四 大阪驛前曾根崎中二丁目二百番地ノ三地先ヨリ北野大深町及北野牛丸町ヲ經テ中津町下三番百十九番地ノ二ニ至リ西折シ十三橋南詰ニ至ルノ路線 幅員 十二間

五 堂島大橋南詰ヨリ上福島及鷺洲町ヲ經テ中津町下三番四百三十五番地ノ四ニ於テ前號路線ニ接續スルノ路線 幅員 十二間

六 谷町三丁目三十四番地ノ一ヨリ森ノ宮東之町四百六十一番地先ニ至ルノ路線 幅員 十二間

七 上本町六丁目百六十五番地ノ一ヨリ下味原町八十二番地ノ四地先ニ至ルノ路線 幅員 十二間

八 難波河原町二丁目千五百八番地ノ一ヨリ日本橋筋三丁目ニ至リ南折シ惠美須町二丁目四十三番地ノ三地先ニ至ルノ路線 幅員 十二間

九 市岡町五百四十八番地ノ一ヨリ北福崎町三橋入堀新橋梁ヲ經テ出崎町一丁目八番地地先ニ至ルノ路線 幅員 十二間

十 一 等 大 路 第 三 類 第 一 號 線 終 點 ヲ 今 宮 町 ヲ 經 テ 住 吉 公 園 ニ 至 ル ノ 路 線 幅員 十二間

十一 肥後橋南詰ニ於テ一 等 大 路 第 二 類 第 一 號 線 ヨリ分岐シ西園橋ヲ經テ淀屋橋南詰ニ於テ廣路第一號線ニ接續スルノ路線 幅員 十二間

十二 上本町二丁目三番地ノ一ヨリ谷町六丁目ヲ經テ西園町二十一番地地先ニ至リ曲折シ末吉橋ヲ經テ長堀川北岸ニ沿ヒ伯樂橋西詰ニ於テ南折シ松島町二丁目十八番地地先ニ至ルノ路線 幅員 十二間

十三 一 等 大 路 第 三 類 第 二 號 線 終 點 ヲ 天 王 寺 西 門 前 邊 坂 上 之 町 三 千 六 百 七 十 二 番 地 ノ 一 地 先 ニ 於 テ 二 等 大 路 第 一 類 第 五 號 線 ニ 接 續 ス ル ノ 路 線 幅員 十二間

十四 天神橋筋六丁目七百十五番地ヨリ長柄橋南詰ニ至ルノ路線 幅員 十二間

三 二 等 大 路 ノ 部

第 一 類

一 廣路第一號線起點ヨリ天滿橋筋四丁目ニ至リ南折シ天滿橋ヲ經テ谷町六丁目五十番地ノ一地點ニ於テ前號路線ニ接續スルノ路線 幅員 十一間

二 三軒家上之町六十四番地ノ三ヨリ泉尾町、尻無川渡船場及市岡町ヲ經テ南安治川通三丁目五十二番地ニ至ルノ路線 幅員 十一間

三 泉尾町四十九番地ノ十六ニ於テ前號路線ヨリ分岐シ新千歲町百二十六番地ニ至ルノ路線 幅員 十一間

四 木津北島町一丁目五番地地先ヨリ津守村ヲ經テ敷津村加賀屋三百五十二番地地先ニ至ルノ路線 幅員 十一間

五 京橋一丁目一番地地先ヨリ上本町二丁目ヲ經テ同町九丁目ニ至リ西折シ推寺町ニ至リ南折シ天王寺村阿倍野二千六百十三番地ノ一ニ至ルノ路線 幅員 十 間

六 北安治川通三丁目四百八十二番地地先ヨリ春日出橋、正運寺川、傳法川ヲ經テ新淀川左岸北傳法町四丁目百四十四番地ノ四ニ至ルノ路線 幅員 十 間

七 西野田茶園町七百七十一番地ノ二ニ於テ一 等 大 路 第 三 類 第 三 號 線 ヨリ分岐シ中津川及傳法川ノ各新橋梁並神島村ヲ

- 經テ常吉町二十一番地ニ至ルノ路線
幅員 十 間
- 八 一等大路第三類第十四號終點ヨリ長柄橋ヲ經テ西中島村柴島三十四番地ニ至ルノ路線
幅員 十 間
- 九 善源寺町二十五番地ヨリ榎並町野江字渡守三百二十七番地ノ一ニ至ルノ路線
幅員 十 間
- 十 東雲町一丁目七十八番地地先ヨリ森之宮東之町及鯉江町蒲生ヲ經テ榎並町野江字渡守三百二十七番地ノ一ニ於テ前號路線ニ接続スルノ路線
幅員 十 間
- 十一 空心中二丁目十四番地ノ一ニ於テ二等大路第一類第一號線ヨリ分岐シ淀川新橋梁及東野田町ヲ經テ鯉江町蒲生字鎌田二百七十六番地ニ至ルノ路線
幅員 十 間
- 十二 上本町五丁目百四十六番地地先ニ於テ二等大路第一類第五號線ヨリ分岐シ天王寺勝山通ヲ經テ鶴橋町猪飼野字大池百五十五番地ノ二地先ニ至ルノ路線
幅員 十 間
- 十三 天王寺寺田町三千五百五十一番地ヨリ北百濟村ヲ經テ平野郷町平野泥堂字堀ノ角三百八十三番地地先ニ至ルノ路線
幅員 十 間
- 十四 一等大路第三類第一號線終點ヨリ南霞町九百七十八番地ノ一地先ニ至ルノ路線
幅員 十 間
- 十五 木津川東岸津守村南島三百九十七番地ヨリ天王寺村及田邊村ヲ經テ平野郷町平野泥堂字堀ノ角三百八十三番地ニ於テ二等大路第一類第十三號線ニ接続スルノ路線
幅員 十 間
- 十六 東野田町二百十番地ノ三ニ於テ二等大路第一類第十一號線ヨリ分岐シ中野町ヲ經テ澤上江町三百四番地ノ一地先ニ至ルノ路線
幅員 十 間
- 十七 二等大路第一類第十號線起點ヨリ中本町ヲ經テ神路村大今里七百三十五番地ニ至ルノ路線
幅員 十 間
- 十八 一等大路第三類第七號線終點ヨリ神路村大今里六百四十四番地ニ於テ前號路線ニ接続スルノ路線
幅員 十 間
- 十九 鯉江町蒲生字鎌田二百七十六番地地先ニ於テ二等大路第一類第十一號線終點ヨリ中本町、神路村及鶴橋町ヲ經テ百濟村新在家四百八十七番地ニ於テ二等大路第一類第十三號線ニ接続スルノ路線
幅員 十 間
- 二十 粉濱村北溝筋六百三十一番地ノ二ニ於テ一等大路第三類第十號線ヨリ分岐シ敷津村柴谷ニ至ルノ路線
幅員 十 間

第二類

- 一 梅田橋北詰ヨリ會根崎川及安治川ノ北岸ニ沿ヒ二等大路第一類第七號線起點ニ接続スルノ路線
幅員 八 間
- 二 今宮町水渡六百二十二番地ノ一ニ於テ一等大路第三類第十號線ヨリ分岐シ木津川落合上渡船場、千島町、泉尾町尻無川甚兵衛渡船場、北福崎町、三橋入堀新橋梁並安治川松ヶ鼻及正蓮寺川各渡船場ヲ經テ西島町二百二十三番地ニ於テ二等大路第一類第八號線ニ接続スルノ路線
幅員 八 間
- 三 阪神電鐵北大阪線鷺洲村海老江百六十七番地ノ一ヨリ同町八百八十三番地ノ五ニ於テ一等大路第三類第三號線ニ接続スルノ路線
幅員 八 間
- 四 江戸堀上通二丁目二十五番地ニ於テ一等大路第二類第一號線ヨリ分岐シ筑前橋、田箕橋及梅田橋ヲ經テ中津町下三番二百三十七番地ニ於テ一等大路第三類第四號線ニ接続スルノ路線
幅員 八 間
- 但シ二等大路第二類第一號線起點ヨリ西梅田町三百九十五番地ニ至ル區間幅員十二間トス
- 五 本田三番町十七番地地先ヨリ九條町辰巳橋、市岡町及田中町ヲ經テ七條通一丁目三番地地先ニ至ルノ路線
幅員 八 間
- 六 南恩加島町十八番地ヨリ木津川千本松渡船場ニ至ルノ路線
幅員 八 間
- 七 二等大路第一類第三號線終點ヨリ千歲町四十一番地地先ニ至リ曲折シ木津川西岸平尾町五十五番地地先ニ至ルノ路線
幅員 八 間
- 八 新千歲町四十一番地地先ニ於テ前號路線ヨリ分岐シ鶴町三丁目ニ至ルノ路線
幅員 八 間
- 九 小林町百七十五番地地先ヨリ木津川西岸千島町二百五十六番地ノ一ニ至ルノ路線
幅員 八 間
- 十 千島町二十五番地地先ニ於テ二等大路第二類第二號線ヨリ分岐シ木津川ニ並行シ平尾町四十四番地地先ニ於テ二等大路第二類第七號線ニ接続スルノ路線
幅員 八 間

第六 在來ノ街路ニシテ既定ノ幅員ニ滿タサルモノハ之ヲ整理シ既定ノ幅員ト爲スモノトス
(圖面省略)

斯くて内務大臣は曩に大阪市區改正委員會委員長の具申した大阪市區改正設計を決定し、十二月二十三日付を以て之が公告に關し大阪市長に左の通り訓令した。茲に於て市は翌年一月二十一日付市告示第一號を以て公告、過去幾十年に亘る調査はいよいよ結實したこと

となり、第一次都市計畫事業の骨子たるべき基本計畫は確立されたわけである。
 大阪市區改正設計は都市計畫法第三條及び第三十條による内閣の認可を受けた都市計畫事業に該當するものと認められてゐた。之によつて計畫地區内の建物及び土地に關し、その工事又は権利の制限が事業並に取扱はれてゐたのである。然し乍ら之に對して同法に定むるところの、毎年度執行すべき都市計畫事業は未だ定められておらず、之に付ては別に決定する必要があつたのである。その經費においても、本設計のための參考として算出せられてゐた概算額は別表の如く、直接事業費のみにて一億二千九百餘萬圓に上るものであつたから、之等事業の全部に付き年度割を定めることは市財政の状況から見ても到底許さるべくもなかつたわけである。仍て差當り本設計の中急施を要する部分に對してのみ年度割を決定するを得策とし、第一期事業として定められることとなつたのが此の第一次都市計畫事業である。

第一次都市計畫事業決定の経緯については章を更めて詳記する。

内務省訓令第八五七號

大阪府 大阪市長

大阪市區改正設計別紙圖面ノ通り内閣ノ認可ヲ得タルニ付之ヲ公告スベシ

右訓令ス

大正八年十二月二十三日

内務大臣 床次竹二郎

「別紙圖面省略」

大阪市告示第一號

大正八年十二月内務省訓令第八五七號ニ依リ大阪市區改正設計左ノ通之ヲ告示ス
 但シ市區改正設計圖ハ本市役所ニ備置ク

大正九年一月二十一日

大阪市長 池上四郎

大阪市區改正設計

街路ノ部

- 第一 街路ノ等級、幅員及構造ハ左ノ標準ニ依ル
 - 一 廣路 幅員二十四間以上
 - 二 一等大路ハ左ノ三類トス
 - 第一類 幅員二十間以上
 - 第二類 幅員十六間以上
 - 第三類 幅員十二間以上
 - 三 二等大路ハ左ノ二類トス
 - 第一類 幅員十間以上
 - 第二類 幅員六間以上
- 二等大路以上其ノ他必要ナル街路ニハ舗裝工事ヲ施行ス
- 第二 橋梁ノ幅員及構造ハ左ノ標準ニ依ル
 - 一 長三十間未満ノ橋梁ノ幅員ハ街路幅員ト同一トス但シ交通ノ情勢ニ依リ街路幅員ノ十分ノ八迄トナスコトヲ得
 - 二 長三十間以上ノ橋梁ノ幅員ハ街路幅員ノ三分ノ二迄短縮スルコトヲ得 但シ二等大路第一類線ニ在リテハ八間ヲ下ルコトヲ得ズ

- 三 橋梁ノ主要部ハ鐵、石、鐵筋「コンクリート」等不燃質耐久材料ヲ以テ築造スルモノトス
- 四 假設橋梁ニ付テハ大阪市區改正委員會ノ議ヲ經テ前各號ニ依ラサルコトヲ得
- ×第三 二等大路第一類以上ノ街路ニ非サレハ複線軌道ヲ敷設スルコトヲ得
- 第四 設計ノ實施ニ方リ測量ノ結果其ノ設計ニ些少ノ異動ヲ生スル場合ハ大阪市區改正委員會ノ議定ニ依リ之ヲ變更シタルモノヲ以テ本設計ト看做ス
- 第五 街路ノ新設及擴張並其ノ位置及幅員左ノ如シ

一 廣 路

- 一 大阪驛前北野角田町三百四十九番地ノ一ヨリ大江橋、淀屋橋並長堀川及道頓堀川ノ各新橋梁ヲ經テ難波驛前難波新地五番町五十三番地ノ一ニ至ルノ路線
幅員 二十四間

二 一等大路ノ部

第二類

- 一 九條通一丁目七百三番地ノ一ヨリ本田町、端藏橋南詰、木津川新橋梁及江戸堀北通二丁目ヲ經テ肥後橋南詰ニ至リ北折シ肥後橋及渡邊橋ヲ經テ東梅田町三百十四番地ノ一ニ至ルノ路線
幅員 十六間
- 二 難波新地三番町四十五番地ノ一ニ於テ廣路第一號線ヨリ分岐シ賑橋西詰ニ至ルノ路線
幅員 十六間

第三類

- 一 肥後橋南詰ニ於テ一等大路第二類第一號線ヨリ分岐シ西長堀橋及深里橋ヲ經テ一等大路第二類第二號線終點ト接続シ市場橋ヲ經テ宮津町三百五十六番地ノ一ニ至ルノ路線
幅員 十三間
- 二 鳴尾町二番地ノ一ヨリ天神橋及松屋町筋ヲ經テ天王寺逢坂下之町三番地地先ニ至ルノ路線
幅員 十三間
- 三 上福島中五丁目十四番地ヨリ西野田茶園町ヲ經テ鷺洲町海老江三百二番地ノ八ニ至ルノ路線
幅員 十二間
- 四 大阪驛前會根崎中二丁目二百番地ノ三地先ヨリ北野大深町及北野牛丸町ヲ經テ中津町下三番百十九番地ノ二ニ至リ西折シ十三橋南詰ニ至ルノ路線
幅員 十二間
- 五 堂島大橋南詰ヨリ上福島及鷺洲町ヲ經テ中津町下三番四百三十五番地ノ四ニ於テ前號路線ニ接続スルノ路線

- 六 谷町三丁目三十四番地ノ一ヨリ森ノ宮東之町四百六十一番地地先ニ至ルノ路線
幅員 十二間
 - 七 上本町六丁目百六十五番地ノ一ヨリ味原町八十二番地ノ四地先ニ至ルノ路線
幅員 十二間
 - 八 難波河原町二丁目千五百八番地ノ一ヨリ日本橋筋三丁目ニ至リ南折シ惠美須町二丁目四十三番地地先ニ至ルノ路線
幅員 十二間
 - 九 市岡町五百四十八番地ノ一ヨリ北福崎町、三種入堀新橋梁ヲ經テ出崎町一丁目八番地地先ニ至ルノ路線
幅員 十二間
 - 十 一等大路第三類第一號線終點ヨリ今宮町ヲ經テ住吉公園ニ至ルノ路線
幅員 十二間
 - 十一 肥後橋南詰ニ於テ一等大路第二類第一號線ヨリ分岐シ西國橋ヲ經テ淀屋橋南詰ニ於テ廣路第一號線ニ接続スルノ路線
幅員 十二間
 - 十二 上本町二丁目三番地ノ一ヨリ谷町六丁目ヲ經テ西賑町二十一番地地先ニ至リ曲折シ末吉橋ヲ經テ長堀川北岸ニ沿ヒ伯樂橋西詰ニ至リ南折シ松島町二丁目十八番地地先ニ至ルノ路線
幅員 十二間
 - 十三 一等大路第三類第二號線終點ヨリ天王寺西門前逢坂上之町三千六百七十二番地ノ一地先ニ至ルノ路線
幅員 十二間
 - 十四 天神橋筋六丁目七百十五番地ヨリ長柄橋南詰ニ至ルノ路線
幅員 十二間
- 三 二等大路ノ部
- 第一類
- ×一 廣路第一號線起點ヨリ天滿橋筋四丁目ニ至リ南折シ天滿橋ヲ經テ谷町六丁目五番地ノ一地先ニ於テ一等大路第三類第十二號線ニ接続スルノ路線
幅員 十一間
 - 二 三軒家上之町六十四番地ノ三ヨリ泉尾町尻無川渡船場及市岡町ヲ經テ南安治川通三丁目五十一番地ニ至ルノ路線
幅員 十一間
 - 三 泉尾町四十九番地ノ十六ニ於テ前號路線ヨリ分岐シ新千歲町百二十六番地ニ至ルノ路線
幅員 十一間
 - 四 木津北島町一丁目五番地先ヨリ津守村ヲ經テ敷津村加賀屋三百五十二番地地先ニ至ルノ路線
幅員 十一間

- 五 京橋一丁目一番地地先ヨリ上本町二丁目ヲ經テ同町九丁目ニ至リ西折シ惟寺町ニ至リ南折シ天王寺村阿倍野二千六百三十三番地ノ一ニ至ルノ路線 幅員 十 間
 - ×六 北安治川通三丁目四百八十二番地地先ヨリ春日出橋並正蓮寺川及傳法川ノ各新橋梁ヲ經テ新淀川左岸北傳法町四丁目四百四十四番地ノ四ニ至ルノ路線 幅員 十 間
 - 七 西野田茶園町七百七十一番地ノ二ニ於テ一等大路第三類第三號線ヨリ分岐シ中津川及傳法川ノ各新橋梁並稗島村ヲ經テ常吉町二十一番地ニ至ルノ路線 幅員 十 間
 - 八 一等大路第三類第十四號線終點ヨリ長柄橋ヲ經テ西中島村柴島三十四番地ニ至ルノ路線 幅員 十 間
 - 九 善源寺町二十五番地ヨリ榎並町野江字渡守三百二十七番地ノ一ニ至ルノ路線 幅員 十 間
 - ×十 東雲町一丁目七十八番地地先ヨリ森之宮東之町及鯉江町蒲生ヲ經テ前號路線終點ニ接続スルノ路線 幅員 十 間
 - 十一 空心町二丁目十四番地ノ一ニ於テ二等大路第一類第一號線ヨリ分岐シ淀川新橋梁及東野田町ヲ經テ鯉江町蒲生字録田二百七十六番地ニ至ルノ路線 幅員 十 間
 - 十二 上本町九丁目四百四十六番地地先ニ於テ二等大路第一類第五號線ヨリ分岐シ天王寺勝山通ヲ經テ鶴橋町猪飼野字大池百五十五番地ノ二地先ニ至ルノ路線 幅員 十 間
 - 十三 天王寺寺田町三千五百五十一番地ヨリ北百濟村ヲ經テ平野郷町平野泥堂字堀ノ角三百八十二番地地先ニ至ルノ路線 幅員 十 間
 - 十四 一等大路第三類第一號線終點ヨリ南霞町九百七十八番地ノ一地先ニ至ルノ路線 幅員 十 間
 - 十五 木津川東岸津守村南島三百九十七番地ヨリ天王寺村及田邊村ヲ經テ平野郷町平野泥堂字堀ノ角三百八十三番地ニ於テ二等大路第一類第十三號線ニ接続スルノ路線 幅員 十 間
 - 十六 東野田二百十番地ノ三ニ於テ二等大路第一類第十一號線ヨリ分岐シ中野町ヲ經テ澤上江町三百四番地ノ一地先ニ至ルノ路線 幅員 十 間
 - 十七 二等大路第一類第十號線起點ヨリ中本町ヲ經テ神路村大今里七百三十五番地ニ至ルノ路線 幅員 十 間
 - ×十八 一等大路第三類第七號線終點ヨリ鶴橋町ヲ經テ前號路線終點ニ接続スルノ路線 幅員 十 間
 - ×十九 二等大路第一類第十一號線終點ヨリ中本町、神路村及鶴橋町ヲ經テ北百濟村新在家四百八十七番地地先ニ於テ二等大路第一類第十三號線ニ接続スルノ路線 幅員 十三 間
 - 二十 粉濱村北溝筋六百三十一番地ノ二ニ於テ一等大路第三類第十號線ヨリ分岐シ敷津村柴谷ニ至ルノ路線 幅員 十 間
- 第二類
- 一 梅田橋北詰ヨリ會根崎川及安治川ノ北岸ニ沿ヒ二等大路第一類第六號線地點ニ接続スルノ路線 幅員 八 間
 - 二 今宮町水渡六百二十二番地ノ一ニ於テ一等大路第三類第十號線ヨリ分岐シ木津川落合上渡船場、千島町、泉尾町、尻無川甚兵衛渡船場北福崎町、三堀入堀新橋梁並安治川松ヶ鼻及正蓮寺川ノ各渡船場ヲ經テ西島町二百二十三番地ニ於テ二等大路第一類第七號線ニ接続スルノ路線 幅員 八 間
 - ×三 鷺洲町海老江百六十七番地ノ一ヨリ同町八百八十三番地ノ五ニ於テ一等大路第三類第三號線ニ接続スルノ路線 幅員 八 間
 - 四 江戸堀上通二丁目二十五番地ニ於テ一等大路第二類第一號線ヨリ分岐シ筑前橋、田箕橋及梅田橋ヲ經テ中津町下三番二百三十七番地ニ於テ一等大路第三類第四號線ニ接続スルノ路線 幅員 八 間
 - 但シ二等大路第二類第一號線起點ヨリ西梅田町三百九十五番地ニ至ル區間ハ幅員十二間トス
 - 五 本田三番町十七番地地先ヨリ九條町、辰巳橋、市岡町及田中町ヲ經テ七條通一丁目三番地地先ニ至ルノ路線 幅員 八 間
 - 六 南恩加島町十八番地ヨリ木津川千本松渡船場ニ至ルノ路線 幅員 八 間
 - 七 二等大路第一類第三號線終點ヨリ新千歲町四十一番地地先ニ至リ曲折シ木津川西岸平尾町五十五番地地先ニ至ルノ路線 幅員 八 間
 - 八 新千歲町四十一番地地先ニ於テ前號路線ヨリ分岐シ鶴町三丁目ニ至ルノ路線 幅員 八 間
 - 九 小林町百七十五番地地先ヨリ木津川西岸千島町二百五十六番地ノ一ニ至ルノ路線 幅員 八 間
 - 十 千島町二十五番地地先ニ於テ二等大路第二類第二號線ヨリ分岐シ木津川ニ併行シ平尾町四十四番地地先ニ於テ二等大路第二類第七號線ニ接続スルノ路線 幅員 八 間

- 二等大路第一類七號 二等大路第一類十號中 蒲生町四六番地ヨリ終點ニ至ル區間
- 二等大路第一類五號 二等大路第一類五號 二等大路第一類九號
- 二等大路第一類二十號
- 二等大路第一類二號中夕風町一丁目四十一番地ノ四ヨリ石田元町一丁目五十一番地ノ一ニ至ル區間及恩貴島南之町百三十四番地ヨリ終點ニ至ル區間
- 二等大路第二類五號中西市岡二丁目二十六番地地先ヨリ終點ニ至ル區間
- 二等大路第二類六號

三 昭和十二年三月

(昭和十二年三月二日內閣認可「大阪市區改正設計街路及大阪都市計畫街路中變更ノ件」參照)

第三次都市計畫事業決定ニ伴フ變更ナリ

(昭和十四年三月四日內閣認可「大阪市區改正設計街路廢止ノ件」參照)

- 左ノ路線ノ幅員擴張
- 二等大路第一類六號 春日出線 幅員二〇米
- 市内河川改修事業決定ニ伴フ變更ナリ
- 左ノ路線ヲ廢止ス
- 二等大路第二類一號 (北安治川通線)

四 昭和十四年三月

敘上の各變更を経て現在 (昭和十七年一月) 大阪市區改正設計として残存する計畫街路は次の通りとなつた。當初計畫路線數四十七、その延長六萬九千八百六十八間に對し、現存路線數は十三、その延長は約一萬間である。

前記變更ノ結果大阪市區改正設計トシテ残存スルモノ左ノ如シ

(一) 全線残存スルモノ (路線數六線)

- 一等大路第三類ノ部
 - 九 市岡町五百四十八番地ノ一 (現市岡元町四丁目三番地) ヨリ北福崎西ノ町 (舊北福崎町) 三種入堀新橋梁ヲ經テ出崎町一丁目八番地地先ニ至ルノ路線 幅員 十二間
 - 二等大路第二類ノ部
 - 三 鷺洲町海老江 (現海老江町) 百六十七番地ノ一ヨリ同町八百八十三番地ノ五ニ於テ國道二號ニ接続スルノ線路 幅員 八間
 - 七 一等大路第三類第十九號線終點ヨリ新千歲町四十一番地地先ニ至リ曲折シ木津川西岸平尾町五十五番地地先ニ至ルノ路線 幅員 八間
 - 八 新千歲町四十一番地地先ニ於テ前號路線ヨリ分岐シ鶴町三丁目ニ至ルノ路線 幅員 八間
 - 九 小林町百七十五番地地先ヨリ木津川西岸千島町二百五十六番地ノ一ニ至ルノ路線 幅員 八間
 - 十 千島町二十五番地地先ニ於テ大阪市區改正設計二等大路第二類第二號線ヨリ分岐シ木津川ニ併行シ平尾町四十四番地地先ニ於テ大阪市區改正設計二等大路第二類第七號線ニ接続スルノ路線 幅員 八間
- (二) 路線ノ一部残存スルモノ (路線數七線)
 - 一等大路第三類ノ部
 - 十二 伯樂橋西詰ヨリ松島町二丁目十八番地地先ニ至ル區間 幅員 十二間
 - 二等大路第一類ノ部
 - 二 一等大路第三類第十七號線終點ヨリ尻無川渡船場及市岡町 (現市岡元町二丁目) ヲ經テ南安治川通三丁目五十一番地ニ至ル區間 幅員 十一間
 - 六 (春日出線) 北安治川通三丁目四百八十二番地地先ヨリ春日出橋ヲ經テ一等大路第三類第十八號線起點ニ至ル區間 幅員 二十米

十一 一等大路第三類第二十三號線終點ヨリ一等大路第三類第五十三號線起點ニ至ル區間 幅員 十 間
二等大路第二類ノ部

二 今宮町水渡六百二十二番地ノ一（現西四條三丁目十一番地）ニ於テ一等大路第三類第十號線ヨリ分岐シ木津川落合
上渡場、千島町、泉尾町（現大正通十丁目）尻無川甚兵衛渡場、北福崎町（現北福崎西ノ町）三種入堀新橋梁ヲ經
テ夕風町一丁目四十一番地ノ四ニ至リ國道三十七號線ニ接続スル區間及石田元町一丁目五十一番地ノ一ヨリ安治川
松ヶ鼻渡船場ヲ經テ一等大路第三類第七十二號線起點ニ至ル區間 幅員 八 間
四 西梅田町三百九十五番地ヨリ中津町下三番二百三十七番地（現中津南通三丁目二十一番地）ニ於テ一等大路第三類
第四號線ニ接続スル區間 幅員 八 間
五 二等大路第一類第二十一號線終點ヨリ西市岡町二丁目二十六番地ニ至リ二等大路第一類第二十二號線ニ接続スル區
間 幅員 八 間

第四章 第一次都市計畫事業

第一節 事業の調査及び決定

第一項 概 説

前節迄に述べ來つたところの大阪市區改正設計は、基準計畫であつて、之を實施するた
めには別に執行年度割及び財政計畫を必要とした。而して他方市勢の進展に伴ひ、新規に
事業の實施を必要とする方面も生じて來たが、之等全部を採つて豫算を按配し、執行計畫
を樹てることは到底市財政の克くするところではなかつたので、最も急施を要する部分
を選び、之を事業として實施することとし、その事業年度割並びに事業豫算調査を添へ内務
大臣宛内申した。而して此の事業は大正十年三月十九日内閣の認可を得たのである。之即
ち、事業費約一億四千萬圓を以てする大阪都市計畫事業であつて、後年他の都市計畫事業
との判別を容易ならしむるため「第一次都市計畫事業」と通稱してゐる。

此の事業は同年七月阪神國道線の追加せられたのを初めとし、爾後數次の大小追加變更
を加へられて現在に至り、本事業誌の記すが如く此の度大體全事業を完成するに至つたの
である。而して之等變更は大正十三年、昭和七年及び昭和十一年に加へられたのが主要な
ものである。以下順を逐うて本事業の決定、變更の經過を記録することとする。

第二項 事業の調査及び決定

大正九年六月九日大阪府は既定市區改正設計中實施すべきものにつき事業年度割を調製し内務大臣に上申したところ、本案は同年十二月十三日付を以て都市計畫大阪府地方委員會にその意見を諮問されて來た。同會は翌十年一月十五日の會議に之を附議、特別委員十七名に附託して更に討究の結果を一月二十七日の總會に報告可決し、左記答申書の通り内務大臣床次竹二郎宛答申した。乃ち内務大臣は本答申に基き、内閣の認可を得て末記の通り公告したのであつて、茲に第一次都市計畫事業はいよいよ本極りの域に達したのである。本事業の經理方面に關しては、第三編に記すが如く、最初事業決定と共に大正十年度から同十六年度に至る都市計畫事業費連年收支計畫を樹てたが、之は終に實施を見るに至らず、大正十年度以降大正十三年度迄は、毎年單行豫算に依り所要經費を支辨し、大正十四年度即ち次節第二項所載の第一次更正から繼續豫算を伴ふこととなつた。本事業の概要を掲記すれば次の通りである。

- イ 街路新設及擴張 二十五路線(延長約三五軒)(阪神國道ヲ含ム)
- ロ 既設街路ノ舗裝 約二十五萬坪(約八二六、四〇〇平方米)
- ハ 路幅整理 約六萬七千坪(約二二一、五〇〇平方米)

都市計畫委員會關係記録及び内閣告示等を掲記すれば以下の通りである。

都市計畫大阪府地方委員會諮問事項

内務省都第一五五號

都市計畫大阪府地方委員會

大阪府都市計畫中大正九年度ヨリ大正十五年度ニ至ル七ケ年度ニ於テ施行スベキ事業及其ノ年度割左ノ通り決定セムトス、右都市計畫法第三條ノ規定ニ依リ其ノ會ノ審議ニ附ス

大正九年十二月十三日

内務大臣 床次竹二郎

記

第一 街路新設及擴張ノ部

(内閣認可告示ノ通りニ付省略ス)

第二 街路舗裝工事ノ部

(同上)

第三 路幅整理ノ部

(同上)

第四 施行年度割

大正九年度	約一分六厘	大正十三年度	約一割六分四厘
大正十年度	約一割六分四厘	大正十四年度	約一割六分四厘
大正十一年度	約一割六分四厘	大正十五年度	約一割六分四厘
大正十二年度	約一割六分四厘		

一ノ地上權ノ如キ形ヲ成シ居リ是等ヲ悉ク今日ノ法律ニ據リ無償ニテ街路ヨリ取除クコトハ事情ニ適合セヌ事ト考ヘ大阪市ノ從來ノ方針ニ從ヒ必要ト認ムル所ニ對シテハ執行者ガ見積リタル移轉費用ノ半額ヲ補給シ撤去セシムルコトトセリ。

此等ノ事業ノ内容ハ、第一街路ノ新設及擴張、第二在來ノ道路鋪裝工事、第三路幅整理ノ三種類ニ分テ、之ニ要スル經費ハ參考書ニ示ス如ク一億三千九百六十五萬圓トナリ是ハ一昨年十二月ニ決議ヲ經タル一切ノ事業ノ約七割ニ相當セリ。

之ヲ如何ナル方法ニテ執行スルカハ第四ニ掲グル施行年度トシテ大正九年度ヨリ大正十五年度マデノ七ケ年ニ亘リ九年度ニ於テハ全體ノ一分六厘十年度以降ハ全體ノ一割六分四厘ヅ、執行シ、此ノ七ケ年ヲ以テ第一次ノ事業ヲ遂行セントスル原案ニシテ、之ニ就キ先程説明ノ如ク常務委員會ニ於テ規程ノ定ムル所ニ據リ豫メ此ノ案ヲ審査サレ之ニ修正意見ヲ附セラレタリ。

右意見ハ頗ル時宜ニ適シタルモノニシテ極メテ適當ナルモノナリト考フ。又一面此ノ事業ノ執行ノ任ニアル大阪市ノ理事者ニ於テモ大體此ノ修正ニ對シ賛意ヲ表シ居ル次第ナレハ宜敷御審議煩ハシタシ。尙印刷物トシテ配付セラレタルナランモ念ノ爲修正ノ要點ヲ述ブレハ元來原案ニ於テハ大正九年度ノ原案事業ハ大正九年度ノ下半年ノ事業ノミヲ計上シ居リ之レヲ此儘一年繰下グルトスレバ大正十年度ノ事業ハ甚ダ僅カノ分量トナリ、執行ノ進捗ヲ期スル上ニ於テ遺憾ノ點アルヲ以テ原案大正十年度ニ計上シタルモノノ一部分ヲ原案大正九年度ヘ繰上ダタル後、九年度ヲ十年度ニ、十年度ヲ十一年度ニ順次繰下ゲントスルニアリ。斯クスレバ議案ノ末尾ニ附シタル各年度ノ執行歩合



第一次都市計畫事業認可通達書

ガ變更シ來リ、大正十年度ハ全體ノ約四分七厘、大正十二年度以降ハ原案通り執行サレ、大正十六年度ノ終リニ至リテ完成ヲ告グルコト、ナル云々。

沼田委員ヨリ

相當調査ノ必要アルヲ以テ議長指名ノ特別委員十七名ニ付託セラレタシト述べ、之ニ對シ議長池松時和ハ特別委員十七名ヲ左ノ如ク指名セリ

- | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|--------|------|
| 巖 | 又兵衛 | 種谷嘉兵衛 | 酒井猪太郎 | 佐々木辰之進 | 中井準太 |
| 本田友衛 | 沼田嘉一郎 | 和田榮太郎 | 増田種松 | 二川茂助 | |
| 樋口伊之助 | 青田勝晴 | 井上嘉兵衛 | 河合 鼈 | 山岡順太郎 | |
| 上田萬平 | 關 一 | | | | |

大正十年一月二十七日大阪地方委員會開會、出席委員三十二名、前回委員付託中ノ第三號大阪都市計畫事業年度割ノ件ニ付委員長ヨリ左ノ報告アリ

上田委員長

特別委員會ハ本月十八日開會審議ノ結果、施行スベキ事業ニ就テハ原案ヲ認ムルモ、年度割ニ就テハ大正九年度ハ既ニ時期遅ル、ヲ以テ施行出來ザルガ故ニ之ヲ繰延ブルノ意見多ク、結局常務委員會ノ意見修正スルニ決定シタリ（中略）

工事施行ニ付キ重要ナル各事項ニ就テハ各委員ノ熱心ナル討議ニ依リ事業ハ原案可決、年度割ハ常務委員會ノ意見通り修正スルニ決シタリ

都市計畫地方委員會答申

議 第三號

大正九年十二月十三日都第一五五號附議大阪都市計畫中大正九年度ヨリ大正十五年度ニ至ル七ケ年度ニ於テ施行スヘキ事業及其年度割ノ件別紙ノ通り本會ニ於テ議決セリ 右及答申候也

大正十年一月二十七日

內務大臣 床次竹二郎 殿

都市計畫大阪地方委員長 池松時和

(別紙)

〔内閣認可告示ノ通りニ付省略ス〕

都市計畫事業認可通達書

都第一一號

大正十年四月十九日

大阪市長 殿

大阪府知事 殿

都市計畫事業認可之件

本年一月二十七日都市計畫大阪地方委員會議決大阪市標記之件三月十九日内閣ノ認可ヲ得候條其筋ヨリ通牒有之候ニ付右御了知相成度此段及通達候也

追而本件認可ハ三月十九日官報ニ掲載相成候條爲念申添候

第一次都市計畫事業内閣認可公告

左記ノ大阪都市計畫事業並年度割決定ノ件認可ス

第一 街路ノ新設及擴張ノ部

一「廣路」

- 一 第一號線大阪驛前北野角田町三百四十九番地ノ一ヨリ大江橋淀屋橋並長堀川及道頓堀川ノ各新橋梁ヲ經テ難波驛前難波新地五番町五十三番地ノ一ニ至ル路線ノ全部 幅員 二十四間

二「一等大路第二類」

- 一 第一號線九條通二丁目七百三番地ノ一ヨリ本田町、端建藏橋南詰、木津川新橋梁及江戸堀北通二丁目ヲ經テ肥後橋南詰ニ至リ北折シ肥後橋及渡邊橋ヲ經テ東梅田町三百一十一番地ノ一ニ至ル路線ノ全部 幅員 十六間
- 二 第二號線難波新地三番町四十五番地ノ一ニ於テ廣路第一號線ヨリ分岐シ賑橋西詰ニ至ル路線ノ全部 幅員 十六間

三「一等大路第三類」

- 一 第一號線中肥後橋南詰ニ於テ一等大路第二類第一號線ヨリ分岐シ西長堀橋及深里橋ヲ經テ一等大路第二類第二號線終點ト接続スル區間及大國町千九百七十一番地ヨリ宮津町三百五十六番地ノ一ニ至ル區間 幅員 十三間
- 二 第二號線鳴尾町二番地ノ一ヨリ天神橋及松屋町筋ヲ經テ天王寺逢坂下之町三番地地先ニ至ル路線ノ全部 幅員 十三間
- 三 第五號線中堂島大橋南詰ヨリ堂島濱通四丁目二十六番地及上福島三丁目八百六十八番地ノ一ヲ經テ上福島中五丁目九百九十七番地ノ一地先ニ至ル區間 幅員 十二間
- 四 第六號線中谷町三丁目三十四番地ノ一ヨリ森之宮東之町四百六十一番地地先ニ至ル路線ノ全部 幅員 十二間
- 五 第七號線本町六丁目百六十五番地ノ一ヨリ下味原町八十二番地ノ四地先ニ至ル路線ノ全部 幅員 十二間
- 六 第八號線中日本橋筋三丁目ヨリ惠美須町二丁目四十三番地ノ三地先ニ至ル區間 幅員 十二間
- 七 第十一號線肥後橋南詰ニ於テ一等大路第二類第一號線ヨリ分岐シ西國橋ヲ經テ淀屋橋南詰大川町二十三番地ニ於テ廣路第一號線ニ接続スル路線ノ全部 幅員 十二間
- 八 第十二號線中上本町二丁目三番地ノ一ヨリ谷町六丁目ニ至ル區間及伯樂橋改築 幅員 十二間
- 九 第十三號線天王寺逢坂下之町三番地地先一等大路第三類第二號線終點ヨリ天王寺西門前逢坂上之町三千六百七十二番地ノ一地先ニ至ル路線ノ全部 幅員 十二間

四「二等大路第一類」

- 一 第一號線中北野角田町三百四十九番地ノ一廣路第一號線起點ヨリ扇橋ヲ經テ空心町二丁目十四番地ノ一地先ニ至ル

- 區間
- 二 第二號線中三軒家上之町六十四番地ノ三ヨリ泉尾町四十九番地ノ十六地先尻無川渡船場ニ至ル區間 幅員 十一間
 - 三 第三號線中泉尾町四十九番地ノ十六ニ於テ二等大路第一類第二號線ヨリ分岐シ新千歲町百二十六番地ニ至ル路線ノ全部 幅員 十一間
 - 四 第五號線中京橋二丁目一番地地先ヨリ大手前町ヲ經テ上本町二丁目ニ至ル區間 幅員 十間
 - 五 第十號線中東雲町一丁目七十八番地地先ヨリ森之宮東之町森之宮神社地先ニ於テ一等大路第三類第六號線ニ接續スル區間 幅員 十間
 - 六 第十三號線中天王寺田町三千五百五十一番地ヨリ郡市境界ニ至ル區間 幅員 十間
 - 七 第十四號線宮津町三百五十六番地ノ一、一等大路第三類第一號線終點ヨリ南霞町九百七十八番地ノ一地先ニ至ル路線ノ全部 幅員 十間
 - 八 第十六號線東野田町二百十番地ノ三ニ於テ二等大路第一類第十一號線ヨリ分岐シ中野町ヲ經テ澤上江町三百四番地ノ一地先ニ至ル路線ノ全部 幅員 十間
 - 九 第十八號線中下味原町八十二番地ノ四地先一等大路第三類第七號線終點ヨリ舟橋町七十九番地ノ五地先ニ至ル區間 幅員 十間
- 五 「二等大路第二類」
- 一 第一號線中梅田橋北詰ヨリ會根崎川及安治川ノ北岸ニ沿ヒ船津橋北詰ヲ經テ蘆分橋ニ至ル區間 幅員 八間
 - 二 第四號線中江戸堀上通二丁目二十五番地ニ於テ一等大路第二類第一號路線ヨリ分岐シ筑前橋、田袋橋及梅田橋ヲ經テ官設鐵道東海道本線ヲ横斷シ西梅田町大阪驛北端ニ至ル區間 幅員 八間
 - 三 第五號線中本田三番町十七番地地先ヨリ古川町八番地ノ三地先ニ至ル區間 幅員 八間
- 第二 街路鋪裝工事ノ部
- 一 既設街路中 面積凡二十五萬坪

第三 路幅整理ノ部

- 一 在來ノ街路ニシテ既定ノ幅員ニ滿タサルモノハ之ヲ整理シ既定ノ幅員ト爲スモノトス 面積凡六萬七千坪

第四 施行年度割

大正九年度	削 除
大正十年度	約四分七厘
大正十一年度	約一分三分三厘
大正十二年度	約一分六分四厘
大正十三年度	約一分六分四厘
大正十四年度	約一分六分四厘
大正十五年度	約一分六分四厘
大正十六年度	約一分六分四厘

右 公 告 ス

大正十年三月十九日

* 常務委員會議見参照

內閣總理大臣 原 敬

第二節 事業の追加及び變更

第一項 第一次更正迄の追加及び變更

本都市計畫事業は認可直後多少の變更があつた。ただし之等は部分的なものであつて、次項に記すが如き根本的な計畫變更を伴ふものではなかつたので、茲には單に記録として

主なるものの告示文を列記するに止める。

一 阪神國道線追加ノ件

左記大阪都市計畫事業執行ノ件認可ス

記

第一 街路ノ新設及擴張ノ部

一 一等大路第三類

一 第三號線上福島中五丁目十四番地(現上福島中三丁目百三十五番地)ヨリ西野田茶園町ヲ經テ鷺洲町海老江三百二番地ノ八(現海老江中三丁目百二十番地)ニ至ル路線

右事業ハ大正十年度ニ於テ之ヲ施行スルモノトス

右 公 告 ス

大正十年七月一日

内閣總理大臣 原

敬

二 鶴橋線ノ内變更ノ件

左記大阪都市計畫事業變更決定ノ件認可ス

記

大阪都市計畫路線中一等大路第三類第七號路線ハ左ノ通り變更ス

上本町六丁目百六十五番地ノ一ヨリ下味原町八十二番地ノ四地先ニ至ル路線ノ全部
但シ本路線起點ノ北側ニ約八百二十坪ノ廣場ヲ設ク

幅員 十二間

右 公 告 ス

大正十三年一月二十三日

内閣總理大臣 子爵 清 浦 奎 吾

敬

第二項 第一次の更正

前節に於て記す如く、第一次都市計畫事業は既に決定し實施の途上に在つたところ、偶々大正十二年九月一日關東地方は未曾有の大震災の襲ふところとなつた。此處に於て大阪市會は同月二十八日の會議に於て左記の通り建議案を可決したのである。

都市計畫ニ關スル建議ノ件

都市計畫ニ關シ別紙意見書ヲ大阪市長ニ提出セラレレントヲ建議ス

大正十二年九月二十七日

提出者	小島逸平	田中讓	益田喜之助
	酒井猪太郎	濱口駒次郎	大和藤兵衛
	吉村安兵衛	沼田嘉一郎	木田新三郎
	井澤清兵衛	神戸萬太郎	吉本重光
	阪田成一		
賛成者	伊藤喜十郎	外四十九名	
大阪市會議長	泉仁三郎	殿	

意見書

本市ノ都市計畫事業ハ大正八年十二月内閣ノ許可ヲウケタル設計ニ基キ市内ニ於ケル運輸交通上ノ便ヲ主トシ重要線路ヲ撰ミテ第一次ノ事業トシテ執行シツツアリト雖モ這般關東地方震災ノ實驗ニ徴スルニ一朝不慮ノ災害ニ遭遇セバ既定ノ施設計畫ノミヲ以テ満足センカ不測ノ損害ヲ免カル能ハザルコト明ナリ、此損害ヲ防止センガ爲ニハ既定事業ニ就テハ更ニ一層ノ考究ヲ遂ゲ其ノ執行順序ニ變更ヲ加フルノミナラズ、非常災害ニ際シ生命財産ノ危険ナカラシムベク計畫ヲ定メ着々之ガ實現ヲ期

セラレンコトヲ望ム

右市制第四十六條ニ依リ意見書提出候也

大正十二年九月 日

大阪市長 池上四郎殿

大阪市會議長 泉 仁三郎

提案者沼田議員說明概要

曩ニ親シク震災地ヲ踏査シテ得タル活教訓ニ據レバ若シ本市ニ同様ノ震災發生ノ場合ヲ想像センカ、夫ノ天神橋六丁目ノ如キ其ノ以北ハ路線非常ニ狹隘ニシテ、郊外ニ避難ノタメ一時ニ多數ノ人同所ニ殺到センカ、其ノ結果如何ナル慘害ヲ惹起スベキヤ計リ知ルベカラズ、又東京ニ於テ燃焼性ノ材料ヲ用ヒタル多クノ橋梁盡ク燒失シ爲ニ交通杜絶シテ幾萬ノ怪我人ヲ出シタリ。本市ガ都市計畫ヲ立ツルニ方リテハ少クモ橋梁ハ之ヲ不燃焼物ヲ以テ造ラザルベカラズ。尙茲ニ等閑ニ付ス可ラザル大問題ハ市中公園ノ問題ナリ。東京市ガ上野、日比谷、芝等ノ廣潤ナル公園ヲ有スルニ反シ本市ハ極メテ公園ニ乏シク、萬一ノ際避難ニ大困難ヲ生ズベク都市計畫上深ク思フ此ニ致サザル可ラズ。尙本建議案ハ市長ニ提案スルモノナルガ、市長ハ之ニ就キ都市計畫委員長タル大阪府知事ノ諒解ヲ得ラレンコトヲ希望スルト同時ニ、市會ガ之ヲ議決シタル曉ニハ更ニ進ンデ内務大臣ニ迄市民ノ意思ノ存スル處ヲ具申セラレンコトヲ切望ス。

中村議員質問概要

建議案ニ異議ナシ。大阪市ハ從來ノ都市計畫スラ實行難ノ状態ニ在リ。況ンヤ本建議案ノ如ク種々ノ事業實施ニハ相當多額ノ經費ヲ要シ、市將來ノ財政計畫タル公債募集ニ據リ都市計畫ヲ遂行スルコトハ政府ノ諒解ヲ得居レルカ。間地税、土地税、(編者註、土地増價税ヲ指ス)ニシテ萬一許可サレザルトキハ公債ヲ募集スベク政府ニ交渉ヲ遂ゲタルヤ。若シ公債募集ヲ許可サレザレバ、爲ニ既定ノ都市計畫ヲ實行シ得ザル場合理事者ノ對策如何。尙市内ニ公園空地ヲ存セシムルハ最も重要事項ナルガ理事者ハ既定計畫以外之ニ關シ相當ノ計畫ヲ有セルヤ。

關助役答辯概要

今回ノ關東地方大震災ノタメ、從來都市計畫事業ヲ定ムルニ際シ何人モ想到シ得ザリシ各種ノ問題頻發シタルニヨリ、將來ノ計畫ニ就テハ本建議ノ趣旨ニ副フベク實行ノ順序方法ヲ考ヘ、震災ニ對シ十分損害ヲ防止スベク、之ガ對策ヲ樹テザルベカラズト思惟ス。又財政計畫ニ就テハ今回ノ大震災ニ因リ、本邦經濟界ノ組織ニ大動搖ヲ與ヘタルガ、我々ハ右様ノ事情ノ下ニ未ダ新内閣ノ財政方針ノ那邊ニ存スルヤヲ窺知スル能ハザルタメ、公債募集又ハ新稅設定ニ對スル政府ノ許否ニ付キ自信ヲ以テ爰ニ之ヲ言明シ得ザルヲ遺憾トス。尙公園等ニ就テハ種々調査シ居レルモ、此機會ニ於テ更ニ洗練シテ十分ナル成案ヲ得ル積リナリ。



昭和和橋架設地點附近之古版圖



昭和橋

市に於ては右の建議に基き同日以來事業の變更に關シ調査研究の結果、翌大正十三年四月二日付を以て變更原案を内務大臣若槻禮次郎に稟申した。内務省に於ては原案を具して之を大正十三年十月二十日の都市計畫大阪地方委員會に附議、同委員會は二十名の特別委員に附託して研究の結果十月三十日の常務委員會に於て採決、直ちに内務大臣に答申した。

斯くて内務大臣は大正十三年十一月二十九日内閣の認

可を得て末記の通り公告し、茲に「大阪都市計畫事業」は最初の大變更を見たのである。此の變更たるや従前の事業計畫に對する觀方を根本的に更めたものであり、全面的な大修正であつて爾後本事業は「更正繼續都市計畫事業」と通稱されて來たのである。豫算經理關係に於て繰越事業費の稱呼を用ふるものは、本變更以前の執行豫定部分に對する經費を指稱するもので、此の經費は昭和六年度まで別途經理方式であらはされてゐる。(第三編第二章第二節第二項参照) 便宜上本變更の結果を表記すれば次の通り。

- イ 街路新設及擴張 四十二路線 (延長約九〇杆) (阪神國道ヲ含ム)
- ロ 路面舗装 約十八萬坪 (約五九五、〇〇〇平方米)
- ハ 路幅整理 約六萬七千坪 (約二二一、五〇〇平方米)
- ニ 橋梁改築 八十二橋
- ホ 建築敷地造成 五路線ノ沿道 (約九二五、六二四平方米)

本變更中の主眼點は、(イ)災害に際し避難道路として役立たしむる目的を以て街路の新設及び擴張事業の内容を増大したること、(ロ)既設街路の舗装は他の事業との振合上約三割を減じたること、(ハ)既設主要橋梁八十二橋を耐震耐火構造に架替のこととして追加したること、(ニ)市周圍部に至る幹線街路の兩側に建築整地を造成することとしたることであつた。その結果として事業執行年期は大正二十二年まで六箇年を延長、事業費額は従前に比して著しく増加し、當初以來の總額はまさに二億二千二百九十九萬餘圓(公債費ヲ)となつたのである。

更正第一次都市計畫事業内閣認可公告

左記大阪都市計畫事業並年度割變更決定ノ件認可ス

記

第一 街路ノ新設及擴張ノ部

一 廣 路

第一號線 (御堂筋線)

大阪驛前角田町六番地ヨリ大江橋、淀屋橋並ニ長堀川及道頓堀川ノ各新橋梁ヲ經テ難波驛前難波新地五番町五十三番地ノ一ニ至ルノ路線 幅員 二十四間

二 一 等大路第二類

第一號線 (梅田九條線)

九條通一丁目七百三番地ノ一ヨリ本田町、端藏橋南詰、木津川新橋梁及江戸堀北通二丁目ヲ經テ肥後橋南詰ニ至リ北折シ肥後橋及渡邊橋ヲ經テ東梅田町三百十一番地ノ一ニ至ルノ路線 幅員 十六間

三 一 等大路第三類

第一號線 (西横堀線)

肥後橋南詰ニ於テ一 等大路第二類第一號線ヨリ分岐シ西長堀橋及深里橋ヲ經テ難波元町三丁目百八十番地ノ一ニ至ルノ路線 幅員 十三間

第二號線 (松屋町筋線)

鳴尾町二番地ノ一ヨリ天神橋及松屋町筋ヲ經テ天王寺逢坂下之町四十七番地地先ニ至ルノ路線 幅員 十五間

第四號線 (梅田十三線)

大阪驛前曾根崎中二丁目二百番地ノ三地先ヨリ大深町百二十九番地ノ二ニ至リ北折シ芝田町ヲ經テ中津町下三番八十四番地ノ二ニ至リ西折シ國有鐵道計畫大阪驛貨物線路上ニ架スル陸橋ヲ經テ中津町光立寺四百二十四番地ノ一地

先ニ至リ北折シ新澁川左岸中津町光立寺四百五番地ノ一地先ニ至ルノ路線
幅員 十五間
但シ中津町下三番八十四番地ノ二ヨリ同二丁目百七十一番地ノ一ニ至ル區間ハ幅員十五間乃至十九間トス

第五號線 (堂島十三線)
堂島大橋南詰ヨリ堂島大橋、上福島及鷺洲町ヲ經テ中津町光立寺四百九番地ノ五ニ於テ前號路線ニ接続スルノ路線
幅員 十二間

第六號線 (城南線)
谷町三丁目三十四番地ノ一ヨリ森之宮東之町四百六十一番地地先ニ至ルノ路線
幅員 十二間

第七號線 (鶴橋線)
上本町六丁目百六十番地ノ一ヨリ下味原町ヲ經テ國有鐵道城東線ヲ横切り新平野川新橋梁ヲ經テ神路村大字大今里
幅員 十二間
七百三十五番地ニ至ルノ路線
但シ本路線起點ノ北側ニ約八百二十坪ノ廣場ヲ設ク

第八號線 (紀州街道線)
大阪市區改正設計一等大路第三類第八號線中日本橋筋三丁目五十四番地ノ一地先ヨリ惠美須町二丁目四十三番地ノ
幅員 十二間
三地先ニ至ルノ路線及同終點ヨリ南霞町ヲ經テ國有鐵道關西線路下ヲ過キ南海鐵道阪堺線ニ並行シ今宮町今池千五
十八番地ノ一ニ至ルノ路線

第十號線 (難波住吉線)
廣路第一號線終點ヨリ難波入堀川新橋梁ヲ經テ難波元町三丁目百八十番地ノ一ニ於テ一等大路第三類第一號線終點
幅員 十五間
ニ接続シ市場橋、宮津町ヲ經テ國有鐵道關西線路下ヲ過キ今宮町ヲ經テ南海鐵道高野線路下ヲ過キ粉濱村ヲ經テ住
吉公園ニ至ルノ路線
但シ國有鐵道關西線以南ハ路線ノ兩側ニ於テ各二十六間以内ヲ劃リ建築敷地ヲ造成ス

第十一號線 (大川町線)
肥後橋南詰ニ於テ一等大路第二類第一號線ヨリ分岐シ西國橋ヲ經テ淀屋橋南詰ニ於テ廣路第一號線ニ接続スルノ路
線

第十二號線 (長堀線)
大阪市區改正設計一等大路第三類第十二號線中伯樂橋西詰ヨリ伯樂橋、上野橋及末吉橋ヲ經テ西賑町二十一番地地
幅員 十二間
先ニ至リ屈折シ谷町六丁目、上本町二丁目ヲ經テ國有鐵道城東線ヲ横切り中本町ヲ經テ一等大路第三類第七號線終
點ニ接続スルノ路線
但シ猶間川以東平野川ニ至ル區間ハ路線ノ兩側ニ於テ各二十六間以内ヲ劃リ建築敷地ヲ造成ス

第十三號線 (逢坂線)
惠美須町二丁目四十三番地ノ三地先ニ於テ一等大路第三類第八號線ヨリ分岐シ天王寺西門前逢坂上之町ヲ經テ天王
幅員 十五間
寺大道二丁目三十一番地ニ至リ南折シ天王寺北河堀町一番地ニ至リ更ニ東折シ二等大路第一類第十三號線起點ニ接
續スルノ路線

第十四號線 (天神橋西筋線)
一等大路第三類第二號線起點ヨリ扇橋及天神橋筋六丁目ヲ經テ新澁川左岸豊崎町北長柄三百四番地ノ二ニ至ルノ路
幅員 十五間
線

第十五號線 (北野線)
大阪市區改正設計二等大路第一類第一號線中廣路第一號線起點ヨリ堀川新橋梁ヲ經テ扇橋南詰ニ於テ前號路線ニ接
幅員 十五間
續スルノ路線

第十六號線 (天滿谷町線)
大阪市區改正設計二等大路第一類第一號線中前號路線終點ヨリ天滿橋筋四丁目七十三番地ニ至リ南折シ空町二丁
幅員 十三間
目十五番地ノ一ニ至ルノ路線及天滿橋改築

第十七號線 (泉尾市岡線)
大阪市區改正設計二等大路第一類第二號線中大正通四丁目百二十四番地ヨリ泉尾町ヲ經テ尻無川左岸ニ至ルノ路線
幅員 十二間

第十八號線 (春日出傳法線)

大阪市區改正設計二等大路第一類第六號線中四貫島町四十九番地外五筆合併地ヨリ正蓮寺川及傳法川ノ各新橋梁ヲ經テ新澱川左岸傳法町北四丁目百四十二番地ノ一ニ至ルノ路線 幅員 十二間

第十九號線 (泉尾縦貫線)

泉尾町四十九番地ノ十六ニ於テ一等大路第三類第十七號線ヨリ分岐シ新千歲町百二十六番地ニ至ルノ路線 幅員 十二間

第二十號線 (法圓阪町線)

大阪市區改正設計二等大路第一類第五號線中京橋一丁目一番地地先ヨリ上本町二丁目一番地ノ一ニ至ルノ路線 幅員 十二間

第二十一號線 (阿部野線)

但シ京橋前之町一番地地先及大手前之町一番地地先ハ幅員十間トス

第二十二號線 (善源寺野江線)

大阪市區改正設計二等大路第一類第五號線中逢坂上之町十六番地ヨリ阿部野橋ヲ經テ天王寺村大字阿部野四百三十一番地ノ三ニ至ルノ路線 幅員 十三間

第二十三號線 (玉造野江線)

善源寺町三丁目五十四番地ヨリ榎並町野江三百二十七番地ノ一ニ至ルノ路線 幅員 十二間

第二十四號線 (天滿蒲生線)

空心町二丁目十五番地ノ一ニ於テ一等大路第三類第十六號線ヨリ分岐シ澱川新橋梁ヲ經テ國有鐵道城東線路下ヲ過キ同支線ヲ横切リ更ニ京阪鐵道線路下ヲ過キ澱江町蒲生二百七十六番地ニ至ルノ路線 幅員 十二間

第二十五號線 (猪飼野線)

上本町九丁目百四十六番地地先ニ於テ大阪市區改正設計二等大路第一類第五號線ヨリ分岐シ天王寺勝山通ヲ經テ國有鐵道城東線ヲ横切リ新平野川新橋梁ヲ經テ鶴橋町猪飼野百五十五番地ノ二地先ニ至ルノ路線 幅員 十二間

第二十六號線 (梅ヶ枝町線)

難波橋北詰ヨリ樋之上町五番地ノ一地先ニ至リ西折シ若松町十九番地ノ一ニ於テ北折シ神山町四十二番地地先ニ至リ一等大路第三類第十五號線ニ接続スルノ路線 幅員 十二間

第二十七號線 (大阪奈良線)

大阪市區改正設計二等大路第一類第十三號線中天王寺國分町百四十四番地ヨリ國有鐵道城東線ニ至ルノ路線 幅員 十間

第二十八號線 (木津澱町線)

宮津町三百五十六番地ノ一ニ於テ一等大路第三類第十號線ヨリ分岐シ南海鐵道本線及同阪堺線ヲ横切リ南澱町九百七十八番地ノ一地先ニ至リ一等大路第三類第八號線ニ接続スルノ路線 幅員 十間

第二十九號線 (澤上江町線)

東野田町四丁目二百十番地ノ三ニ於テ一等大路第三類第二十四號線ヨリ分岐シ東野田町九丁目二百二十八番地ニ於テ北折シ澤上江町五丁目六十四番地ニ於テ西折シ更ニ澤上江町四丁目百八番地ニ於テ北折シ澤上江町二丁目七十三番地ニ於テ一等大路第三類第二十二號線ニ接続スルノ路線 幅員 十間

第三十號線 (九條市岡線)

大阪市區改正設計二等大路第二類第五號線中本田三番町十七番地地先ヨリ九條町及辰巳橋ヲ經テ辰巳橋西詰ニ至ル

ノ路線

五 二等大路第二類

第一號線 (北安治川通線)

大阪市區改正設計二等大路第二類第一號線中上福島南一丁目五十五番地ニ於テ二等大路第二類第四號線ヨリ分岐シ
安治川北岸ニ沿ヒ東蘆分橋ヲ經テ西蘆分橋西詰ニ至ルノ路線
幅員 八 間

第四號線 (江戸堀十三線)

大阪市區改正設計二等大路第二類第四號線中江戸堀上通二丁目二十五番地ヨリ筑前橋、田箕橋ヲ經テ西梅田町三百
十五番地ニ至ルノ路線
幅員 八 間

第十一號線 (平野町線)

唯喉場橋西詰ヨリ唯喉場橋、京町橋及平野橋ヲ經テ谷町二丁目四番地ニ至リ大阪市區改正設計二等大路第一類第一
號線ニ接続シ更ニ同町二丁目三十五番地ノ一ニ於テ同線ヨリ分岐シ大手前之町三番地ニ於テ一等大路第三類第二十
號線ニ接続スルノ路線
幅員 七 間

第十二號線 (久寶寺町線)

立賣堀南通一丁目十四番地ノ一ニ於テ一等大路第三類第一號線ヨリ分岐シ助右衛門橋及久寶寺橋ヲ經テ岡山町三百
六十一番地ニ至リ屈折シ玉堀町五百七十四番地ニ至リ東折シ同町五百六十二番地ニ於テ一等大路第三類第二十三號
線ニ接続スルノ路線
幅員 七 間

第十三號線 (堀江玉造線)

千代崎橋西詰ヨリ千代崎橋並西横堀川及東横堀川ノ各新橋梁ヲ經テ木野町十二番地ノ一ニ至ルノ路線
但シ南炭屋町三十四番地及其ノ附近ニ面積約百十坪ノ廣場ヲ設ク
幅員 七 間

第十四號線 (三休橋筋線)

梅檀之木橋北詰ヨリ梅檀之木橋ヲ經テ三休橋北詰ニ於テ一等大路第三類第十二號線ニ接続スルノ路線
幅員 七 間

第十五號線 (中橋筋線)

中橋北詰ニ於テ一等大路第三類第十二號線ヨリ分岐シ中橋及相生橋ヲ經テ阪町四十三番地ノ一ニ至ルノ路線
幅員 七 間

第十六號線 (玉江橋筋線)

玉江橋北詰ヨリ玉江橋、常安橋、阿波殿橋、紀伊國橋並阿波堀川及立賣堀川ノ各新橋梁ヲ經テ西長堀北通二丁目三
番地ニ於テ一等大路第三類第十二號線ニ接続スルノ路線
幅員 七 間

第十七號線 (富田屋橋筋線)

富田屋橋北詰ニ於テ一等大路第三類第十二號線ヨリ分岐シ富田屋橋、賑江橋並道頓堀川及颯川ノ各新橋梁ヲ經テ榮
町二丁目四十二番地地先ニ至ルノ路線
幅員 七 間

第十八號線 (江戸堀西濱線)

江戸堀北通五丁目三十番地ノ乙ニ於テ一等大路第二類第一號線ヨリ分岐シ西北橋、茂左衛門橋、豊橋、島津橋、高
橋、玉造橋、黒金橋及日吉橋ヲ經テ幸町通五丁目八番地ノ一ニ至リ電車通ニ接続シ更ニ難波櫻川町三丁目千三百八
十八番地ノ二ヨリ江上橋ヲ經テ南海鐵道高野線路ヲ横切リ西濱南通三丁目九十四番地ノ一ニ至ルノ路線
幅員 七 間

第十九號線 (御藏跡町線)

日本橋筋三丁目五十番地ノ一ニ於テ一等大路第三類第八號線ヨリ分岐シ堀初橋ヲ經テ高津五番町二番地ニ於テ一等
大路第三類第二號線ニ接続スルノ路線
幅員 七 間

第二 街路鋪裝工事ノ部

一 既設街路中面積凡十八萬坪

第三 路幅整理ノ部

一 在來ノ街路ニシテ既定ノ幅員ニ滿タサルモノハ之ヲ整理シ既定ノ幅員ト爲スモノトス面積凡六萬七千坪

第四章 第一次都市計畫事業

一五三

第四 橋梁改築ノ部

一 左ノ橋梁ハ耐久ノ構造ニ改築スルモノトス

一 猫間川ニ架スル橋梁

(一) 大和橋

(二) 鵠橋

二 寝屋川ニ架スル橋梁

(三) 京橋

三 鯉江川ニ架スル橋梁

(四) 備前島橋

四 天満堀川ニ架スル橋梁

(五) 夫婦橋

(六) 寺町橋

(七) 樽屋橋

(八) 太平橋

五 東横堀川ニ架スル橋梁

(九) 高麗橋

(一〇) 大手橋

(一一) 農人橋

(一二) 九之助橋

(一三) 上大和橋

六 高津入堀川ニ架スル橋梁

(一四) 清津橋

(一五) 福知橋

(一六) 菌坪橋

(一七) 増井橋

(一八) 玉水橋

(一九) 星池橋

(二〇) 船出橋

七 難波入堀川ニ架スル橋梁

(二一) 入堀橋

八 駒川ニ架スル橋梁

(二二) 大倉橋

(二三) 蘆柳橋

(二四) 鷗橋

(二五) 勘助橋

九 七瀬川ニ架スル橋梁

(二六) 津守橋

一〇 十三間川ニ架スル橋梁

(二七) 琴江橋

(二八) 月正橋

一一 三軒家堀割川ニ架スル橋梁

(二九) 百濟橋

一二 道頓堀川ニ架スル橋梁

(三〇) 下大和橋

第四章 第一次都市計畫事業

- (三二) 我 橋
- (三三) 大 黒 橋
- (三四) 住 吉 橋
- (三五) 幸 橋
- (三六) 沙 見 橋
- 一三 西横堀川ニ架スル橋梁
 - (三七) 金 屋 橋
 - (三八) 木 綿 橋
 - (三九) 下 繫 橋
 - (四〇) 新 町 橋
 - (四一) 筋 違 橋
 - (四二) 船 町 橋
- 一四 堀江川ニ架スル橋梁
 - (四三) 隆 平 橋
 - (四四) 高 臺 橋
 - (四五) 瓶 橋
 - (四六) 水 分 橋
- 一五 長堀川ニ架スル橋梁
 - (四七) 安 綿 橋
 - (四八) 板 屋 橋
 - (四九) 炭 屋 橋
 - (五〇) 字 和 島 橋

- (五一) 問 屋 橋
- (五二) 鯉 座 橋
- 一六 尻無川ニ架スル橋梁
 - (五三) 花 園 橋
 - (五四) 常 盤 橋
- 一七 立賣堀川ニ架スル橋梁
 - (五五) 明 治 橋
 - (五六) 西 二 橋
- 一八 木津川ニ架スル橋梁
 - (五七) 松 島 橋
 - (五八) 大 涉 橋
- 一九 百間堀川ニ架スル橋梁
 - (五九) 子 島 橋
 - (六〇) 鷺 島 橋
- 二〇 薩摩堀川ニ架スル橋梁
 - (六一) 鳴 戸 橋
- 二一 阿波堀川ニ架スル橋梁
 - (六二) 松 榮 橋
 - (六三) 太 郎 助 橋
 - (六四) 奈 良 屋 橋
- 二二 海部堀川ニ架スル橋梁
 - (六五) 永 代 橋

- (六五) 上之橋
- (六六) 中之橋
- 二三 京町堀川ニ架スル橋梁
- (六七) 兩國橋
- (六八) 千秋橋
- 二四 江戸堀川ニ架スル橋梁
- (六九) 犬齋橋
- (七〇) 大目橋
- (七一) 江戸堀橋
- (七二) 崎吉橋
- 二五 土佐堀川ニ架スル橋梁
- (七三) 湊橋
- (七四) 越中橋
- 二六 中之島堀割川ニ架スル橋梁
- (七五) 秋月橋
- 二七 堂島川ニ架スル橋梁
- (七六) 鉾流橋
- 二八 堂島堀割川ニ架スル橋梁
- (七七) 柳橋
- 二九 聖天川ニ架スル橋梁
- (七八) 福島橋
- (七九) 茶園橋

(八〇) 瀧津橋

三〇 正蓮寺川ニ架スル橋梁

(八一) 恩貴島橋

三一 境川運河ニ架スル橋梁

(八二) 境橋

第五 前各項及大阪市區改正設計ニ定ムルモノヲ除クノ外街路及橋梁ノ築造ニ關シテハ大正八年十二月内務省令第二十五號街路構造令ノ定ムル所ニ據ル

第六 事業ノ實施ニ方リ設計ニ些少ノ異動ヲ生スル場合ハ都市計畫大阪地方委員會限リ之ヲ變更スルコトヲ得

第七 大正八年十二月内務省訓令第八五七號ニ依リ大阪市長ノ公告シタル大阪市區改正設計中本事業ト重複スル部分ハ之ヲ變更スルモノトス

第八 施行年度割左ノ如シ

自大正十年度	約	七分五厘
至同十二年度	約	九分九厘
大正十三年度	約	一割一分二厘
大正十四年度	約	九分八厘
大正十五年度	約	一割四分二厘
大正十六年度	約	九分
大正十七年度	約	九分一厘
大正十八年度	約	八分四厘
大正十九年度	約	七分一厘
大正二十年度	約	六分九厘
大正廿一年度	約	

大正廿二年度 約 六分九厘

第九 事業ノ實施ニ依リ事業年度ヲ延長セサル年度割ノ變更ハ都市計畫大阪地方委員會限リ之ヲ爲スコトヲ得

右 公 告 ス

大正十三年十一月二十九日

内閣總理大臣 子爵 加 藤 高 明

第三項 第二次更正迄の追加及び變更

大正十五年十月北安治川通線に局部的變更があり、之から昭和七年の第二次變更まで展次部分的な變更が加へられてゐる。之等を告示順によつて列記すれば次の通りである。

一 北安治川通線變更ノ件

大阪都市計畫中第一街路ノ新設及擴張ノ部ニ等大路第二類第一號線左ノ通變更ノ件認可ス

大阪都市計畫事業

第一 街路ノ新設及擴張ノ部

五 二等大路第二類

第一號線 (北安治川通線)

大阪市區改正設計ニ等大路第二類第一號線中上福島南一丁目五十五番地ニ於テ二等大路第二類第四號線ヨリ分岐シ下福島二丁目六十二番地地先ニ至リ西折シ大野町二丁目九十四番地ノ二ニ至リ更ニ西南ニ屈折シ東蘆分橋、西蘆分橋ヲ經テ北安治川通一丁目八番地地先ニ至ルノ路線及下福島二丁目六十二番地地先ニ於テ本路線ヨリ分岐シ同八十七番地 (新船津橋北詰) ニ至ルノ路線

右 公 告 ス

幅員 八 間

大正十五年十月十九日

内閣總理大臣 若 槻 禮 次 郎

二 天滿蒲生線變更ノ件

大阪都市計畫事業第一街路ノ新設及擴張ノ部中一等大路第三類第二十四號線 (天滿蒲生線) ヲ左ノ通變更シ昭和三年二月二十五日內閣ノ認可ヲ得タリ

大阪都市計畫事業

第一 街路ノ新設及擴張ノ部

三 一等大路第三類

第二十四號線 (天滿蒲生線)

空今町二丁目十五番地ノ一ニ於テ一等大路第三類第十六號線ヨリ分岐シ澁川新橋梁ヲ經テ國有鐵道城東線及京阪電氣鐵道線線路下ヲ過キ城東貨物線中野町連絡線線路ヲ横切リ蒲生町二百七十六番地ニ至ルノ路線 幅員 十二間 但シ蒲生町三十番地ヨリ野江町三丁目七百七十一番地ニ至ル區間ハ幅員十二間乃至十四間トシ東野田町四丁目四十七番地ヨリ終點ニ至ル區間ハ路線ノ兩側ニ於テ各二十六間以內ヲ劃リ建築敷地ヲ造成

右 公 告 ス

内務大臣 鈴 木 喜 三 郎

昭和三年三月五日

三 城南線外五路線變更ノ件

大阪都市計畫事業第一街路ノ新設及擴張ノ部中一等大路第三類第六號線、二等大路第一類第十四號線、二等大路第二類第一號線、同第十一號線、同第十二號線及同第十三號線ヲ左ノ通り變更シ昭和三年五月二十九日內閣ノ認可ヲ得タリ

大阪都市計畫事業

第一 街路ノ新設及擴張ノ部

第四章 第一次都市計畫事業

第九 事業ノ實施ニ依リ事業年度ヲ延長セサル年度割ノ變更ハ都市計畫大阪地方委員會限リ之ヲ爲スコトヲ得

右 公 告 ス

大正十三年十一月二十九日

内閣總理大臣 子爵 加 藤 高 明

第三項 第二次更正迄の追加及び變更

大正十五年十月北安治川通線に局部的變更があり、之から昭和七年の第二次變更まで屢次部分的な變更が加へられてゐる。之等を告示順によつて列記すれば次の通りである。

一 北安治川通線變更ノ件

大阪都市計畫中第一街路ノ新設及擴張ノ部ニ等大路第二類第一號線左ノ通變更ノ件認可ス

大阪都市計畫事業

第一 街路ノ新設及擴張ノ部

五 二等大路第二類

第一號線 (北安治川通線)

大阪市區改正設計ニ等大路第二類第一號線中上福島南二丁目五十五番地ニ於テ二等大路第二類第四號線ヨリ分岐シ下福島二丁目六十二番地地先ニ至リ西折シ大野町二丁目九十四番地ノ二ニ至リ更ニ西南ニ屈折シ東蘆分橋、西蘆分橋ヲ經テ北安治川通一丁目八番地地先ニ至ルノ路線及下福島二丁目六十二番地地先ニ於テ本路線ヨリ分岐シ同八十七番地 (新船津橋北詰) ニ至ルノ路線

幅員 八 間

右 公 告 ス

大正十五年十月十九日

内閣總理大臣 若 槻 禮 次 郎

二 天滿蒲生線變更ノ件

大阪都市計畫事業第一街路ノ新設及擴張ノ部中一等大路第三類第二十四號線 (天滿蒲生線) ヲ左ノ通變更シ昭和三年二月二十五日內閣ノ認可ヲ得タリ

大阪都市計畫事業

第一 街路ノ新設及擴張ノ部

三 一等大路第三類

第二十四號線 (天滿蒲生線)

空今町二丁目十五番地ノ一ニ於テ一等大路第三類第十六號線ヨリ分岐シ澁川新橋梁ヲ經テ國有鐵道城東線及京阪電氣鐵道線線路下ヲ過キ城東貨物線中野町連絡線線路ヲ横切リ蒲生町二百七十六番地ニ至ルノ路線 幅員 十二間 但シ蒲生町三十番地ヨリ野江町三丁目七百七十一番地ニ至ル區間ハ幅員十二間乃至十四間トシ東野田町四丁目四十七番地ヨリ終點ニ至ル區間ハ路線ノ兩側ニ於テ各二十六間以內ヲ劃リ建築敷地ヲ造成ス

右 公 告 ス

昭和三年三月五日

内務大臣 鈴 木 喜 三 郎

三 城南線外五路線變更ノ件

大阪都市計畫事業第一街路ノ新設及擴張ノ部中一等大路第三類第六號線、二等大路第一類第十四號線、二等大路第二類第一號線、同第十一號線、同第十二號線及同第十三號線ヲ左ノ通り變更シ昭和三年五月二十九日內閣ノ認可ヲ得タリ

大阪都市計畫事業

第一 街路ノ新設及擴張ノ部

第四章 第一次都市計畫事業

三 一 等大路第三類

第六號線 (城南線)

谷町三丁目三十四番地ノ一ヨリ大手前ノ町、馬場町、法圓阪町、杉山町及森之宮西之町ヲ經テ森之宮東之町四百六十一番地地先ニ至ルノ路線
幅員 十二間

四 二 等大路第一類

第十四號線 (水崎町線)

水崎町三十二番地ニ於テ一等大路第三類第八號線ヨリ分岐シ國有鐵道關西本線北側ニ沿ヒ南海鐵道阪堺線線路ヲ横切リ同町三十七番地ニ至ルノ路線
幅員 十間

五 二 等大路第二類

第一號線 (北安治川通線)

上福島南一丁目五十五番地ニ於テ二等大路第二類第四號線ヨリ分岐シ會根崎川及堂島川埋立地ヲ經テ下福島二丁目六十二番地地先ニ至リ西折シ大野町二丁目九十四番地ノ二ニ至リ更ニ西南ニ屈折シ東蘆分橋、西蘆分橋ヲ經テ北安治川通一丁目八番地地先ニ至ルノ路線及下福島二丁目六十二番地地先ニ於テ本路線ヨリ分岐シ同八十七番地 (新船津橋北詰) ニ至ルノ路線
幅員 八間

第十一號線 (平野町線)

唯喉場西詰ヨリ唯喉場橋、京町橋及平野橋ヲ經テ谷町二丁目四番地ニ至リ一等大路第三類第五十九號線ニ接続シ更ニ同三十五番地ノ一ニ於テ同線ヨリ分岐シ大手前ノ町三番地ニ至リ一等大路第三類第二十號線ニ接続スルノ路線
幅員 七間

第十二號線 (久實寺町線)

立賣堀南通一丁目十四番地ノ一ニ於テ一等大路第三類第一號線ヨリ分岐シ助右衛門橋、久實寺橋、内久實寺町二丁目及法圓阪町ヲ經テ岡山町三百六十一番地ニ至リ屈折シ玉堀町五百七十四番地ニ至リ東折シ同町五百六十二番地ニ於テ一等大路第三類第二十三號線ニ接続スルノ路線
幅員 七間

第十三號線 (堀江玉造線)

千代崎橋西詰ヨリ千代崎橋並西横堀川及東横堀川ノ各新橋梁ヲ經テ南玉造町三十一番地ノ一地先ニ至ルノ路線
幅員 七間
但シ南炭屋町三十四番地及其ノ附近ニ面積約百十坪ノ廣場ヲ設ク

右 公 告 ス

昭和三年五月三十一日

内務大臣 望 月 圭 介

四 北野線變更ノ件

大阪都市計畫事業街路ノ新設及擴張ノ部中一等大路第三類第十五號線 (北野線) 變更ノ件昭和三年十一月三十日都市計畫大阪地方委員會ニ於テ左ノ通議決アリタリ

大阪都市計畫事業

第一 街路ノ新設及擴張ノ部

三 一 等大路第三類

第十五號線 (北野線)ノ起點附近ノ設計ヲ別紙圖面ノ通變更ス (圖面省略)

五 長堀線變更ノ件

大阪都市計畫事業街路ノ新設及擴張ノ部中一等大路第三類第十二號線 (長堀線)ヲ左ノ通變更シ昭和四年六月十四日內閣ノ認可ヲ得タリ

大阪都市計畫事業

第一 街路ノ新設及擴張ノ部

三 一 等大路第三類

第四章 第一次都市計畫事業

第十二號線（長堀線）

大阪市區改正設計一、二等大路第三類第十二號線起點伯樂橋西詰ヨリ伯樂橋、上繫橋及末吉橋ヲ經テ西區町二十一番地地先ニ至リ屈折シ谷町六丁目、上本町二丁目ヲ經テ國有鐵道城東線ヲ跨キ（緩速車道ハ平面交叉トス）中道町ヲ經テ一等大路第三類第七號線終點ニ接続スルノ路線
但シ東雲町一丁目七十八番地ヨリ中道町二百五十一番地ニ至ル區間ハ幅員十五間乃至十九間トシ、猫間川以東平野川ニ至ル區間ハ路線ノ兩側ニ於テ各二十六間以內ヲ劃リ建築敷地ヲ造成ス
幅員 十五間

右公告ス

昭和四年六月十九日

內務大臣 望月圭介

六 西横堀線變更ノ件

大阪都市計畫事業街路ノ新設及擴張ノ部中一等大路第三類第一號線（西横堀線）變更ノ件左ノ通決定シ昭和四年十二月三日內閣ノ認可ヲ得タリ

三 一等大路第三類

第一號線（西横堀線）

肥後橋南詰ニ於テ一等大路第二類第一號線ヨリ分岐シ西長堀橋、深里橋及眠橋西詰ヲ經テ難波元町三丁目百八十番地ノ一ニ至ルノ路線
但シ湊町驛前ニ面積約五百四十坪ノ廣場ヲ設ク
幅員 十三間

右公告ス

昭和四年十二月十三日

內務大臣 安達謙藏

七 大川町線變更ノ件

大阪都市計畫事業街路ノ新設及擴張ノ部中一等大路第三類第十一號線（大川町線）變更ノ件昭和五年一月二十五日都市計畫大阪地方委員會ニ於テ左ノ通議決アリタリ

大阪都市計畫事業

第一 街路ノ新設及擴張ノ部

三 一等大路第三類

第十一號線（大川町線）

肥後橋南詰ニ於テ一等大路第二類第一號線ヨリ分岐シ西國橋ヲ經テ淀屋橋南詰ニ於テ廣路第一號線ニ接続スルノ路線
幅員 十三間五分乃至十六間五分

第四項 第二次の更正

前回の更正後歲を閱すること殆んど十年に近く、此の間大阪市は事業の完成に一入拍車を加へたる結果、豫定年度内に橋梁改築工事は八十一橋の改築を全部完成、路面鋪裝工事は材料費及び勞力費等に生じたる餘力を以て豫定の十八萬坪を超過して三十餘萬坪を完成、また本事業の中心たる街路の新設擴張について見るも道路工事、附屬工事共に可なり之の進況を見つゝあつた。他方諸都市の間にあつても都市計畫諸事業は漸次着手せられることとなり、此の情勢裡において本第一次都市計畫事業は全工程を完了するものと見られてゐた。是より先、本市は大正十四年の市域擴張後、市周圍部に於ける未成市街地の開發を目的とする土地區劃整理事業の助成に努め、或は小街路改良の事業を繼續的に執行し、又高速鐵

道事業に着手するなど、都市計畫事業の完遂に向つて直接間接に寄與するところ大なるものがあつた。然し交通情勢並びに經濟事情の推移と政府の方針の變革は既定事業の執行内容に更改を要するに至り、再び廣汎な更正が加へられることゝなつた。則ち本市は之が變更案を主務省に提出し、昭和六年十二月二十六日の都市計畫大阪地方委員會の諮問を経て、昭和七年一月二十九日內閣の認可を得たのである。之によつて事業執行年期は昭和十一年度までとし、事業費總額は一億六千五百六十八萬餘圓となつた。その概要を表記すれば次の通りである。なほ變更の理由並びに變更後の事業内容は末記の通りである。

- イ 街路新設及擴張 四〇路線 (他ニ阪神國道一線アリ)
- ロ 路面舗装 約十八萬坪
- ハ 路幅整理 約六萬七千坪
- ニ 橋梁改築 八十一橋

變更理由書 (都市計畫地方委員會議案第六六號添付)

大阪都市計畫事業ハ大正十年三月十九日內閣ノ認可ヲ受ケ大正十年度ヨリ昭和二年度ニ至ル七ケ年ノ繼續事業トシテ總事業費一億四千二十萬圓ヲ以テ執行ノ道程ニ在リシカ、大正十二年九月關東地方ニ於ケル大震災ノ慘害ニ鑑ミ一大變更ヲ必要トスルニ至リ、事業路線ノ追加延長ヲ爲スト共ニ、在來橋梁ノ改築事業ヲ加ヘ、事業費總額二億二千五百九十二萬二千四百四十四圓ニ更メ、事業執行年度ヲ昭和八年度迄ニ延長シ、大正十三年十一月二十九日內閣ノ認可ヲ得タリ

爾來着々トシテ事業ノ進捗ヲ見、橋梁(湊橋ヲ除ク)ノ改築、街路舗裝及路幅整理事業ノ全部ハ昭和五年度迄ニ完成セルモ、本事業ノ骨子ヲ爲ス街路ノ新設及擴張事業ハ、之カ執行財源ノ缺陷即チ都市計畫特別稅中土地增價稅ノ收入不能、受益者負擔金、國庫補助金、財産賣却代等ノ收入不足、其ハ他起債手續ノ遲延等ニ依リ尙相當ノ殘事業ヲ有スルノ現狀ナルニ、豫定年限ハ餘ス所僅カニ二ケ年餘ニ過キスシテ、到底本事業ハ豫定ノ年度內ニ完成スルノ見込ナキニ至リタルヲ以テ、其ノ後都市計畫

事業トシテ決定シタル高速軌道及市營路面軌道トノ關係、其ノ他諸般ノ事情ノ推移ニ依リ左ノ通變更シ、事業費總額ヲ一億六千五百八十九萬四千八百四十九圓餘ニ更メ、事業執行年度ヲ昭和十一年度迄延長セムトスルモノナリ

編者註 本變更理由書中、印ヲ附シタル事業費總額二億二千五百九十二萬二千四百四十四圓及一億六千五百八十九萬四千八百四十九圓ハ本市實施ノ繼續事業費ニ於テ夫々二億二千二百九十九萬三千四百七十二圓及一億六千五百六十八萬四千六百四十四圓ト計上セルモノナリ (第三編第二章第三節參照)

一 高速度軌道トノ關係ニ依ルモノ

松屋町筋線、長堀線、天神橋西筋線及善源寺野江線ハ高速度軌道敷設ノ豫定線ニシテ、善源寺野江線ヲ除ク三線ハ何レモ幅員十五間ナリシモ、現ニ實施中ノ第一期高速度軌道事業執行ノ實績ト將來ニ於ケル街路交通ノ點ヨリ考慮シ、松屋町筋線ハ現ニ執行中ノ部分ヲ除キ幅員ヲ十三間ニ、長堀線ハ末吉橋以西ヲ十三間半ニ、天神橋西筋線ハ既ニ執行済ノ部分ヲ除キ十三間ニ更メ尙長堀線及天神橋西筋線中既ニ執行済又ハ現ニ執行中ニ係ル部分ヲ除キ、他ハ現在八間乃至十間ノ幅員ヲ有シ路面軌道運轉中ノモノナレハ、今直ニ事業執行ノ急ヲ認メサルヲ以テ沿道住民ニ及ホス影響ヲ少ナカラシムカ爲、將來高速度軌道事業ト同時ニ執行セシムルコトトシ、事業路線ヨリ削除シ、暫ク都市計畫トシテ決定シ置クニ止メ、又善源寺野江線ハ現在幅員十二間ニ定メアルモ、高速度軌道ノ敷設ニ備ヘ此ノ際幅員ヲ十五間ニ更メムトスルモノナリ

二 路面軌道トノ關係ニ依ルモノ

天満谷町線及梅ヶ枝町線ハ當初路面軌道敷設ノ豫定ナリシモ、最近交通機關ノ發達殊ニ乗合自動車ノ著シキ發達ニ依リ、路面軌道敷設ノ經濟的不利ニシテ寧ロ乗合自動車ヲ以テスルノ有利ナルヲ認メ、天満谷町線ハ天満橋ノ改築ヲ除クノ外幅員ヲ七間ニ、梅ヶ枝町線ハ現ニ相當幅員ヲ有スルヲ以テ特ニ擴張ノ要ナシト認メ之ヲ削除シタリ

三 其ノ他ノ事情ニ依ルモノ

水崎町線及九條市岡線ハ共ニ前後ノ街路ノ連絡ヲ考慮シ前者ハ之ヲ短縮シ、後者ハ之ヲ延長シ、尙九條市岡線ハ現計畫幅員十間ヲ八間ニ變更シタリ

猪飼野線中起點ヨリ勝山通四丁目ニ至ル區間ハ財源ノ都合上暫ク都市計畫トシテ決定シ置クニ止メタリ

玉江橋筋線中起點ヨリ梅田九條線ニ至ル區間(玉江橋及常安橋ノ改築ヲ除ク)ハ其ノ東方江戸堀十三線ト近接シ、交通上

其ノ必要ナシト認メタルヲ以テ削除シタリ
長堀線、善源寺野江線、天満浦生線、猪飼野線及難波住吉線ノ沿道區域ニ於テ行フ建築敷地造成事業ハ、其ノ後土地區劃整理組合設立セラレ該事業ヲ施行シタルニ依リ、其ノ必要ナキニ至リタルモノ及同區域内ニ建築物ノ建築セラレ執行頗ル困難ニ陥リタルヲ以テ全部削除スルコトトシタリ
土佐堀川ニ架スル湊橋ハ江戸堀島線中ノ橋梁ト近接スルヲ以テ削除スルコトトシタリ

本變更に依つて第一次都市計畫事業は左の通り公示された。

大阪都市計畫事業並執行年度割變更ノ件

大正十年三月十九日内閣認可大阪都市計畫事業並ニ執行年度割左ノ通變更シ昭和七年一月二十九日内閣ノ認可ヲ得タリ

大阪都市計畫事業

第一中

三 一 等大路第三類

第二號線 (松屋町筋線)

鳴尾町二番地ノ一ヨリ天神橋及松屋町ヲ經テ逢坂下之町四十七番地地先ニ至リ一等大路第三類第十三號線ニ接続スルノ路線
幅員 十三間

但シ起點ヨリ天神橋南詰ニ至ル區間ハ幅員十五間トス

第十號線 (難波住吉線) 但書ヲ削ル

第十二號線 (長堀線)

末吉橋西詰ヨリ末吉橋、西堀町及谷町六丁目ヲ經テ上本町二丁目三番地ノ一地先ニ至ル區間及東雲町一丁目七十八番地ヨリ中道黒門町ニ至リ國有鐵道城東線路下ヲ過キ中道本通二丁目ヲ經テ一等大路第三類第七號線終點ニ至ル區

間並ニ伯樂橋及上繫橋改築

但シ東雲町一丁目七十八番地ヨリ中道本通二丁目百六十番地ニ至ル區間ハ幅員十五間乃至十九間トス
幅員 十五間

第十四號線 (天神橋西筋線)

浪花町五番地ヨリ新澁川左岸天神橋筋九丁目八十九番地地先ニ至ル區間
幅員 十五間

第十六號線 (天満谷町線) 削除

第二十二號線 (善源寺野江線)

澤上江町四丁目十九番地ノ一ヨリ野江町二丁目三百十六番地ノ一ニ至リ一等大路第三類第五十三號線ニ接続スルノ路線
幅員 十五間

第二十四號線 (天満浦生線) 中但書ヲ左ノ通更ム

但シ蒲生町三十番地ヨリ野江町三丁目七百七十一番地ニ至ル區間ハ幅員十二間乃至十四間トス

第二十五號線 (猪飼野線)

勝山通四丁目十七番地ヨリ國有鐵道城東線路下ヲ過キ新平野川新架橋ヲ經テ猪飼野町八十八番地ニ至リ一等大路第三類第五十六號線ニ接続スル區間
幅員 十二間

第二十六號線 (梅ヶ枝町線) 削除

第二十九號線 (天満谷町線)

一 等大路第三類第十五號線終點ヨリ天満橋筋四丁目ニ至リ右折シ一 等大路第三類第二十四號線起點ニ至ル區間及天満橋改築
幅員 七 間

但シ天満橋ハ幅員十二間トス

四 二 等大路第一類

第十四號線 (水崎町線)

水崎町三十二番地ニ於テ一 等大路第三類第八號線ヨリ分岐シ南海鐵道阪堺線ニ至ルノ路線
幅員 十 間

第二十一號線 (九條市岡線) 削除

第四 章 第一次都市計畫事業

五 二等大路第二類

第五號線（九條市岡線）

本田二番丁十六番地ヨリ九條通二丁目及辰巳橋ヲ經テ辰巳橋西詰ニ至ルノ路線
但シ北境川町三丁目一番地ヨリ終點ニ至ル區間ハ幅員十間トス

幅員 八 間

第十六號線（玉江橋筋線）

江戸堀北通二丁目二十番地ニ於テ一等大路第二類第一號線ヨリ分岐シ阿波殿橋、紀井國橋並阿波堀川及立賣堀川ノ
各新架橋ヲ經テ西長堀北通二丁目三番地ニ至リ一等大路第三類第十二號線ニ接続スルノ路線並ニ玉江橋及常安橋改
築

幅員 七 間

第四中

(七) 湊 橋 削除

第八 本事業ノ執行年度割左ノ通定ム

自大正十年度	約 六割七分二厘	昭和九年度	約 四分五厘
至昭和五年度		昭和十年度	約 四分四厘
昭和六年度	約 七分七厘	昭和十一年度	約 三分九厘
昭和七年度	約 六分七厘		
昭和八年度	約 五分六厘		

右公告ス

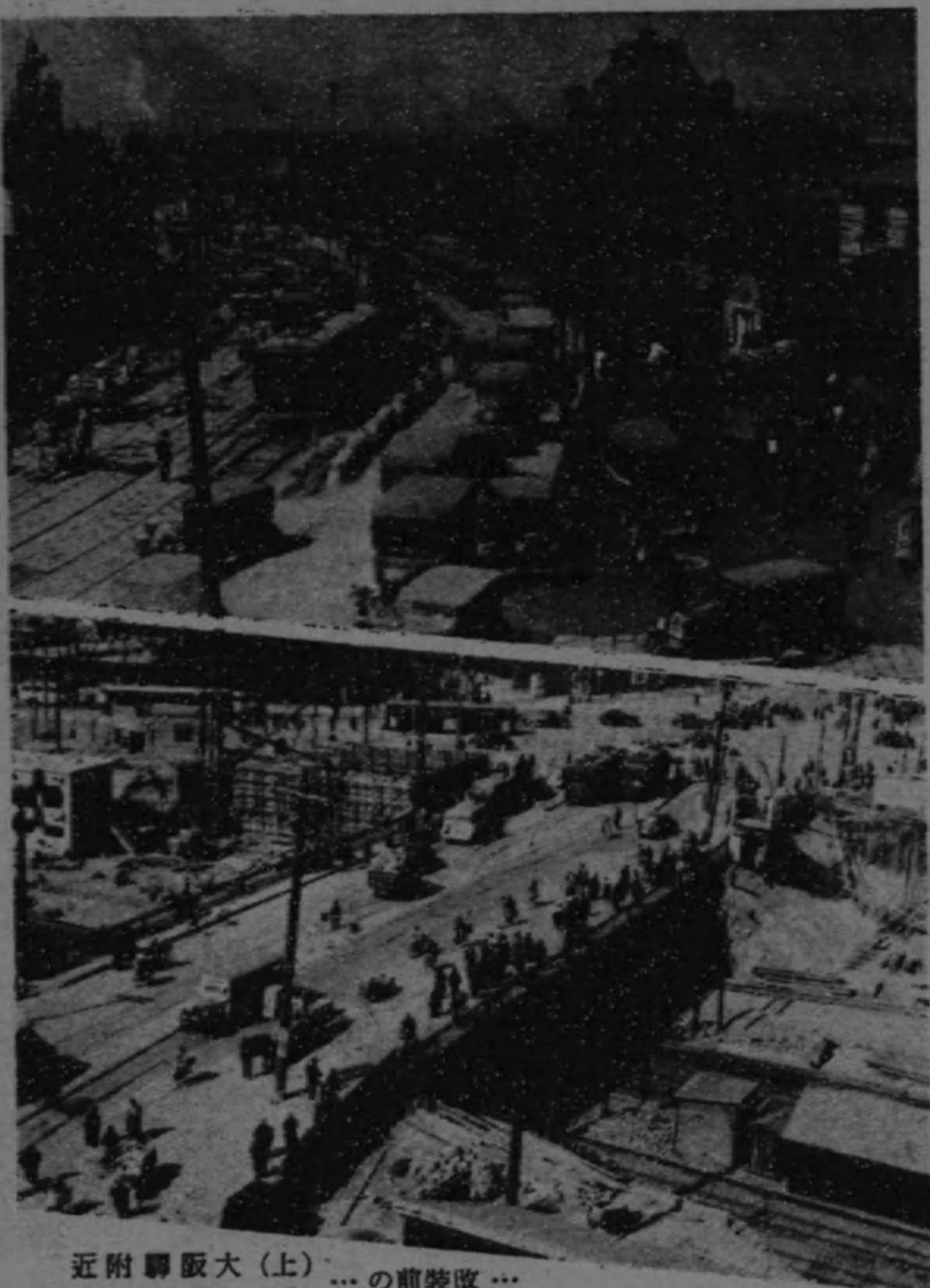
昭和七年二月八日

内務大臣 中橋徳五郎

第五項 現在迄の變更及び現行の事業

本事業の根本的な變更は前回のそれを以て大體終つたのであるが、事業實施上の必要か

ら生じた些少の變更、又は執行年度割の變更等は其後も數次加へられてゐる。而して本項の四に掲ぐるところの昭和十一年十二月に内閣の認可を得たものは、本事業の財政方面に關し最後の變更を及ぼしたものと見るべきである。その内容については經理編に記述するが、大體、交通情勢の變化、用地買收の困難及び財政上の問題等から事業路線の一部を削除し、また他の工事との關係から事業執行年期を延長したものである。即ち之によつて従



近附驛阪大(上) ...の前後收...
近附驛寺王天(下)

前の事業費一億六千五百六十八萬四千餘圓は一億六千二百五十萬一千餘圓に減少せられ、執行年期は昭和十三年度迄二ヶ年間延長せられた。之が現行事業である。

なほ執行年期については昭和十三年度以降は残事業を實施する目的を以て昭和十六年度まで毎年内閣の認可を

經て年度延長を行つて來た。而して昭和十七年度に於ては殘部工事を竣へ、第一次大阪都市計畫事業を完了する豫定である。

最後に附記して置き度いのは、本事業計畫中の街路たる御堂筋線、梅田九條線及び梅田十三線が別途事業によつて再度變更を加へられてゐることである。即ち、叙上の三街路はその大阪驛附近の部分が大阪驛附近都市計畫(街路)事業として別途豫算に依つて執行中である關係上、御堂筋線は別に幅員五十四間の部分と驛前廣場並びに附設地下道を、梅田九條線は幅員十八間の部分を、また梅田十三線は幅員二十二間五分の部分と附設地下道を有することとなる。(未記参考表参照)

一 難波住吉線變更ノ件

大正十年三月十九日內閣認可大阪都市計畫事業中第六ニ依り都市計畫大阪地方委員會ノ議ヲ經テ變更シタルモノ左ノ如シ其ノ關係圖面ハ大阪府役所ニ備ヘ置キ縱覽ニ供ス

第一中

三 一等大路第三類

第十號線(難波住吉線)ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ敷津町二丁目十三番地ヨリ敷津町三丁目二十二番地ニ至ル區間ハ別紙圖面ノ通幅員十五間乃至二十二間トス(圖面省略)

右公告ス

昭和八年四月六日

內務大臣 男爵 山本 達 雄

二 堀江玉造線變更ノ件

內務省告示第六百二十一號

大正十年三月十九日內閣認可大阪都市計畫事業街路中左ノ通變更シ昭和十年十二月六日內閣ノ認可ヲ得タリ其ノ關係圖面ハ大阪府廳及大阪府役所ニ備ヘ置キ縱覽ニ供ス

昭和十年十二月十七日

內務大臣 後 藤 文 夫

二等大路第二類第十三號線(堀江玉造線)中一等大路第三類第二號線(松屋町筋線)トノ交會點ヨリ二等大路第二類第十號線(谷町筋線)トノ交會點ニ至ル區間ヲ左ノ通更ム

等級	類別	番號	街路名稱	變更區間ノ起點	變更區間ノ終點	幅員(間)
二	二	一三	堀江玉造線	瓦屋町二番丁	谷町八丁目	七

別紙圖面表示ノ通(圖面省略)

三 平野町線變更ノ件

內務省告示第五百六十七號

大正十年三月十九日內閣認可大阪都市計畫事業中第六ニ依り都市計畫大阪地方委員會ノ議ヲ經テ變更シタルモノ左ノ如シ其ノ關係圖面ハ大阪府廳及大阪府役所ニ備ヘ置キ縱覽ニ供ス

昭和十一年十月二十三日

內務大臣 潮 惠之輔

二等大路第二類第十一號線(平野町線)中一等大路第三類第五十九號線(天滿谷町線)トノ接續點附近ヲ別紙圖面表示ノ

第四章 第一次都市計畫事業

第四章 第一次都市計畫事業

一七四

通改ム但シ一等大路第三類第五十九號線(天満谷町線)トノ接続點ニ於ケル街角剪除線ハ之ヲ都市計畫トシテ存置スルモノトス(圖面省略)

四 大阪都市計畫事業並執行年度割變更ノ件

內務省告示第六百六十三號

大正十年三月十九日內閣認可大阪都市計畫事業並ニ執行年度割左ノ通變更シ昭和十一年十二月七日內閣ノ認可ヲ得タリ
昭和十一年十二月十六日

內務大臣 潮 惠之輔

大阪都市計畫事業

第一中

二等大路第二類第十五號線(中橋筋線)同第十六號線(玉江橋筋線)中江戶堀北通二丁目二十一番地ヨリ終點ニ至ル區間及同第十七號線(富田屋橋筋線)中起點ヨリ幸町通一丁目十七番地ノ二ニ至ル區間ヲ削除ス但シ原計畫線ハ之ヲ都市計畫トシテ存置スルモノトス

第八 本事業ノ執行年度割ヲ左ノ通定ム

自大正十年度	約	八割九分一厘
至昭和十年度		
昭和十一年度	約	七分八厘
昭和十二年度	約	二分六厘
昭和十三年度	約	五分五厘

五 大阪都市計畫事業並ニ執行年度割中變更ノ件

內務省告示第一百五號

大正十年三月十九日內閣認可大阪都市計畫事業並ニ執行年度割中變更ノ件左ノ通り決定シ昭和十四年三月四日內閣ノ認可ヲ得タリ

昭和十四年三月二十二日

內務大臣 侯爵 木 戶 幸 一

第八 本事業ノ執行年度割ヲ左ノ通り定ム

自大正十年度	約	九割五分六厘
至昭和十二年度		
昭和十三年度	約	三分
昭和十四年度	約	一分四厘

六 大阪都市計畫事業並ニ執行年度割中變更ノ件

內務省告示第二百八十六號

大正十年三月十九日內閣認可大阪都市計畫事業並執行年度割中左ノ通變更シ昭和十五年三月三十日內閣ノ認可ヲ得タリ
昭和十五年四月二十三日

內務大臣 兒 玉 秀 雄

第八 本事業ノ執行年度割ヲ左ノ通定ム

自大正十年度	約	九割七分三厘
至昭和十三年度		
昭和十四年度	約	一分三厘
昭和十五年度	約	一分四厘

第四章 第一次都市計畫事業

一七五

七 大阪都市計畫事業並ニ執行年度割中變更ノ件

内務省告示第一五八號

大正十年三月十九日内閣認可大阪都市計畫事業並執行年度割中左ノ通變更シ昭和十六年三月三十一日内閣ノ認可ヲ得タリ
昭和十六年四月十七日

内務大臣 平沼騏一郎

第八 本事業ノ執行年度割ヲ左ノ通定ム

自大正十年度	約	九割八分一厘
至昭和十四年度	約	一分一厘
昭和十五年度	約	八厘
昭和十六年度	約	八厘

現行第一次大阪都市計畫事業一覽

第一 街路新設擴築之部

路線番號	路線名	自	區	至	幅員
廣路一	御堂筋線	大阪驛前	難波驛前	難波驛前	四三六
一一一	梅田九條線	九條通一丁目	東梅田町	東梅田町	一六
一一一	西横堀線	肥後橋南詰	元町三丁目	元町三丁目	一三
一一二	松屋町筋線	鳴尾町	逢坂下之町	逢坂下之町	一三一
一一三	梅田十三線	大阪驛前	中津濱通	中津濱通	一五
一一四	堂島十三線	堂島大橋南詰	中津濱通	中津濱通	一一
一一五	城南線	谷町三丁目	森之宮東之町	森之宮東之町	一一
一一六	鶴橋線	上本町六丁目	大今里町	大今里町	一一
一一七	紀州街道線	日本橋筋三丁目	東今舟町	東今舟町	一一
一一八	難波住吉線	難波新地五番丁	住吉公園	住吉公園	一一
一一九	大川町線	肥後橋南詰	淀屋橋南詰	淀屋橋南詰	一三
一二〇	長堀線	末吉橋西詰	上本町二丁目	上本町二丁目	一三
一二一	逢坂線	東雲町一丁目	大今里町	大今里町	一三
一二二	天神橋西筋線	浪花町	天神橋筋九丁目	天神橋筋九丁目	一三

一三五	北野線	角田町	扇橋南詰	一五	(三七三)
一三七	泉尾市岡線	大正通四丁目	尻無川左岸	一二	(三八)
一三八	春日出傳法線	四貫島大通三丁目	傳法町北四丁目	一二	(三八)
一三九	泉尾縦貫線	北泉尾町三丁目	新千歳町	一二	(三八)
一三〇	法圓阪町線	京橋一丁目	上本町二丁目	一〇一二	(八三—三八)
一三三	阿部野線	逢坂上之町	阿倍野筋六丁目	一三	(三六)
一三三	善源寺野江線	都島本通四丁目	野江町二丁目	一五	(七三)
一三三	玉造野江線	東雲町一丁目	森之宮東之町	一二	(三八)
一三四	天滿蒲生線	空心町二丁目	蒲生町	一二一四	(二八—三五)
一三五	猪飼野線	勝山通四丁目	猪飼野町	一二	(三八)
一三九	天滿谷町線	扇橋南詰	空心町二丁目(及天滿橋)	七一二	(二七—三八)
一三三	大阪奈良線	國分町	國有鐵道城東線	一〇	(八二)
一三四	水崎町線	水崎町地内		一〇	(八二)
二一六	澤上江町線	東野田四丁目	都島本通三丁目	一〇	(八二)
二二一	北安治川通線(本線)	上福島南一丁目	北安治川通一丁目	八	(四五)
二二一	同(支線)	下福島二丁目(分岐)	下福島二丁目(新設津橋北詰)	八	(四五)
二二四	江戸堀十三線	江戸堀上通二丁目	西梅田町	八一二	(四五—三八)
二二五	九條市岡線	本田二番町	辰巳橋西詰	八一〇	(四五—八三)
二二二	平野町線	唯喉場橋西詰	大手前之町	七	(三七)
二二三	久寶寺町線	立賣堀南通一丁目	玉堀町	七	(三七)

二二三	堀江玉造線	千代崎橋西詰	南玉造町	七	(三七)
二二四	三休橋筋線	栴檀木橋北詰	三休橋北詰	七	(三七)
二二六	玉江橋筋線	玉江橋及常安橋		七	(三七)
二二七	富田屋橋筋線	櫻川一丁目	榮町二丁目	七	(三七)
二二八	江戸堀西濱線	江戸通北通五丁目	西濱南通三丁目	七	(三七)
二二九	御藏跡町線	日本橋筋三丁目	高津五番丁	七	(三七)

他二阪神國道一線 大阪府知事執行 市都市計事業費分擔

第二 街路鋪裝工事之部

既設街路中面積凡十八萬坪

第三 路幅整理之部

在來ノ街路ニシテ既定ノ幅員ニ滿タサルモノハ之ヲ整理シ既定ノ幅員ト爲スモノトス

面積凡六萬七千坪

第四 橋梁改築之部

左ノ橋梁ハ耐久の構造ニ改築スルモノトス

(本節第四項ノ通りニ付省略)(後欄ヲ削リ第二項表記ノ通り)

八十一橋

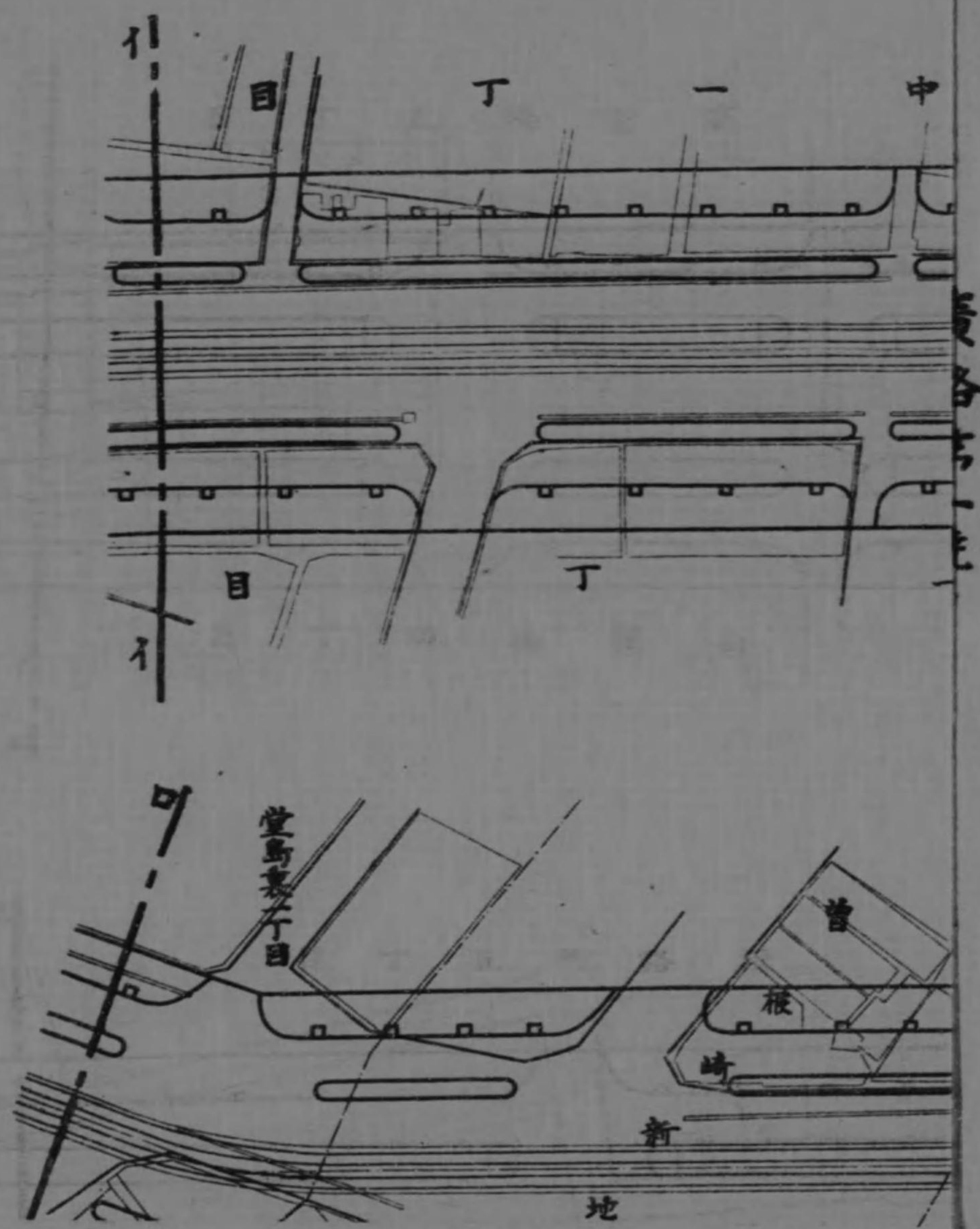
第五 事業執行年度割

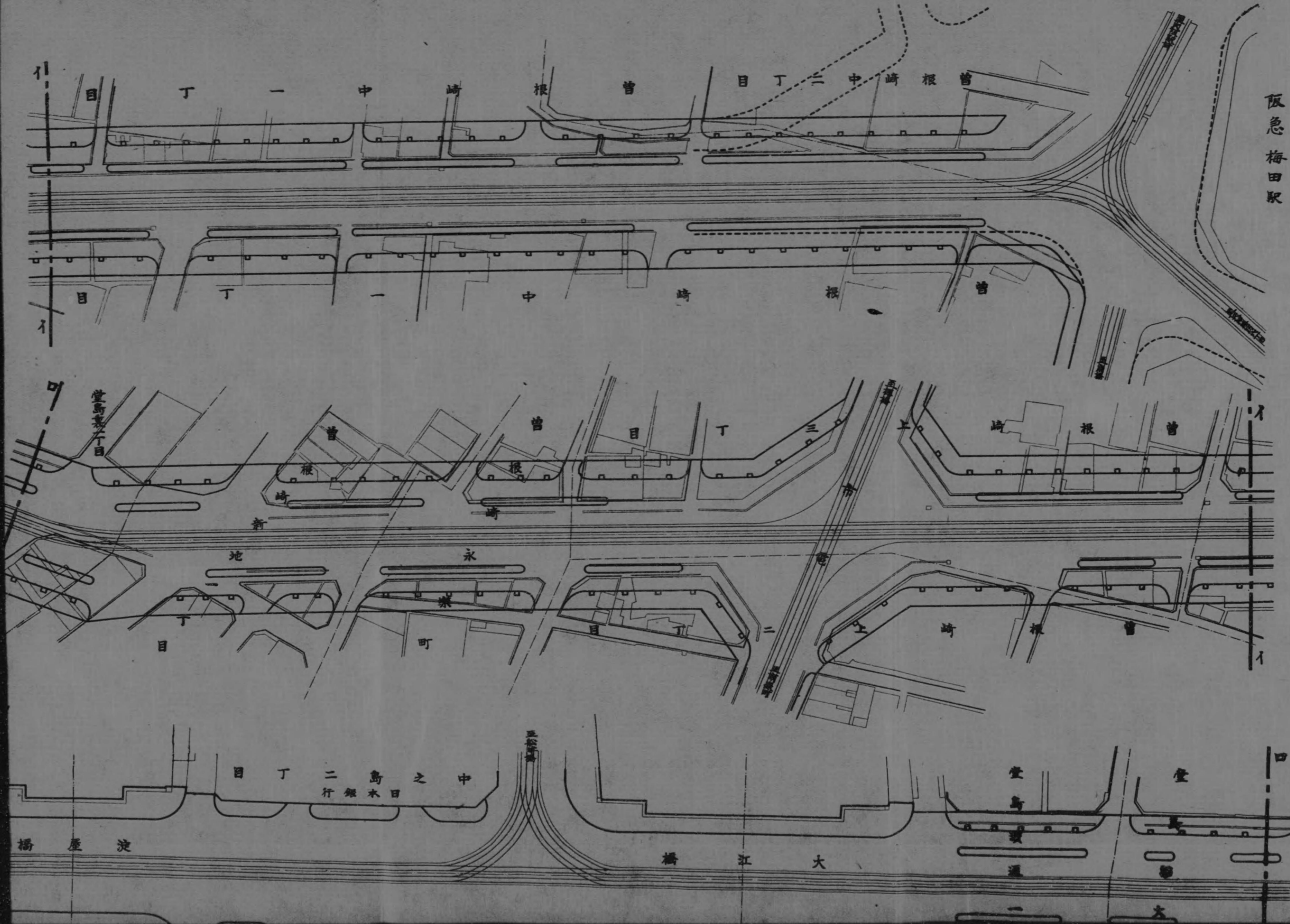
自大正十年度	約	九割八分一厘
至昭和十四年度	約	一分一厘
昭和十五年	約	一分一厘
昭和十六年度	約	八厘

(參考)

大阪驛附近都市計畫事業中御堂筋線他二路線ノ事業

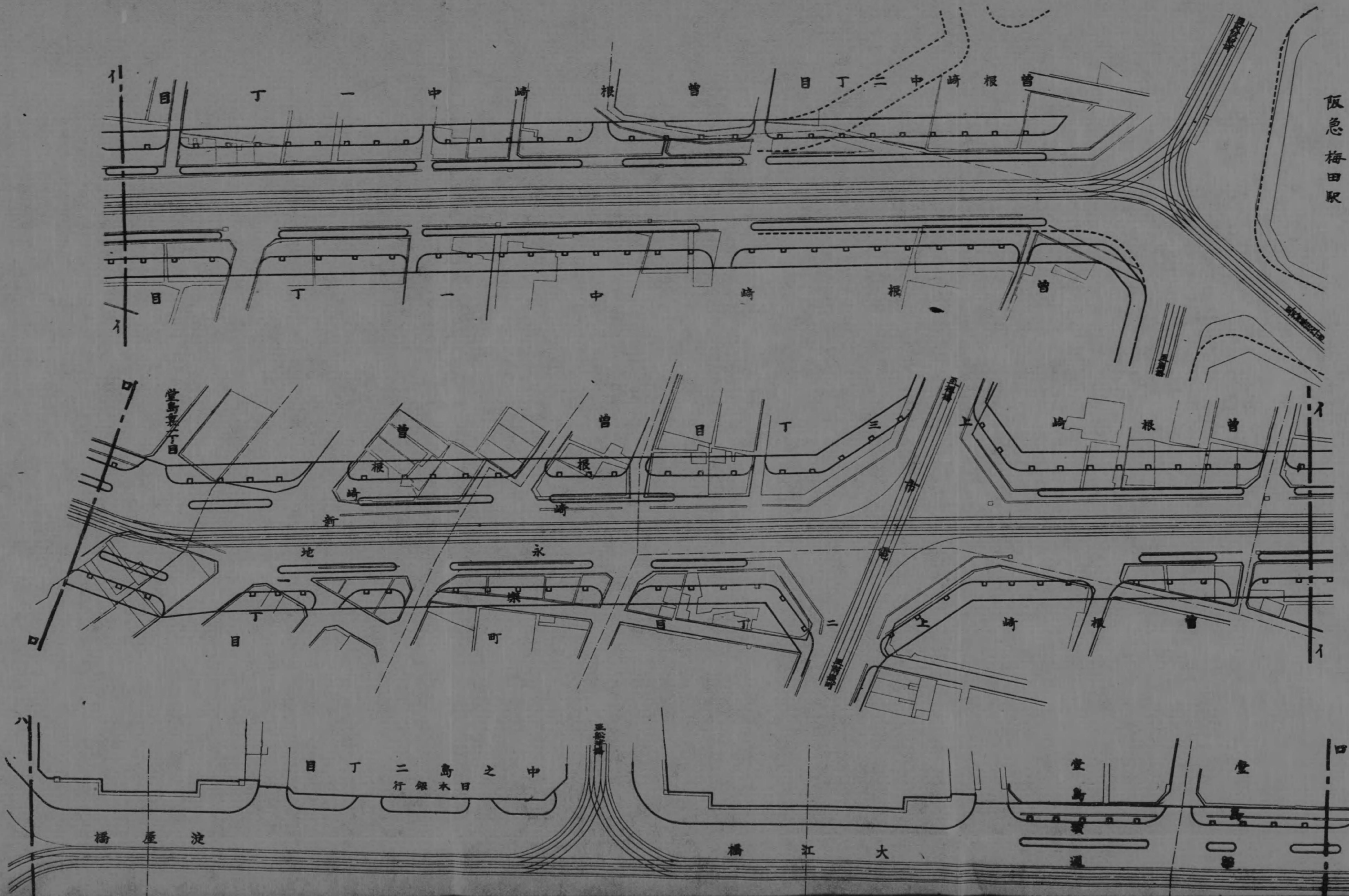
路線番號	路線名	區間	幅員
廣路一	御堂筋線 大阪驛前(梅田九條線終端)	難波驛前	二四一五四 (四四一九八)
第一號	大阪驛前ニ地積約四、二〇〇坪ノ廣場ヲ設ケ左ノ地下道ヲ附設ス	第二號地下道	
第二號	舊阪神電鐵停車場	東梅田町	
第三號	大阪驛西方部	東梅田町	
第四號	第二號地下道中央部	第四號地下道中央部	
第五號	大阪驛中央部	東梅田町	
第六號	第四號地下道中央部	第七號地下道	
第七號	大阪驛東方部	東梅田町	
第八號	市營高速地下鐵道梅田驛附近廣場		四六二坪(約一、五二七) 二、七二五坪(約九、〇〇七) 一六一八 (二九一三七) 一五三三五 (三三三四・九)
梅田九條線	第七號東方地下道廣場	廣路第一號線	
梅田十三線	九條通一丁目	中津濱通五丁目	
左ノ地下道ヲ附設ス	梅田町		
第一號	大阪驛東部	角田町	





阪急梅田駅

廣路第一號
御堂筋線
至自淀
屋根
橋崎



廣路第一號
 御堂筋線
 至自淀曾
 屋根
 橋崎

大江橋

通

大

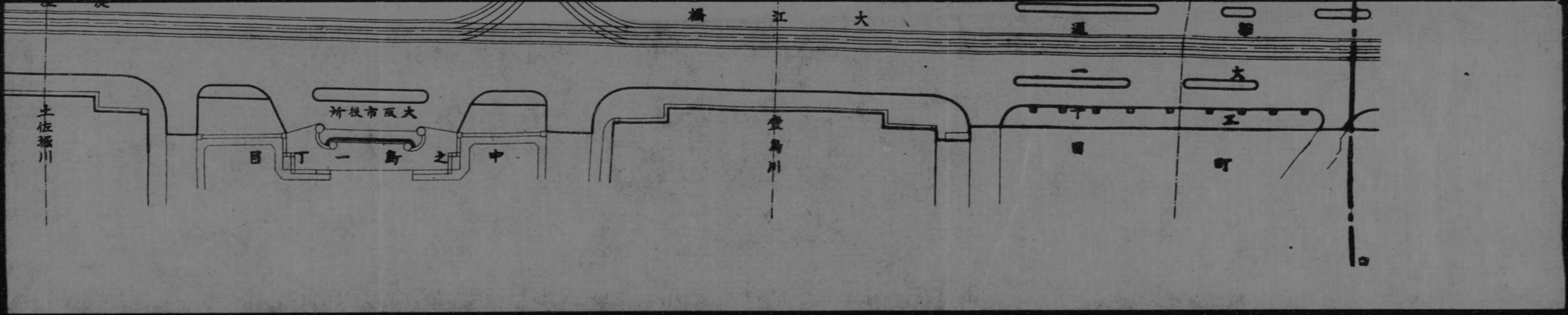
大坂市役所

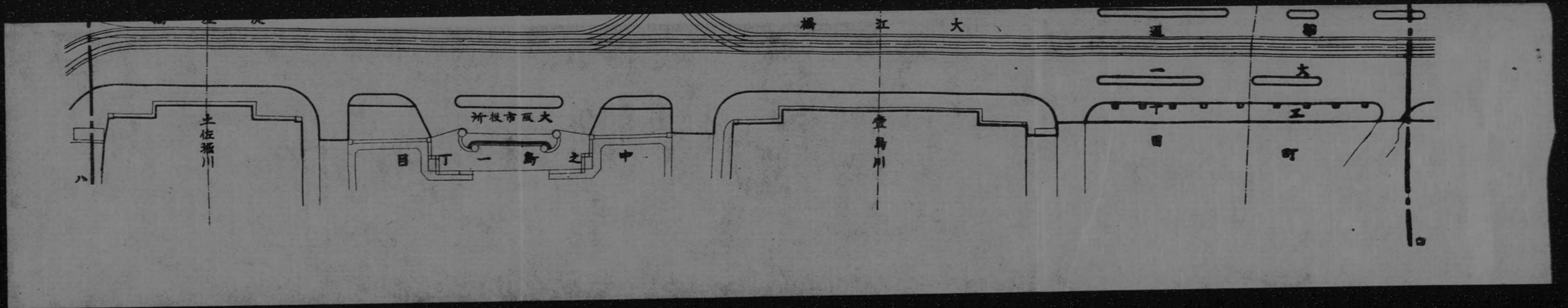
中之島一丁目

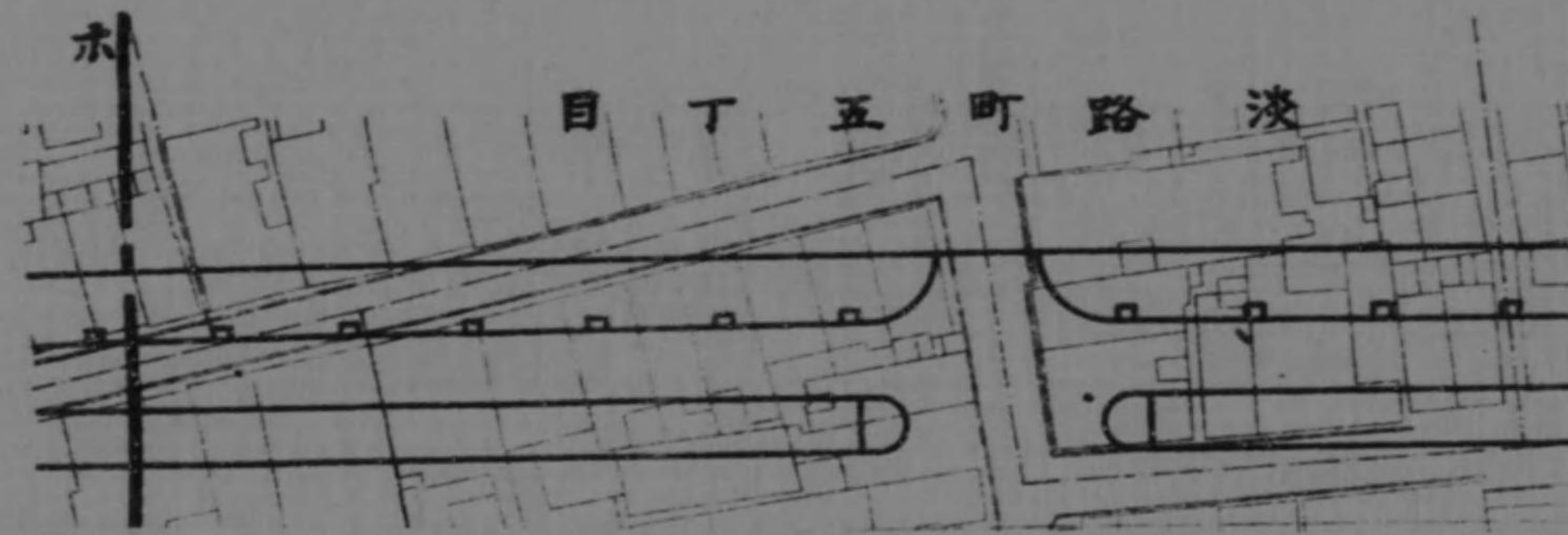
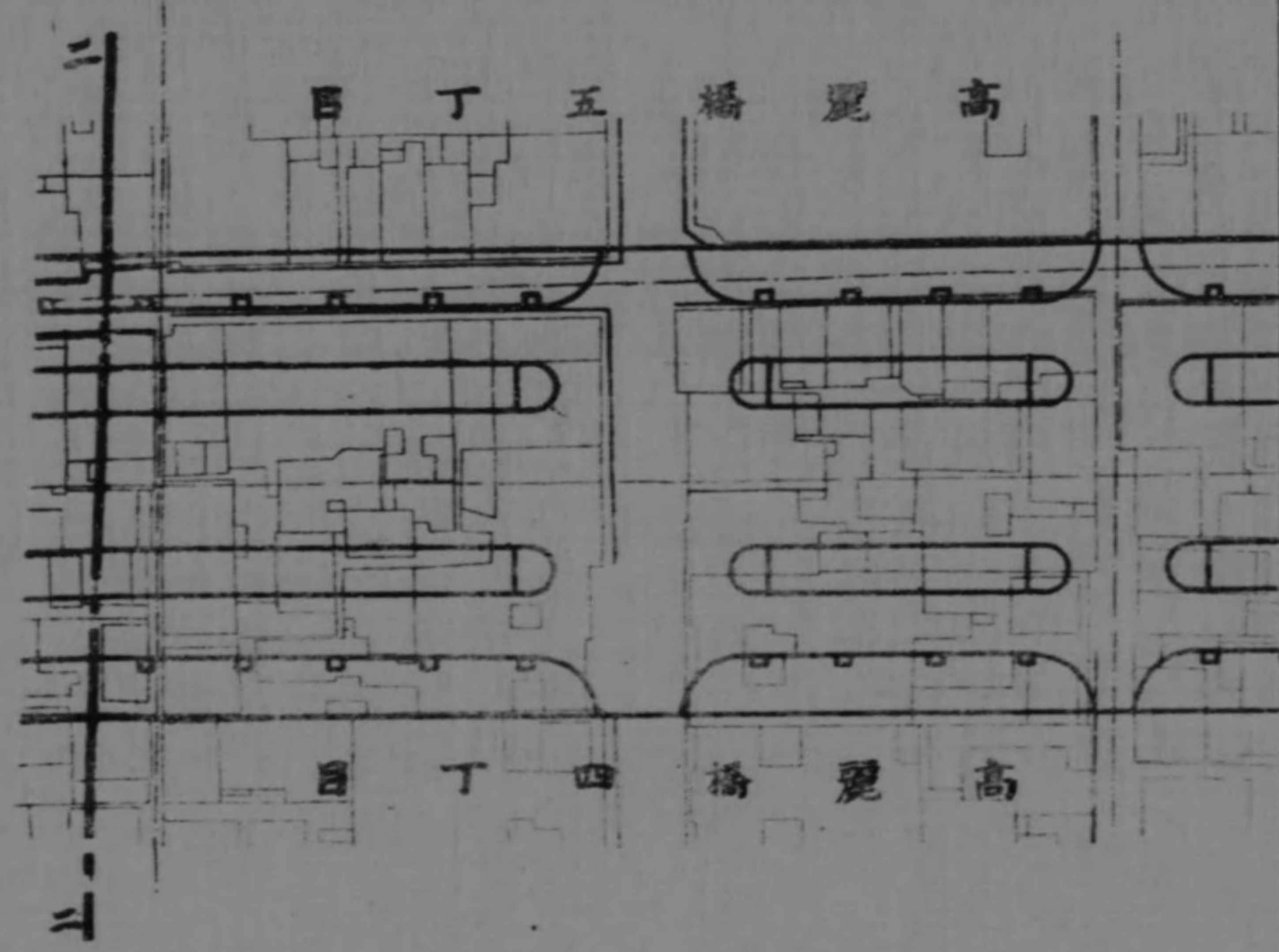
堂島川

町

土佐堀川







高麗橋

淡路町

水

水

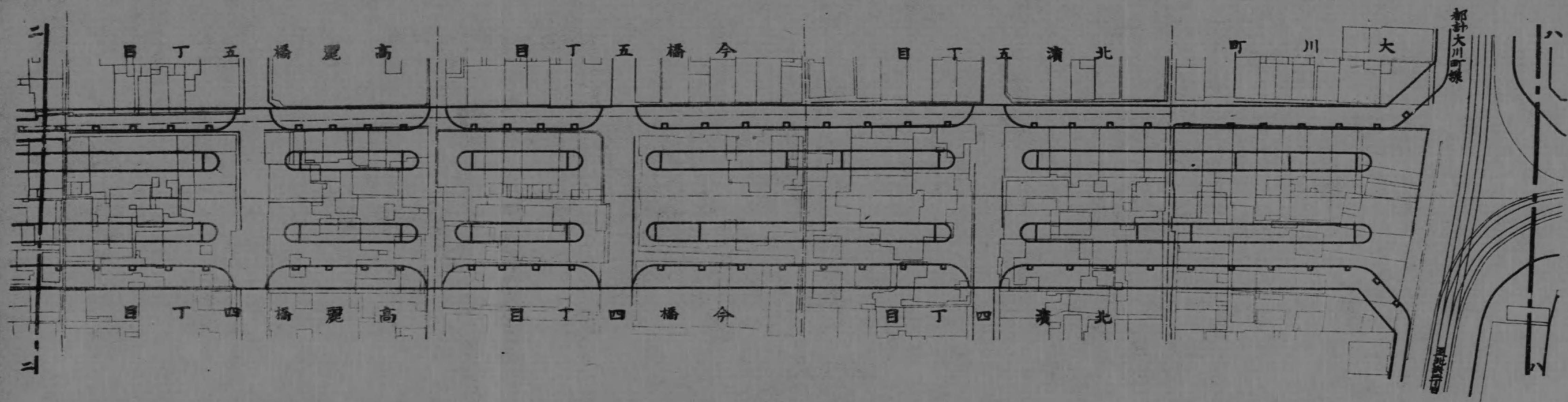
高麗橋

淡路町

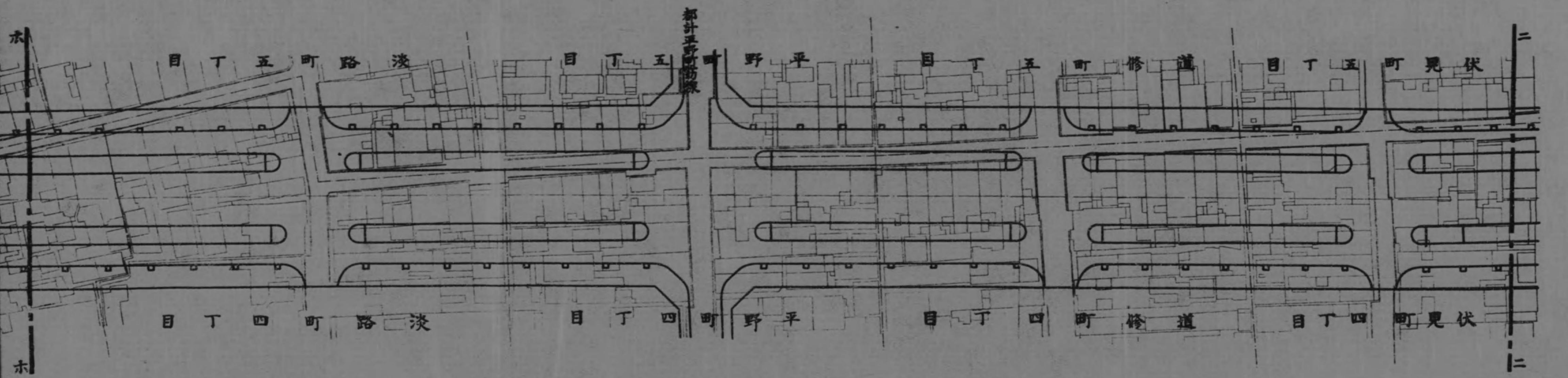
水

水

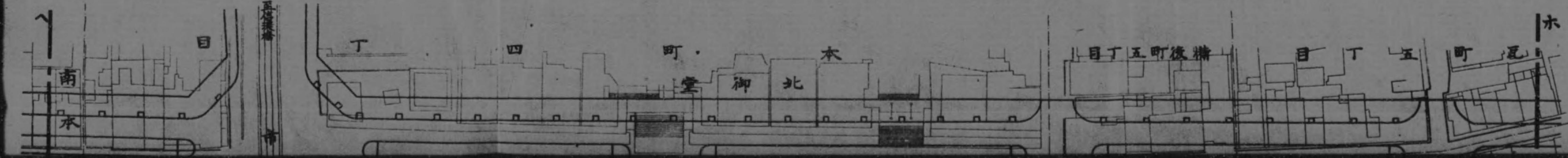


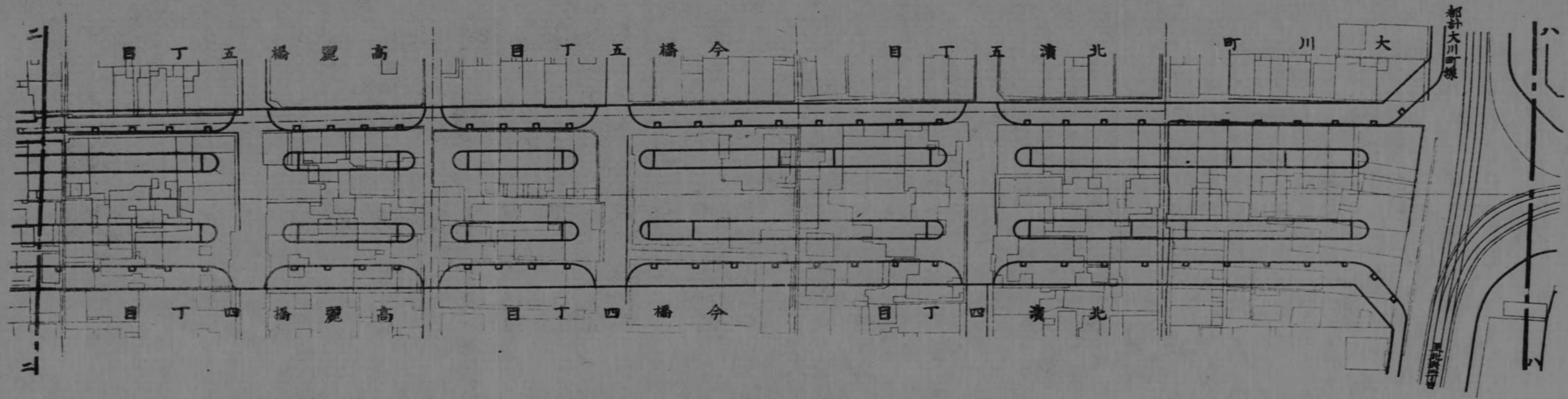


御堂筋線

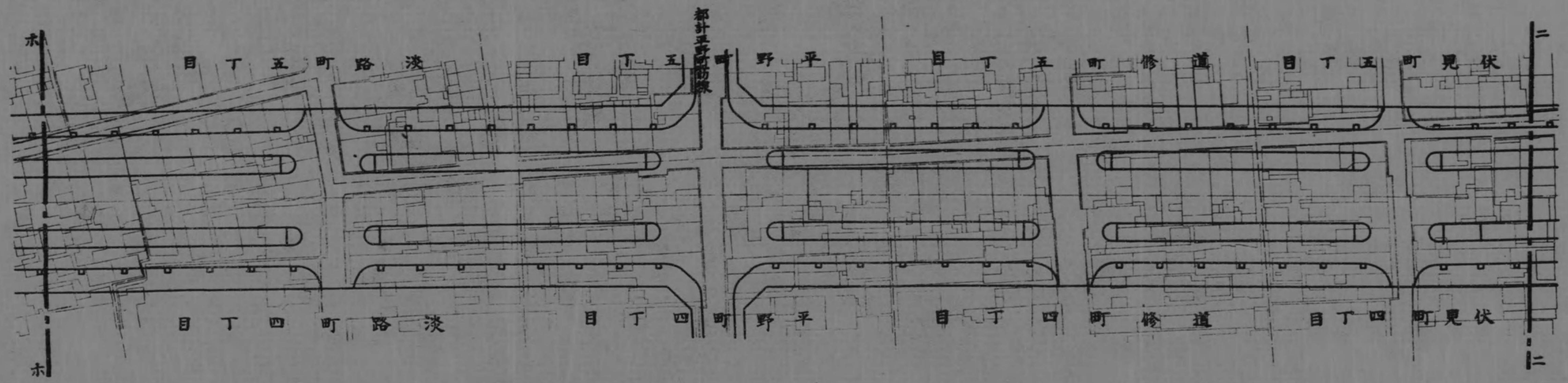


自淀屋橋
至南本町四丁目

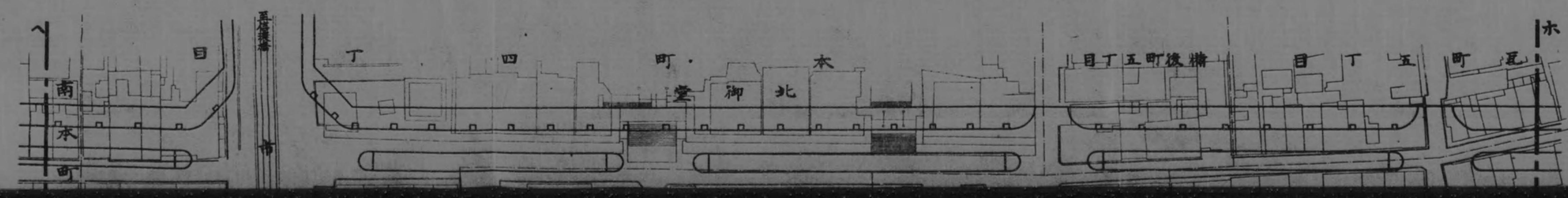


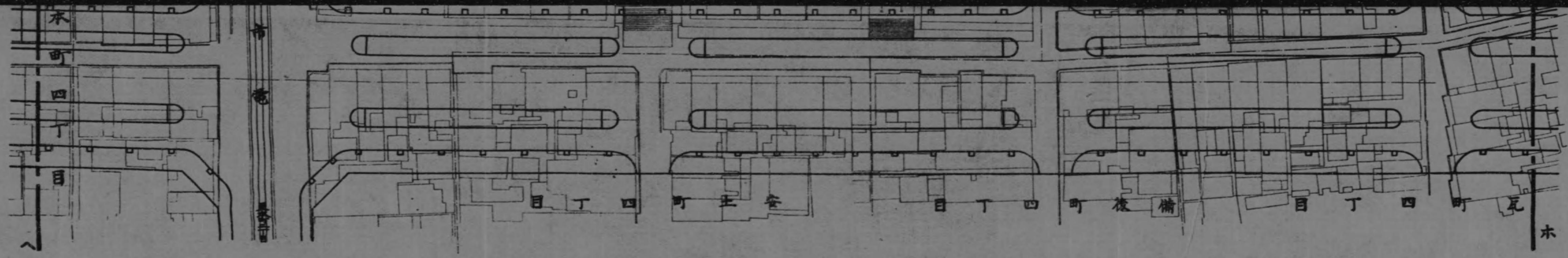


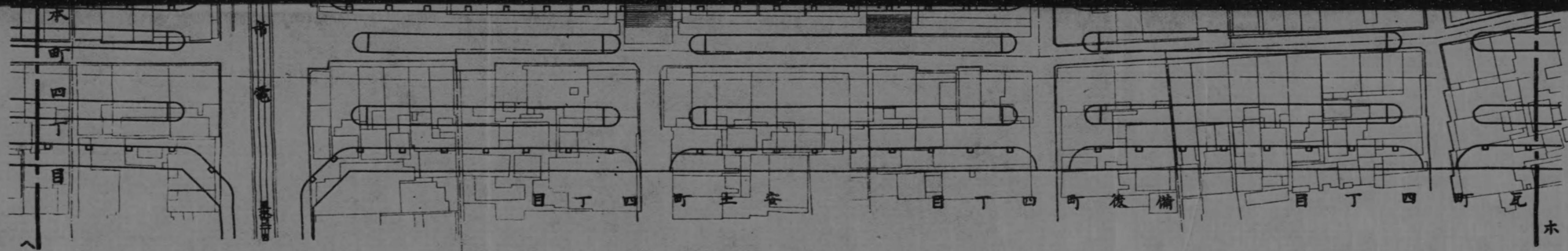
御堂筋線

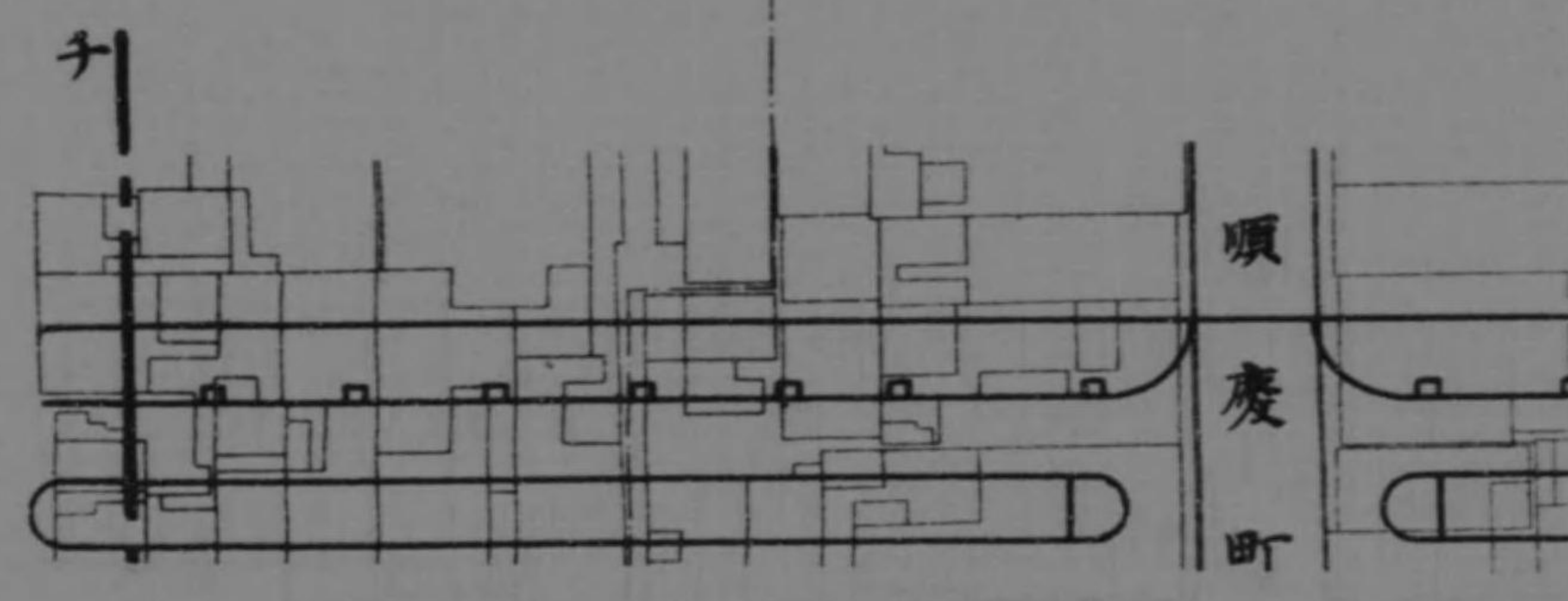
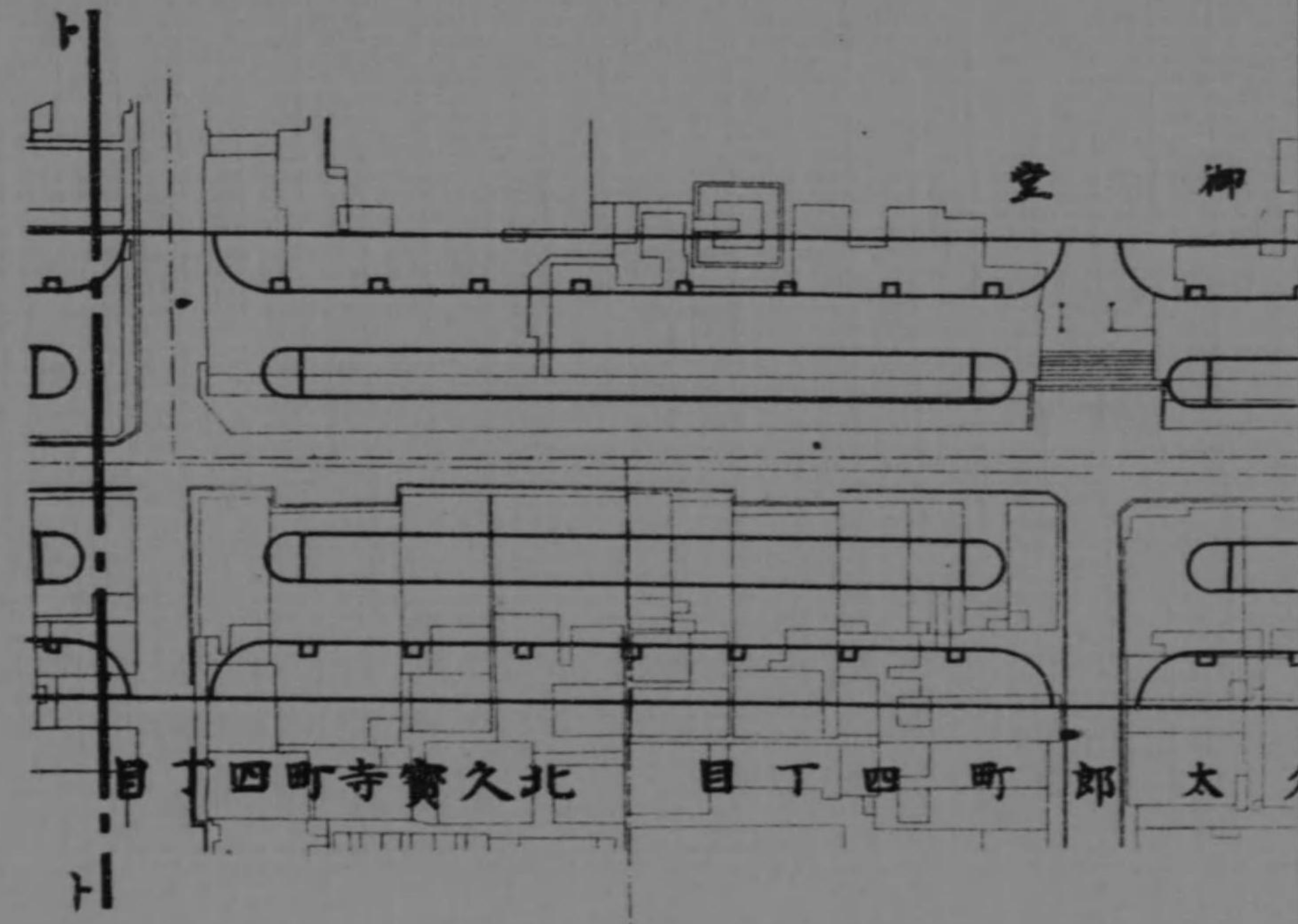


自淀屋橋
至南本町四丁目



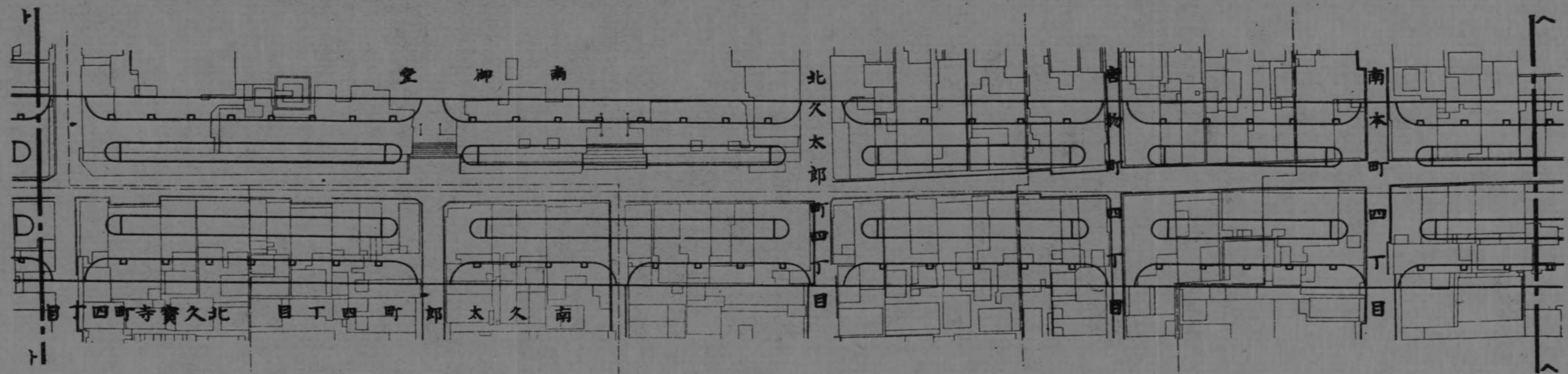






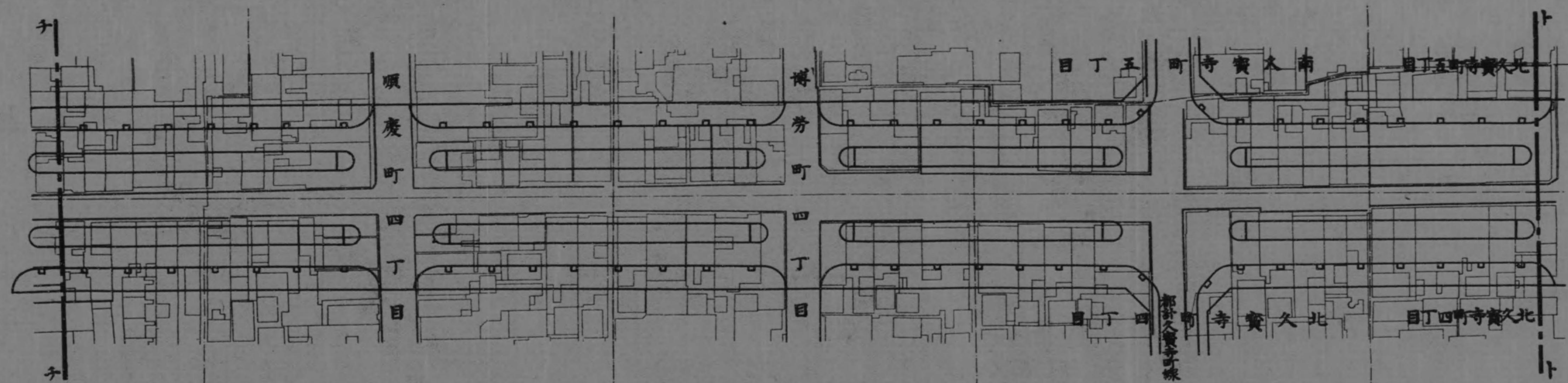
明堂胡然

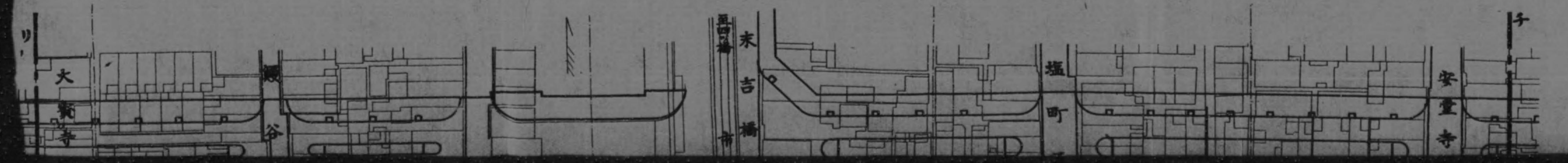
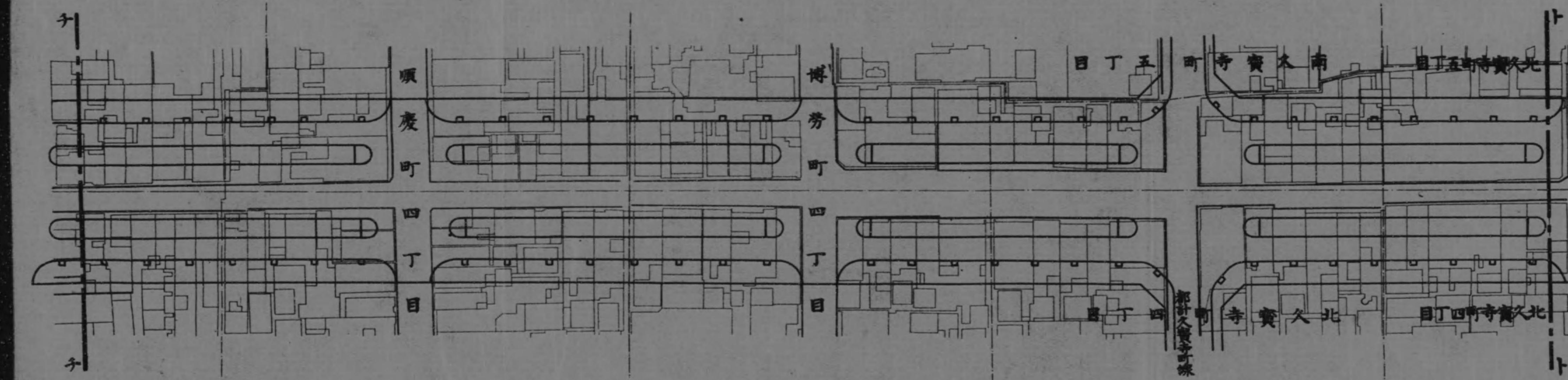
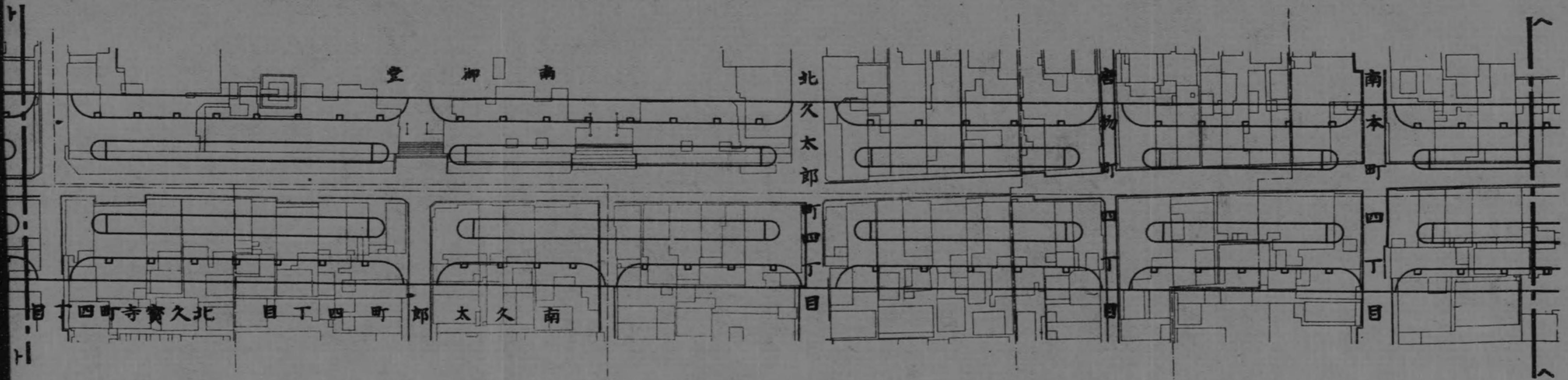
自至
來南
本
里
下
目



御堂筋線

自南本町四丁目
至大寶寺町西之町



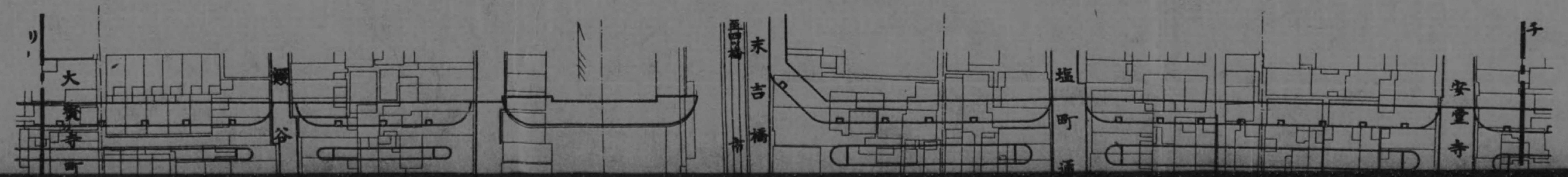
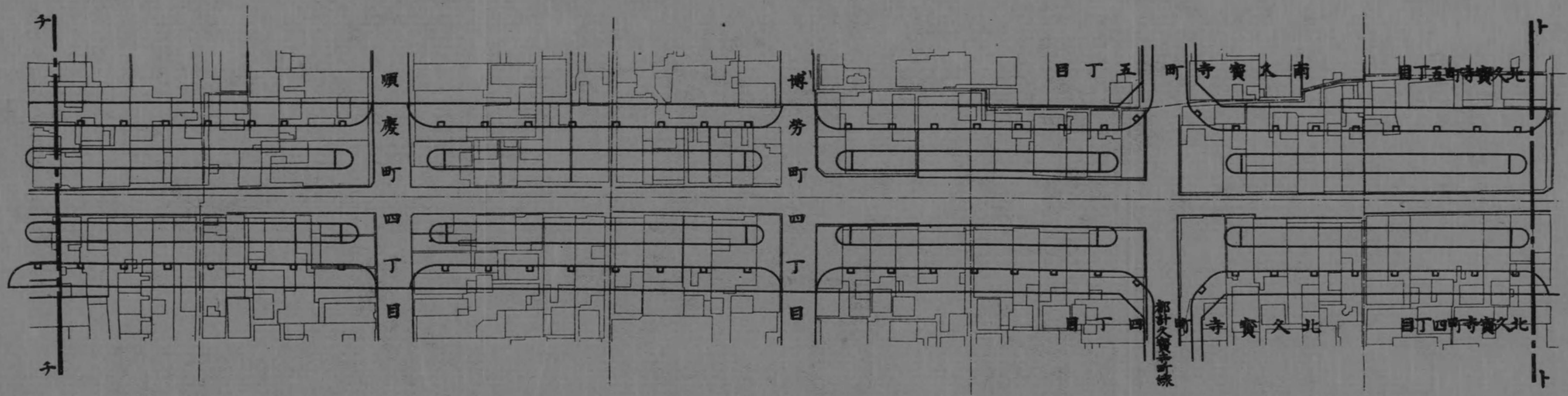
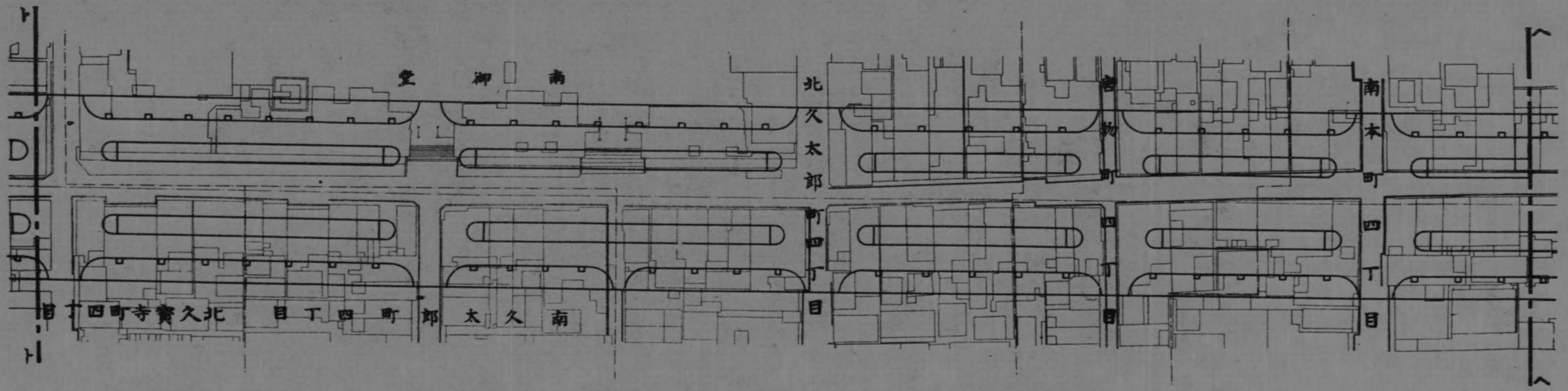


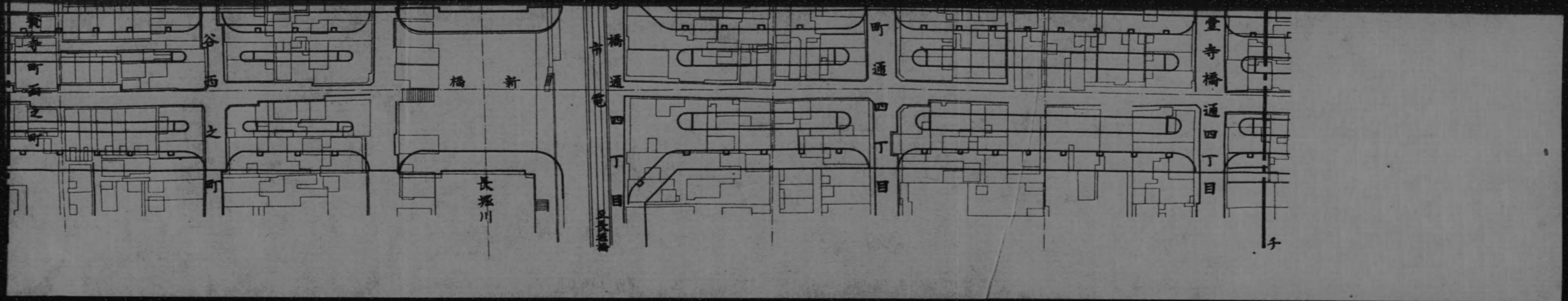
御堂筋線

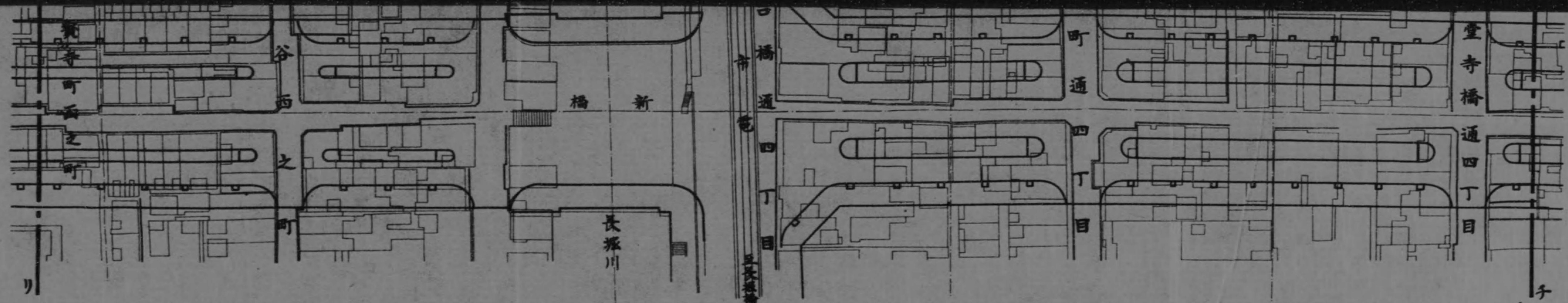
自南本町四丁目
至大寶寺町西之町

御堂筋線

自南本町四丁目
至大寶寺町西之町







リ

新橋

長源川

寺通
四丁目

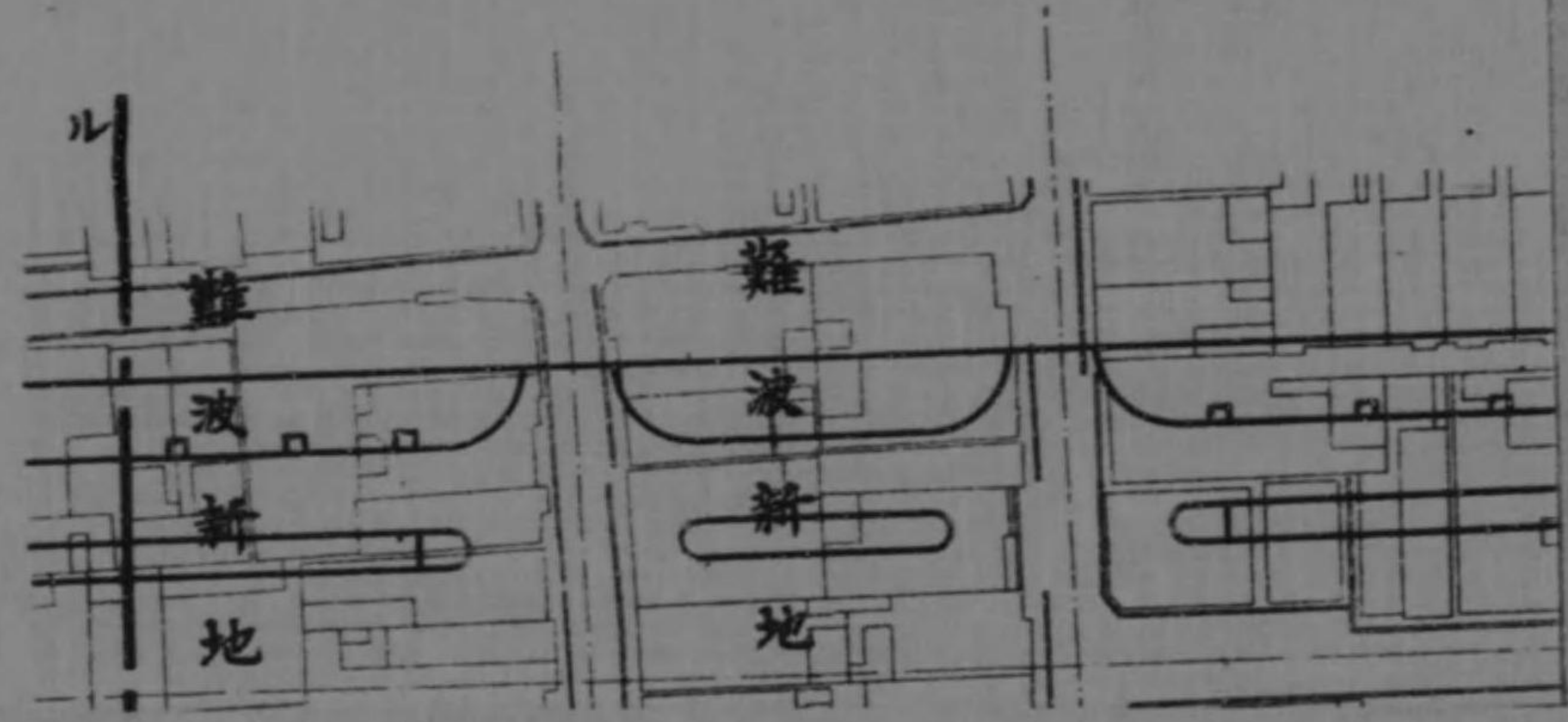
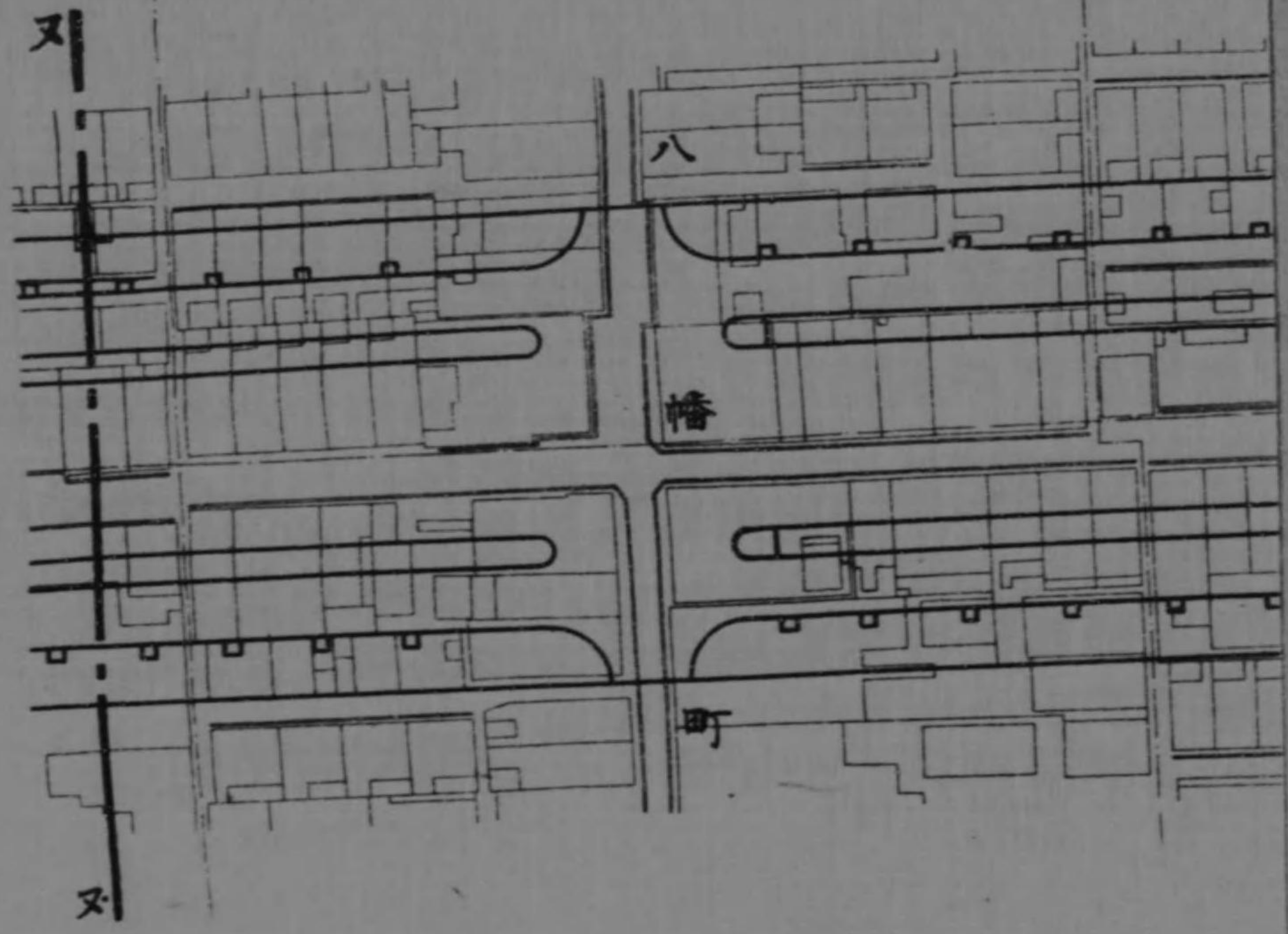
寺通

四丁目

堂寺橋

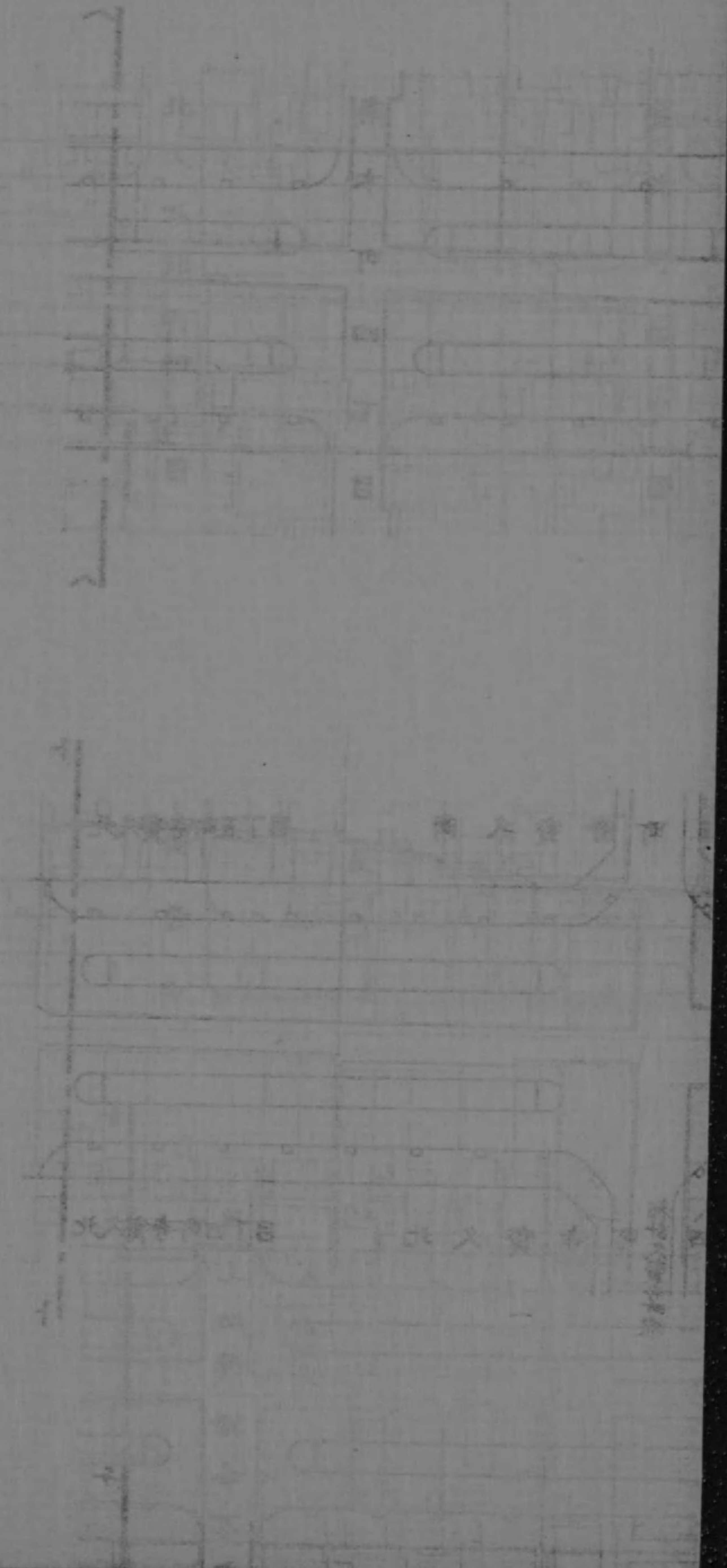
通四丁目

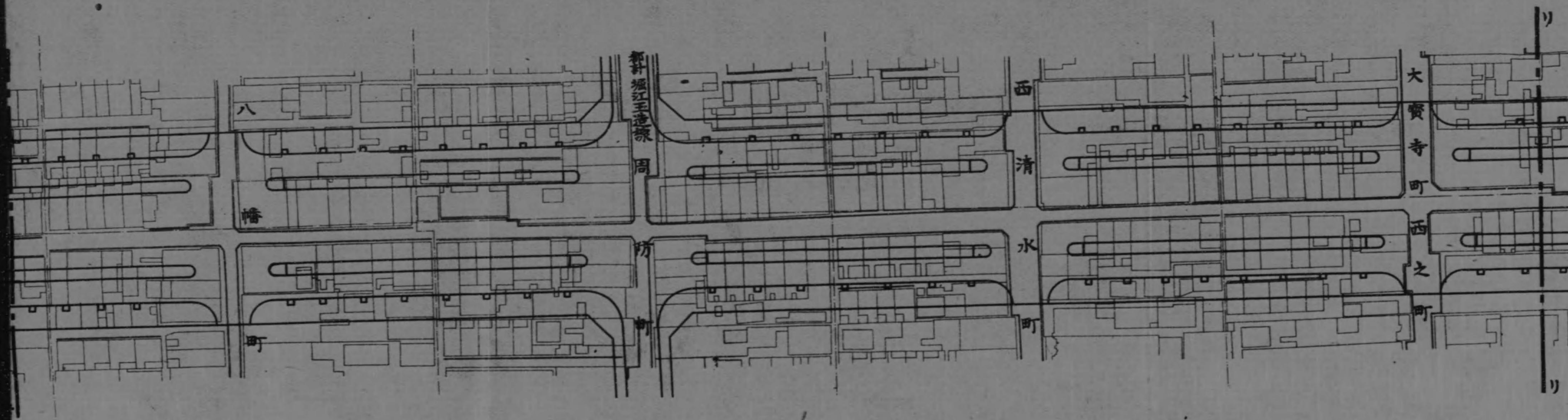
子



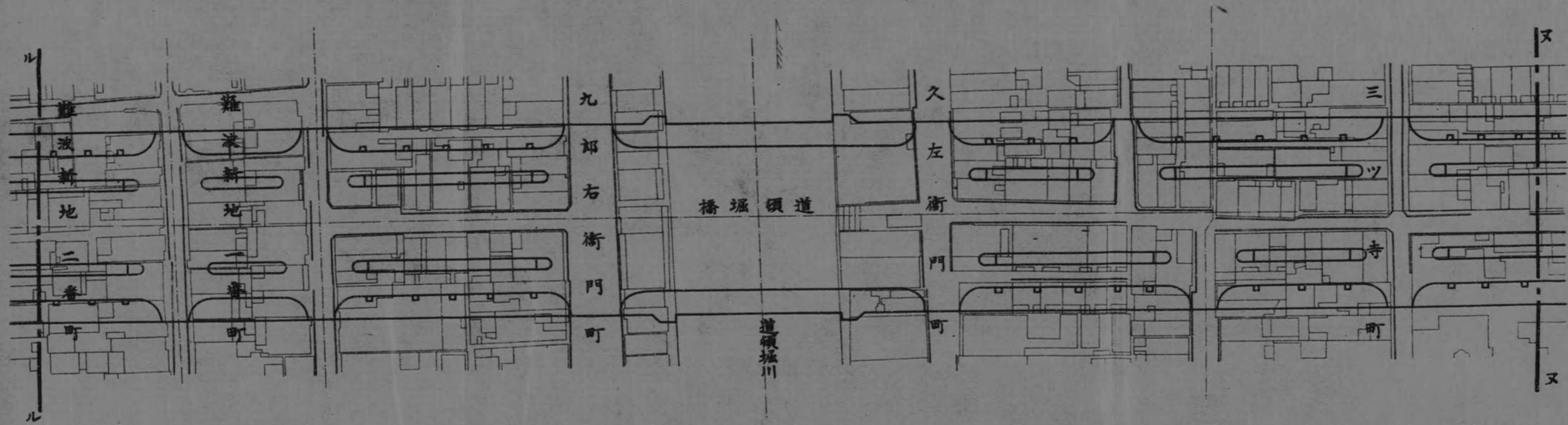
齋堂齋寮

至大齋寺西
自南木町四丁目

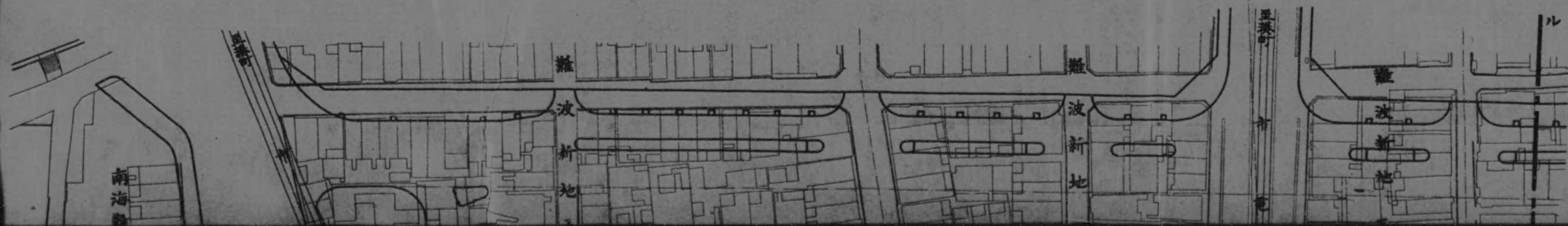


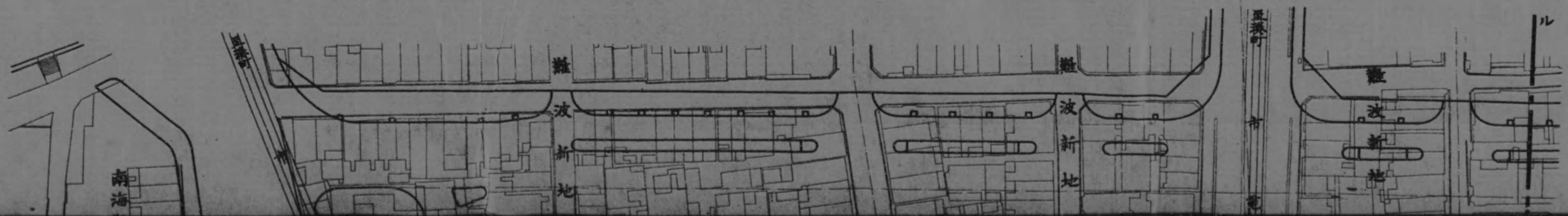
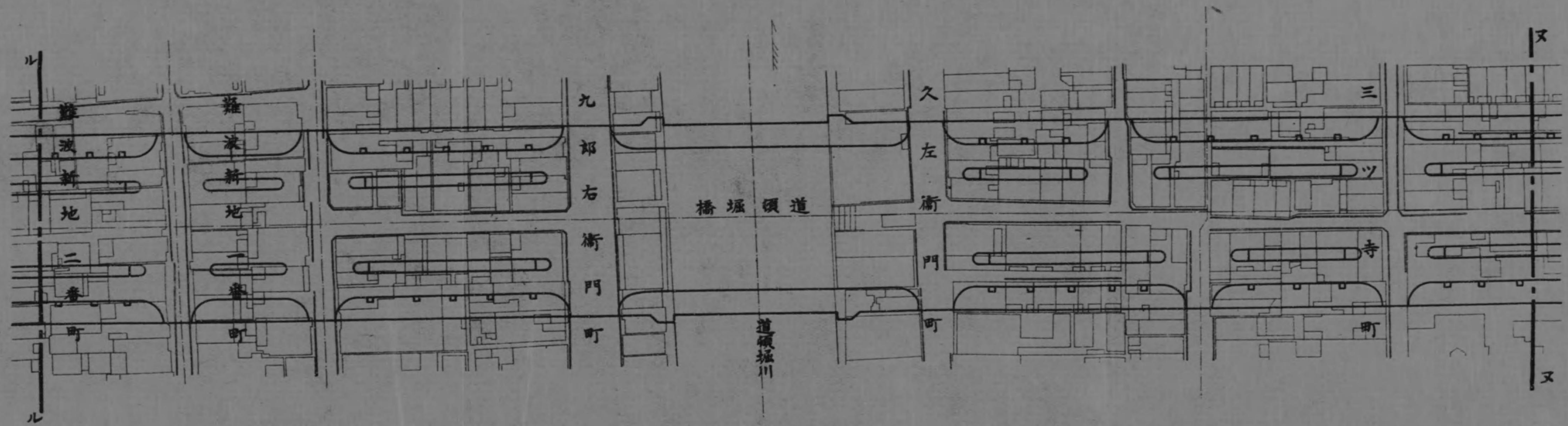
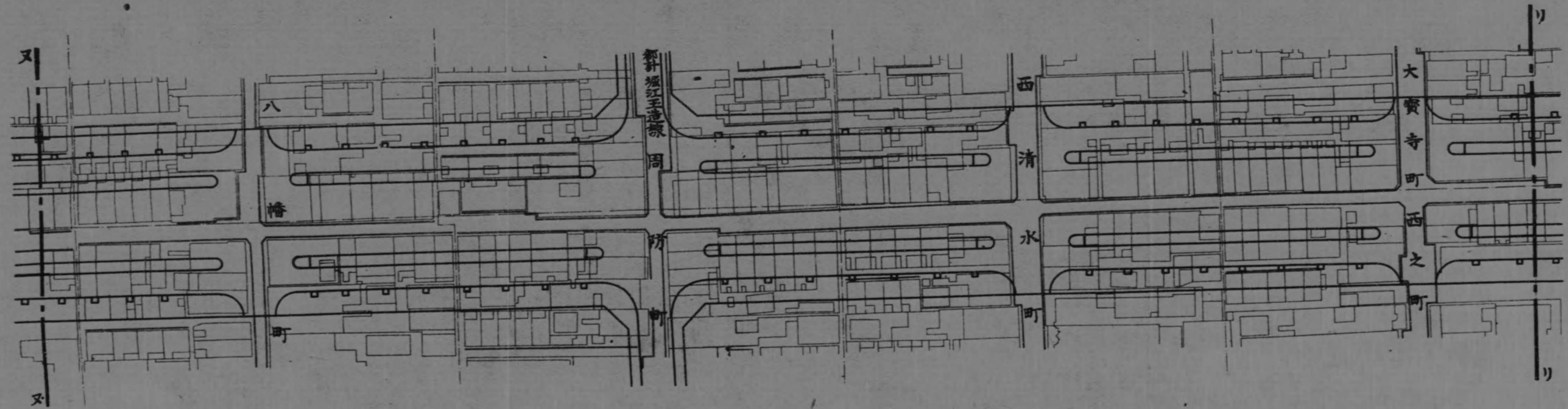


御堂筋線



自大寶寺町西之地
至難波新地





御堂筋線

自大寶寺町西之地
至難波新地

南海難波駅

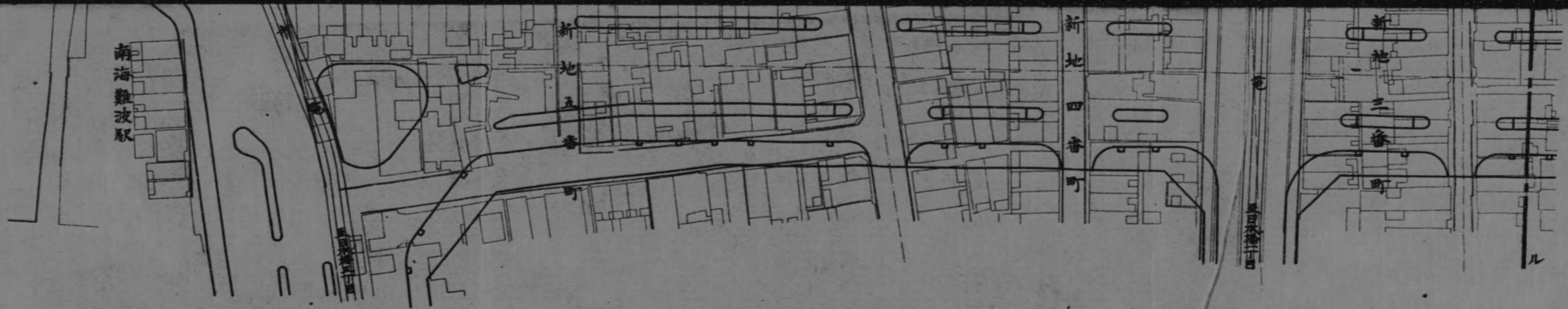
新地五番

新地四番町

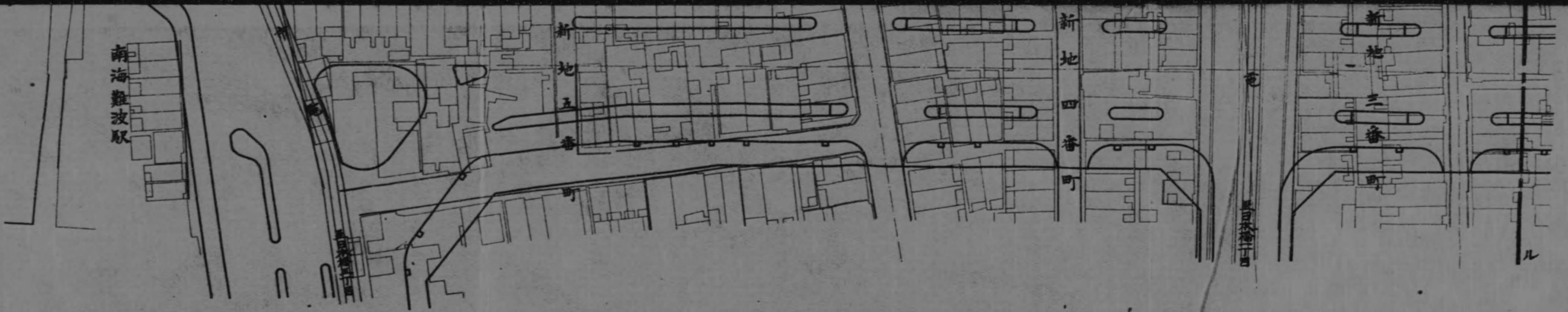
新地三番町

新地四番町

ル



南海難波駅

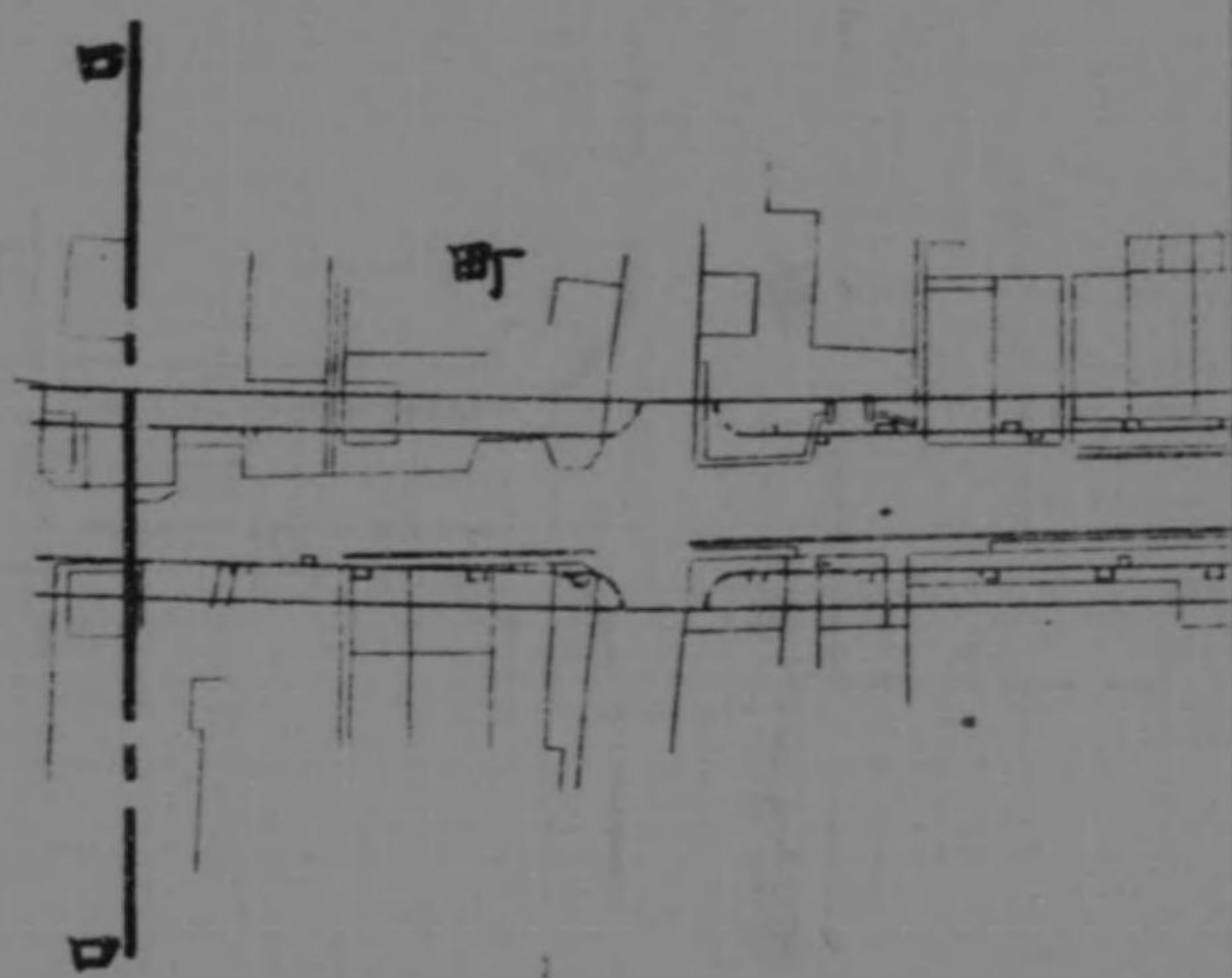
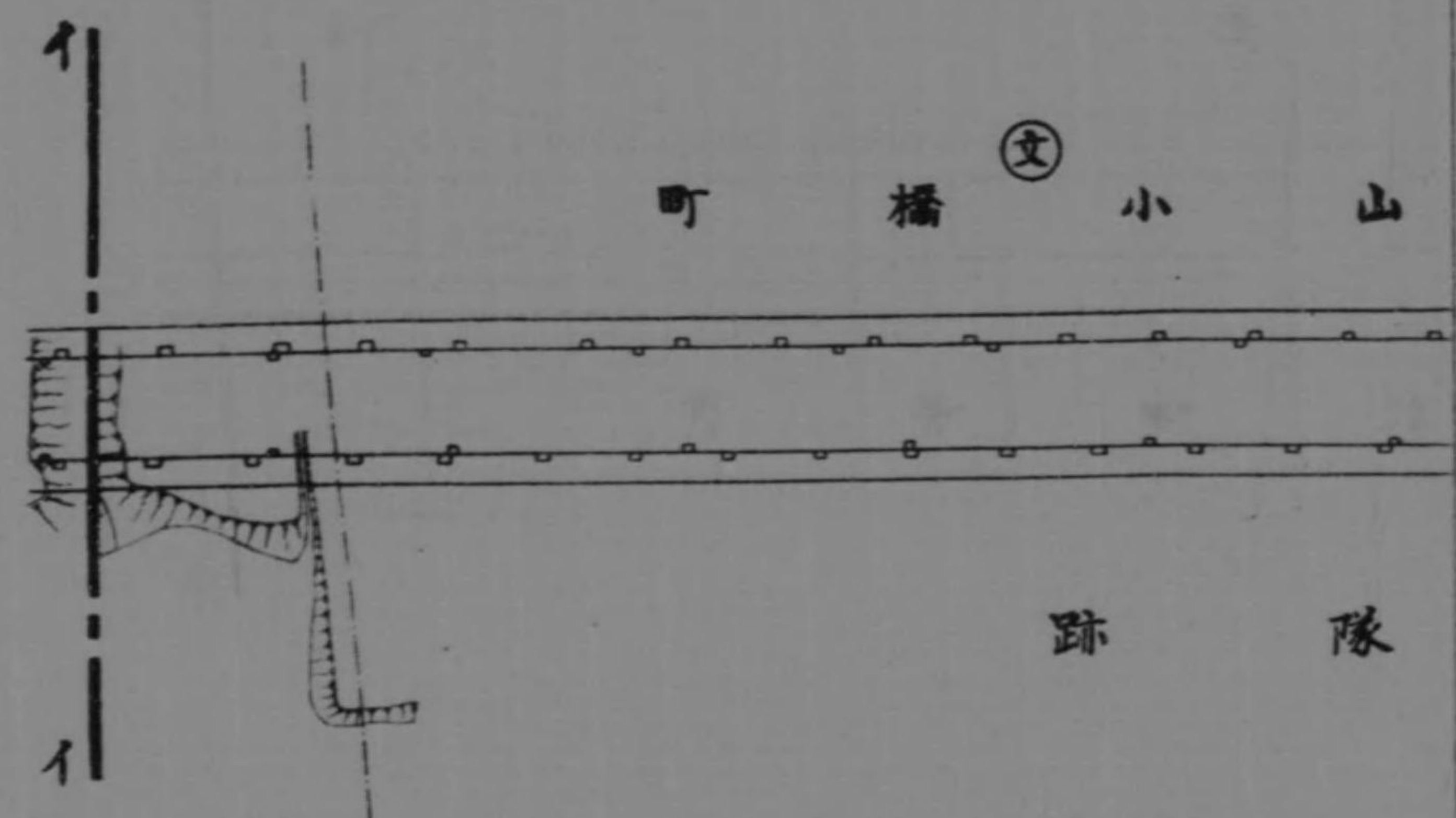


新地四番

新地三番

新地二番

ル

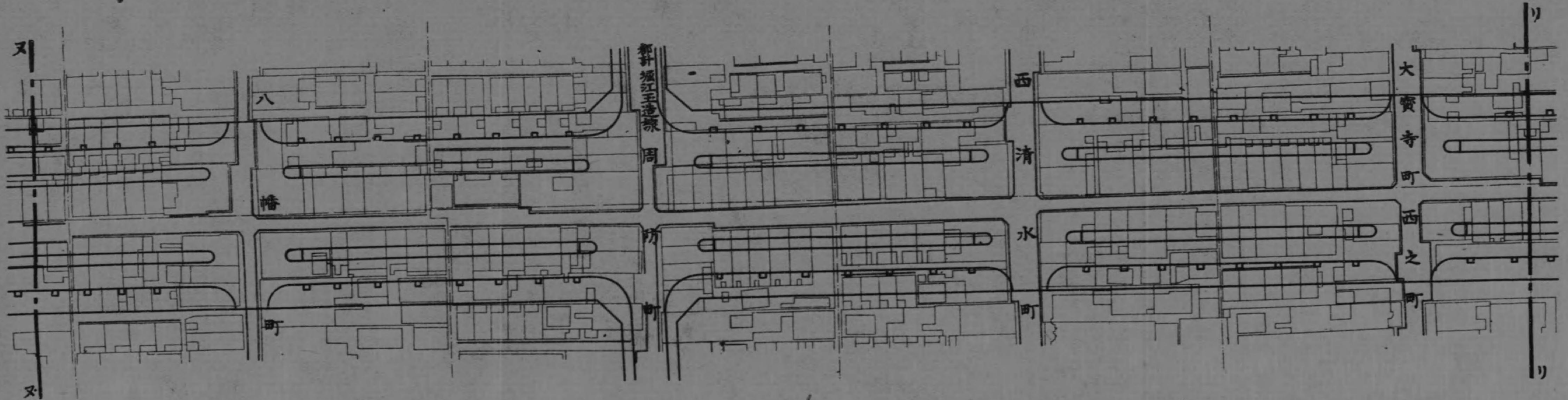


山小橋

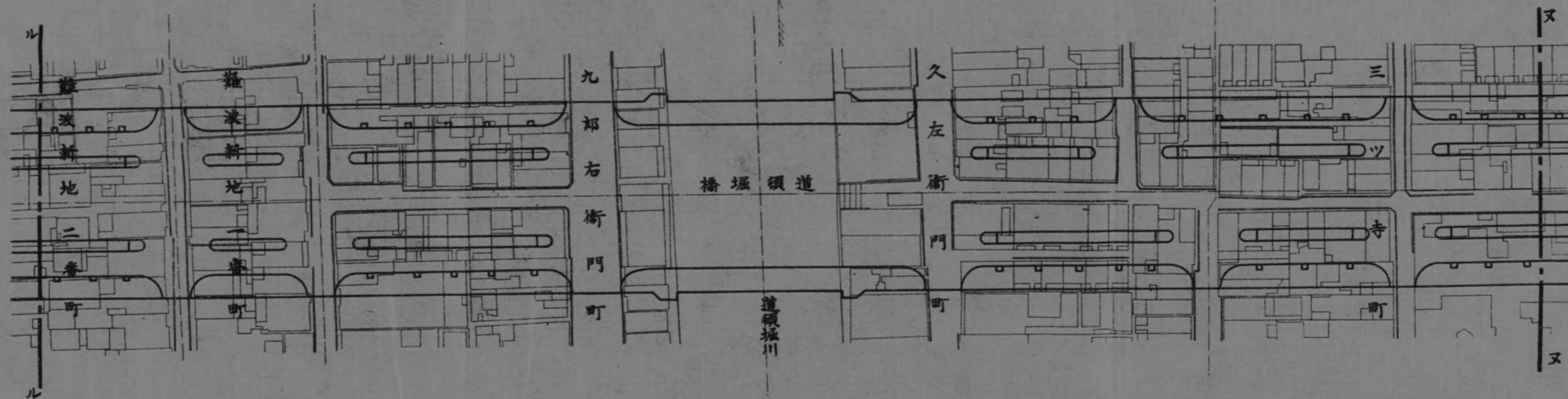
町

隊跡

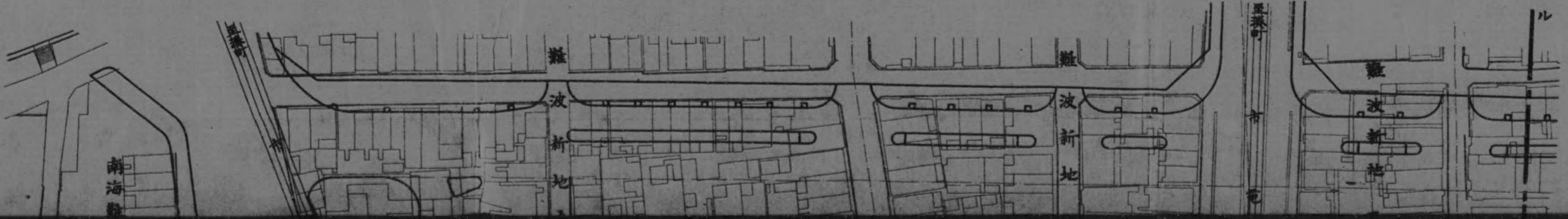
Technical drawing of a building or structure, showing a horizontal line with several vertical lines indicating internal divisions or columns. The drawing is oriented vertically on the page.

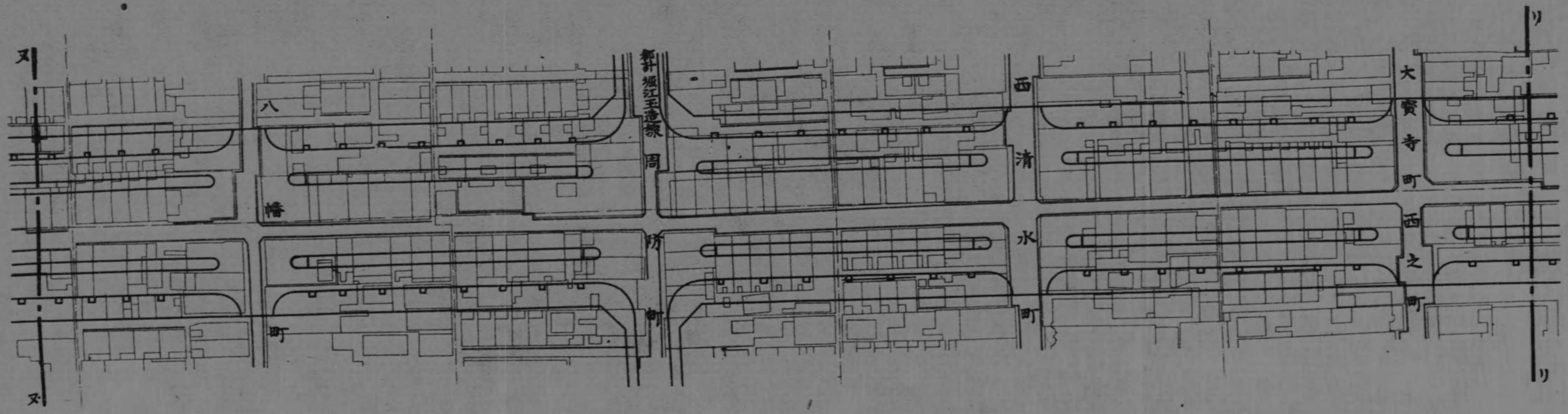


御堂筋線

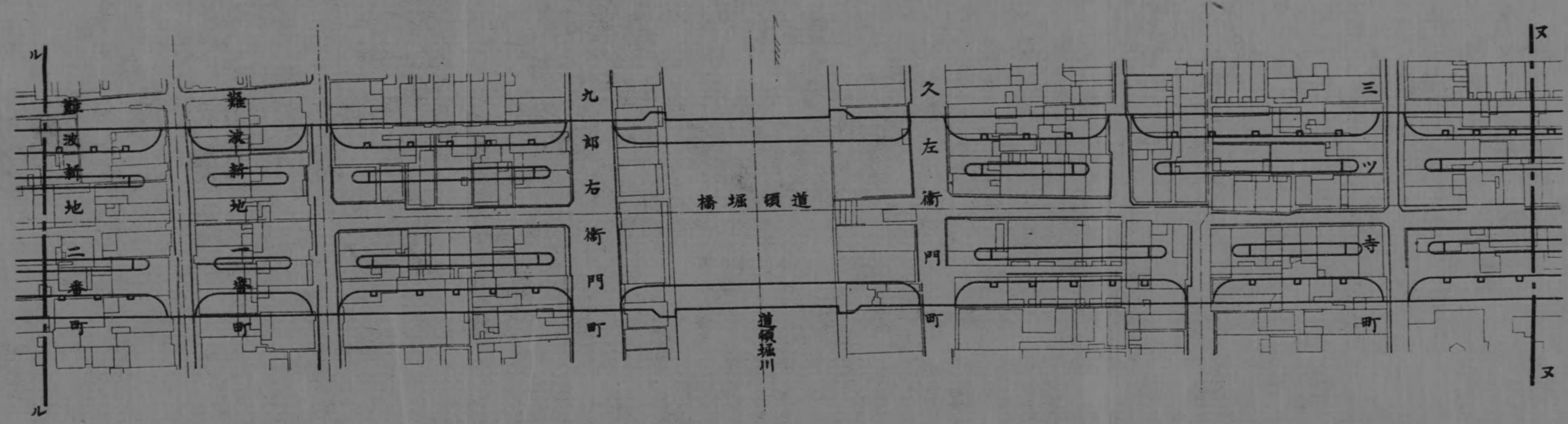


自大寶寺町西之地
至難波新地

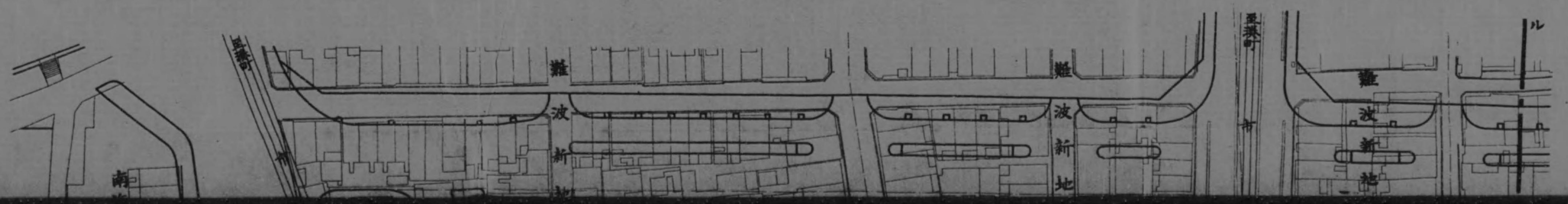




御堂筋線



自大寶寺町西之地
至難波新地



南海難波駅

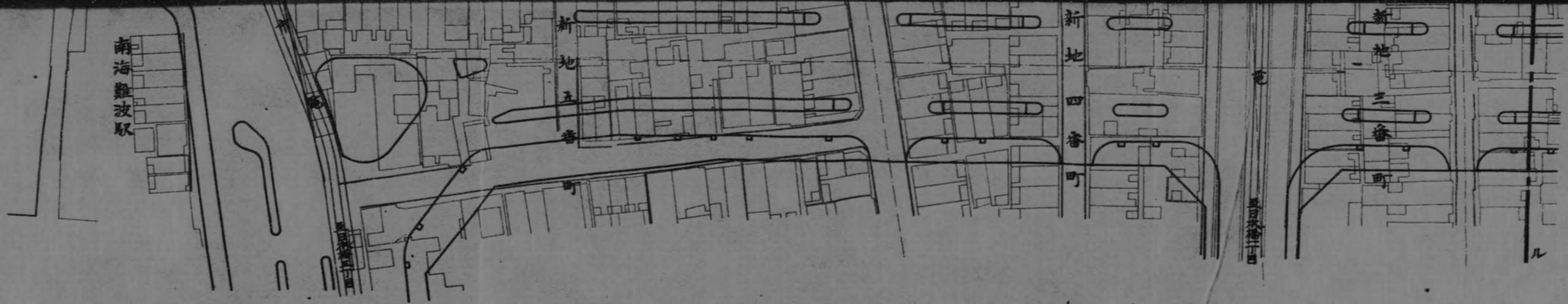
新地五番

新地四番

新地三番

電
車
線
二
四

ル



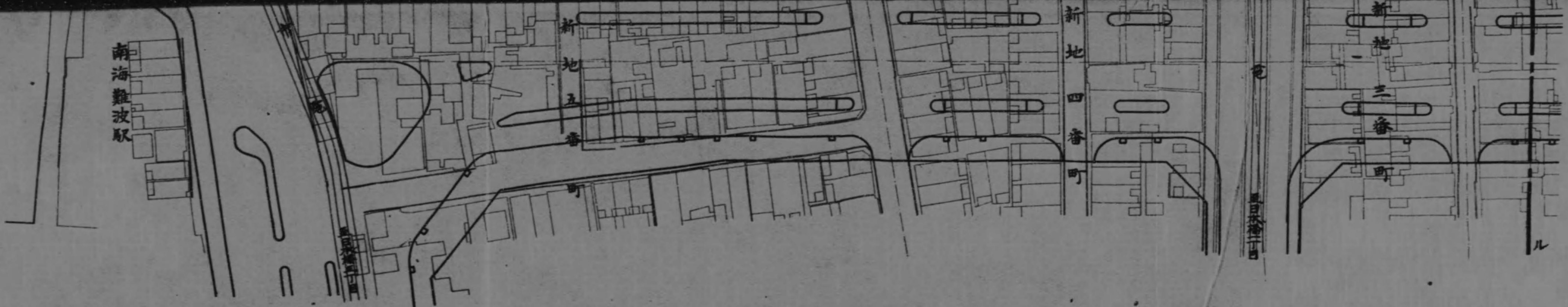
南海難波駅

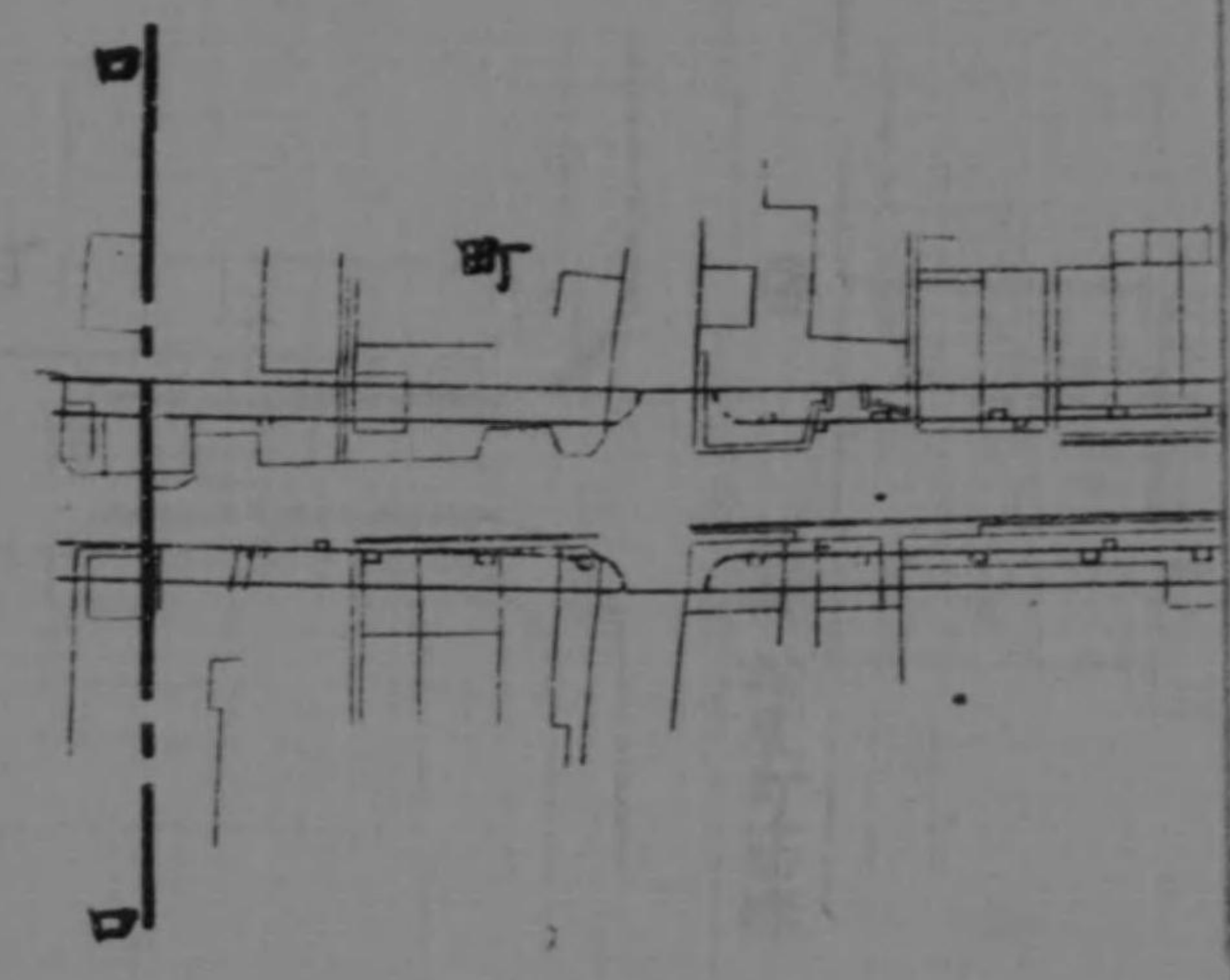
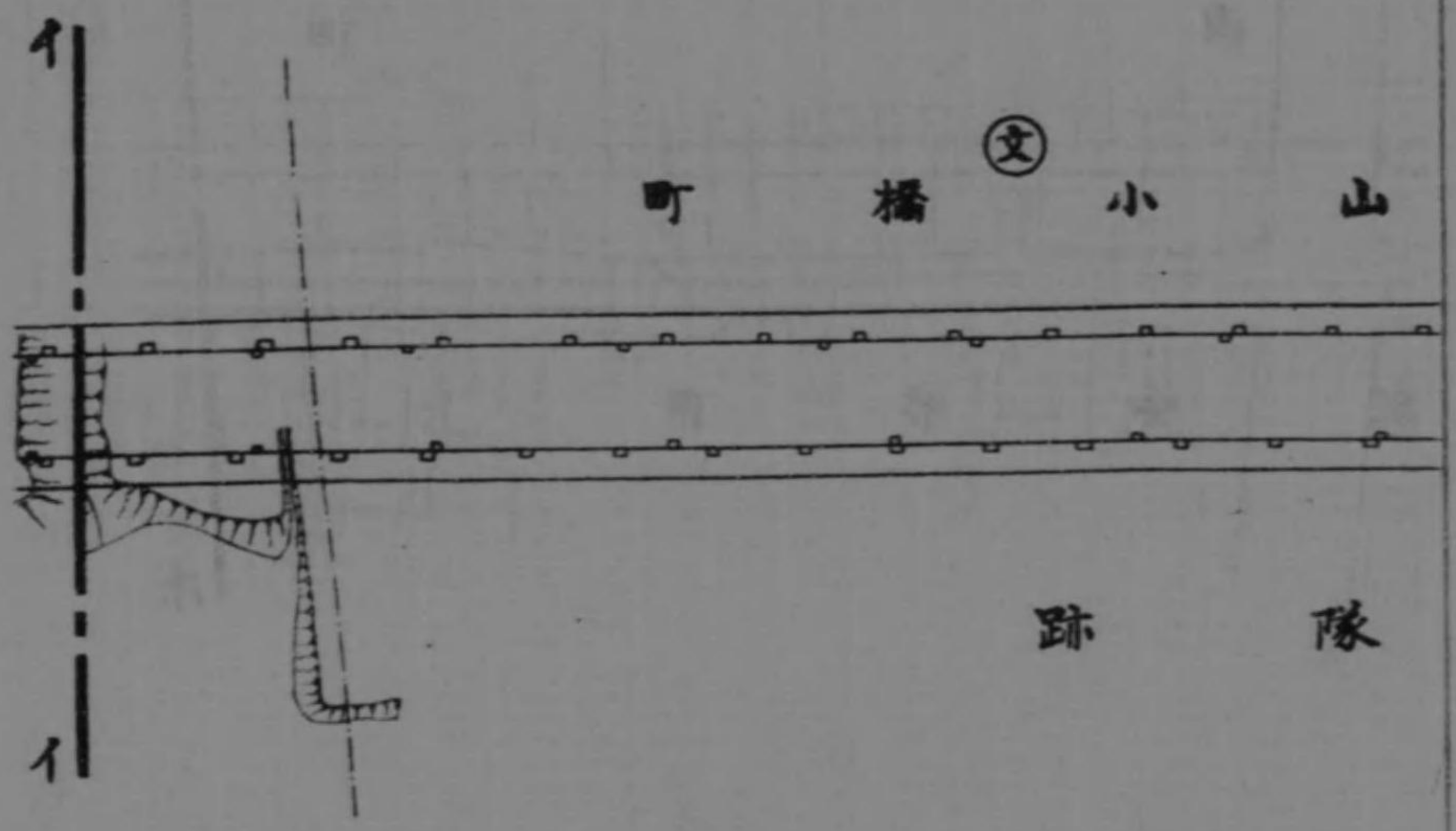
新地五番

新地四番町

新地三番町

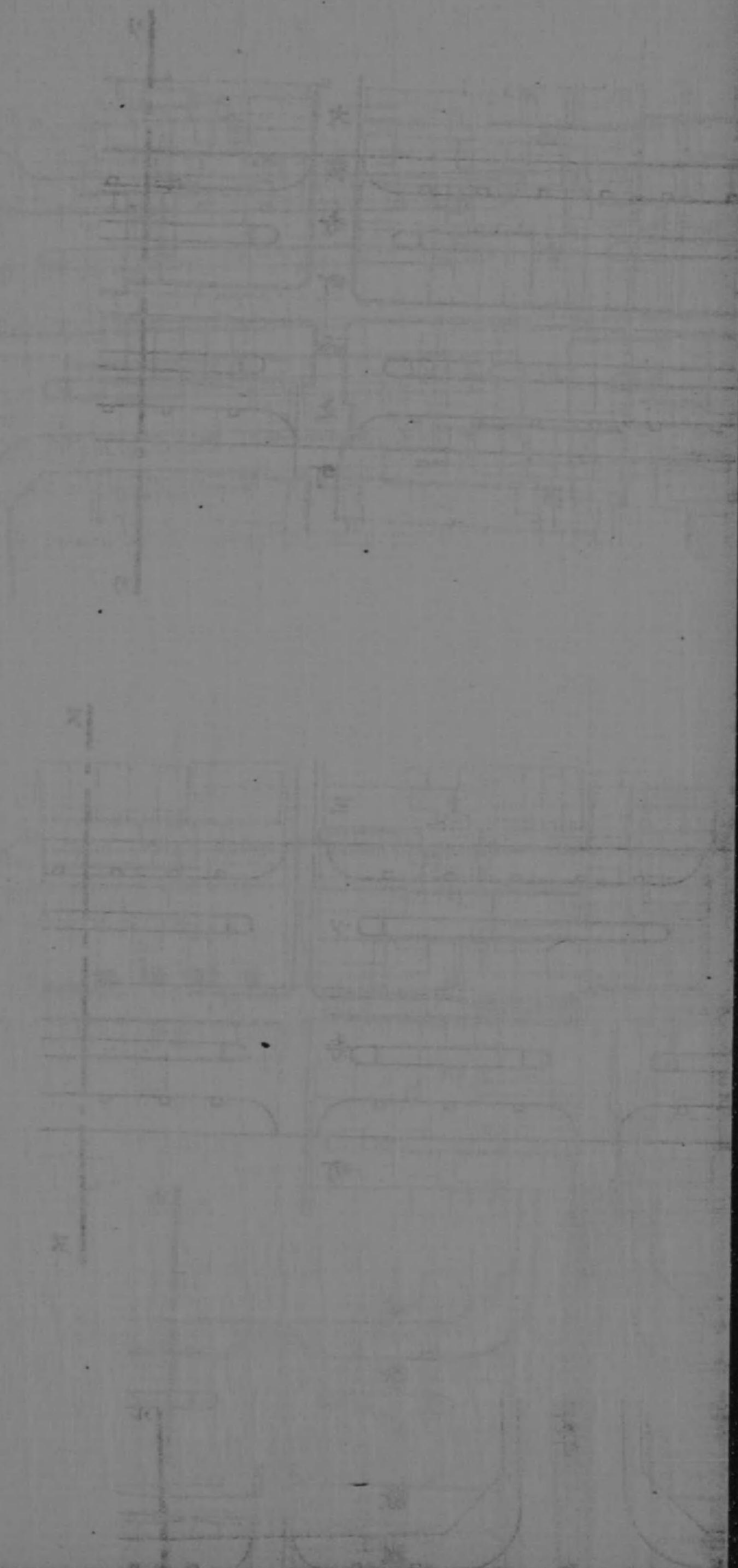
ル

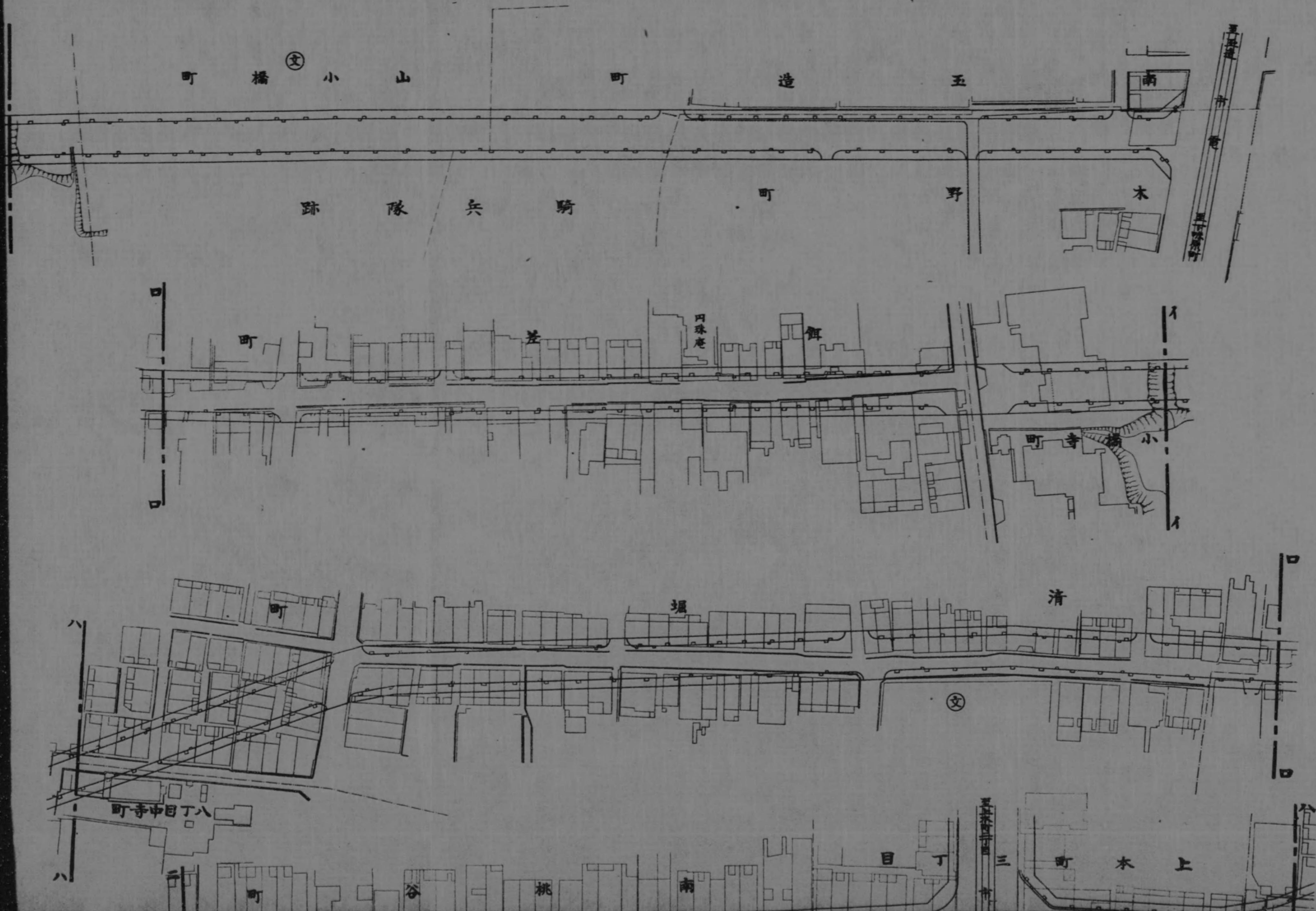




山 小 橋 町

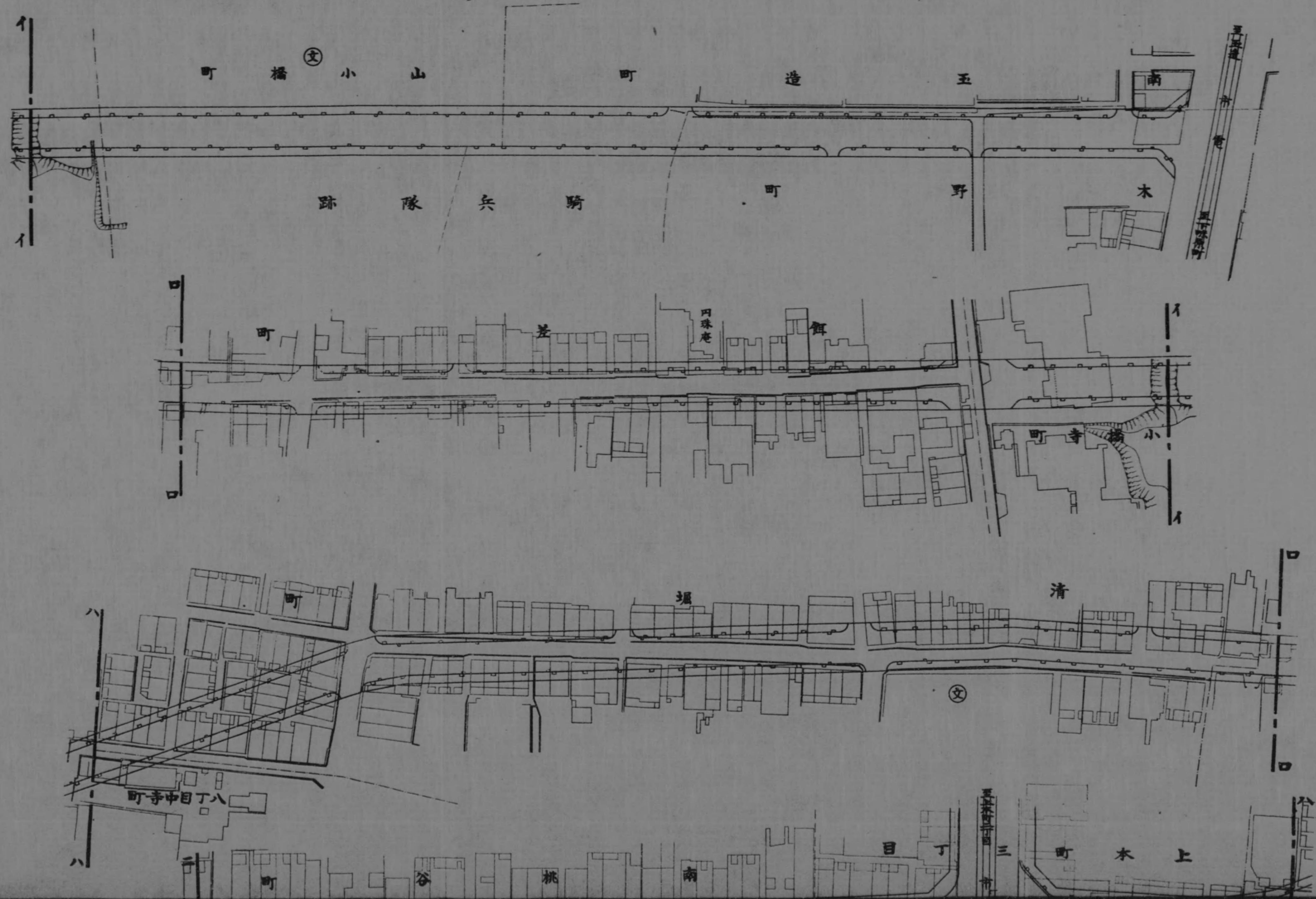
自 大 聖 寺 山 頂 上 下 山 路





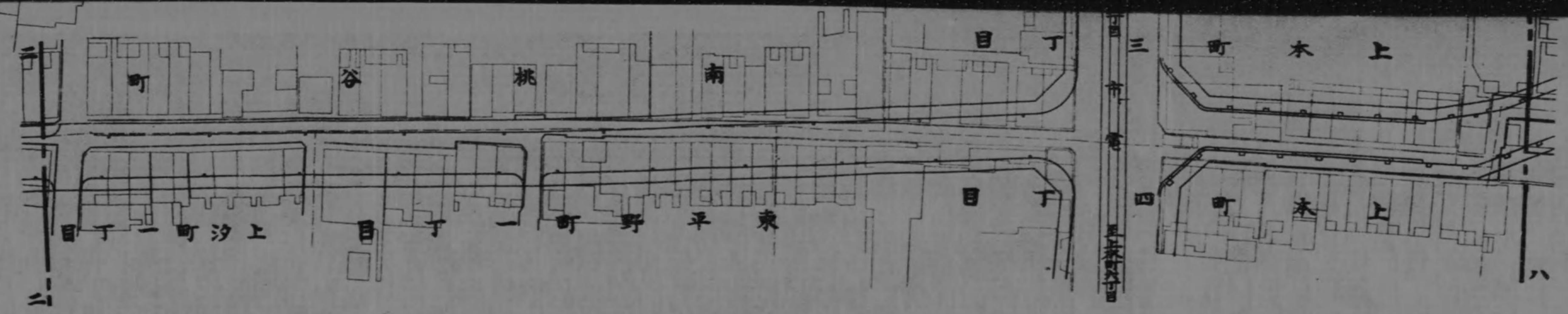
二等大路第三類第十三號
堀江五造線

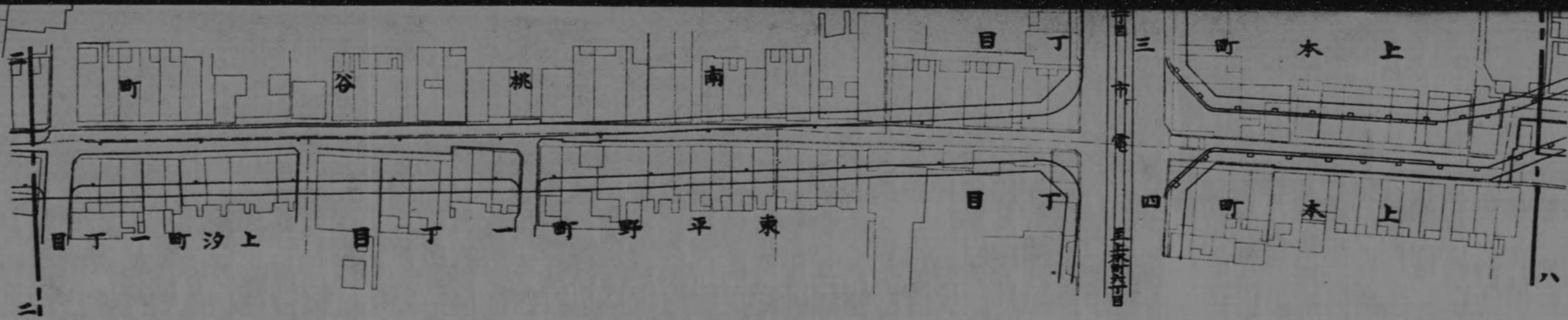
自木野一丁目
至上汐町

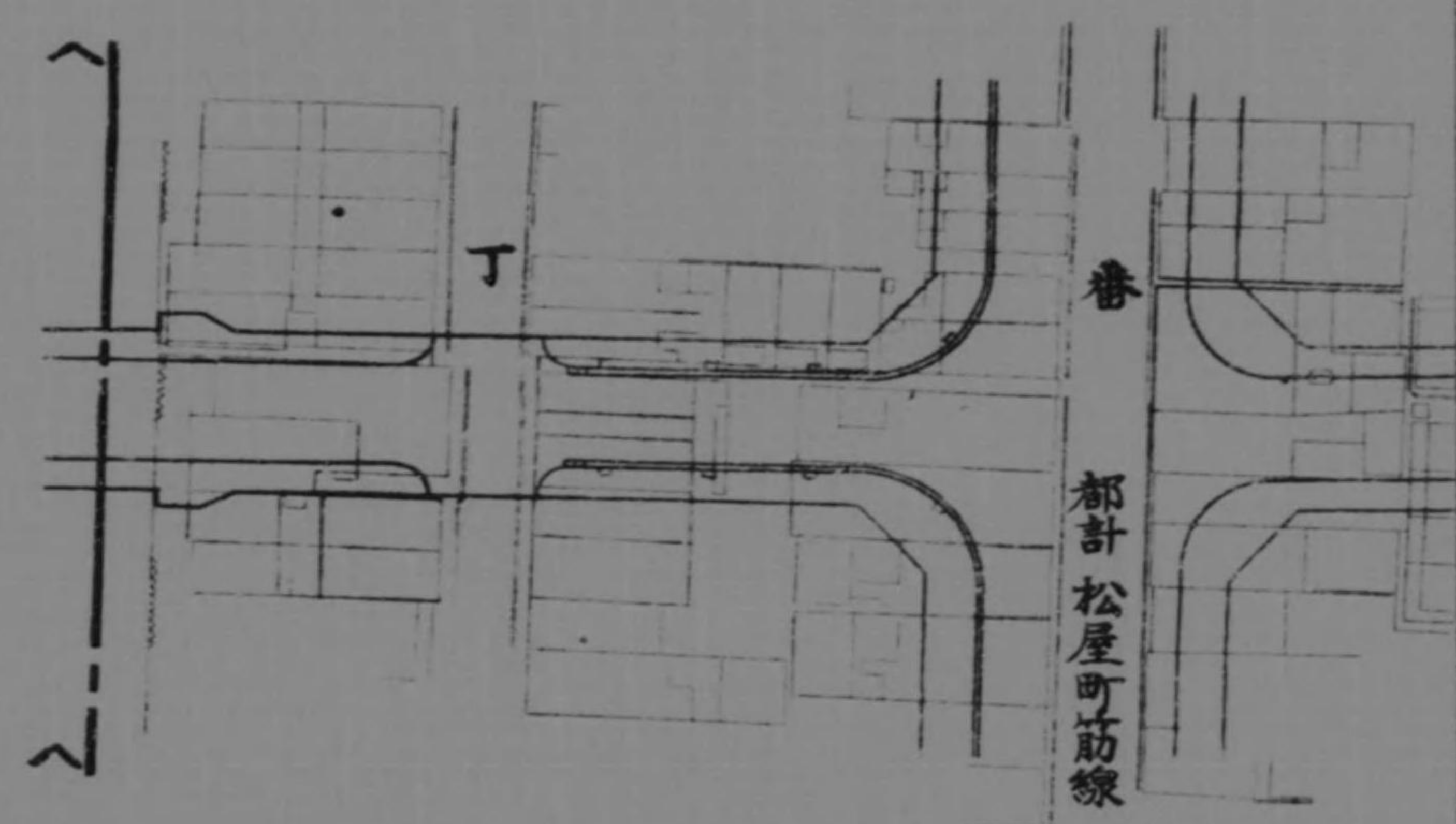
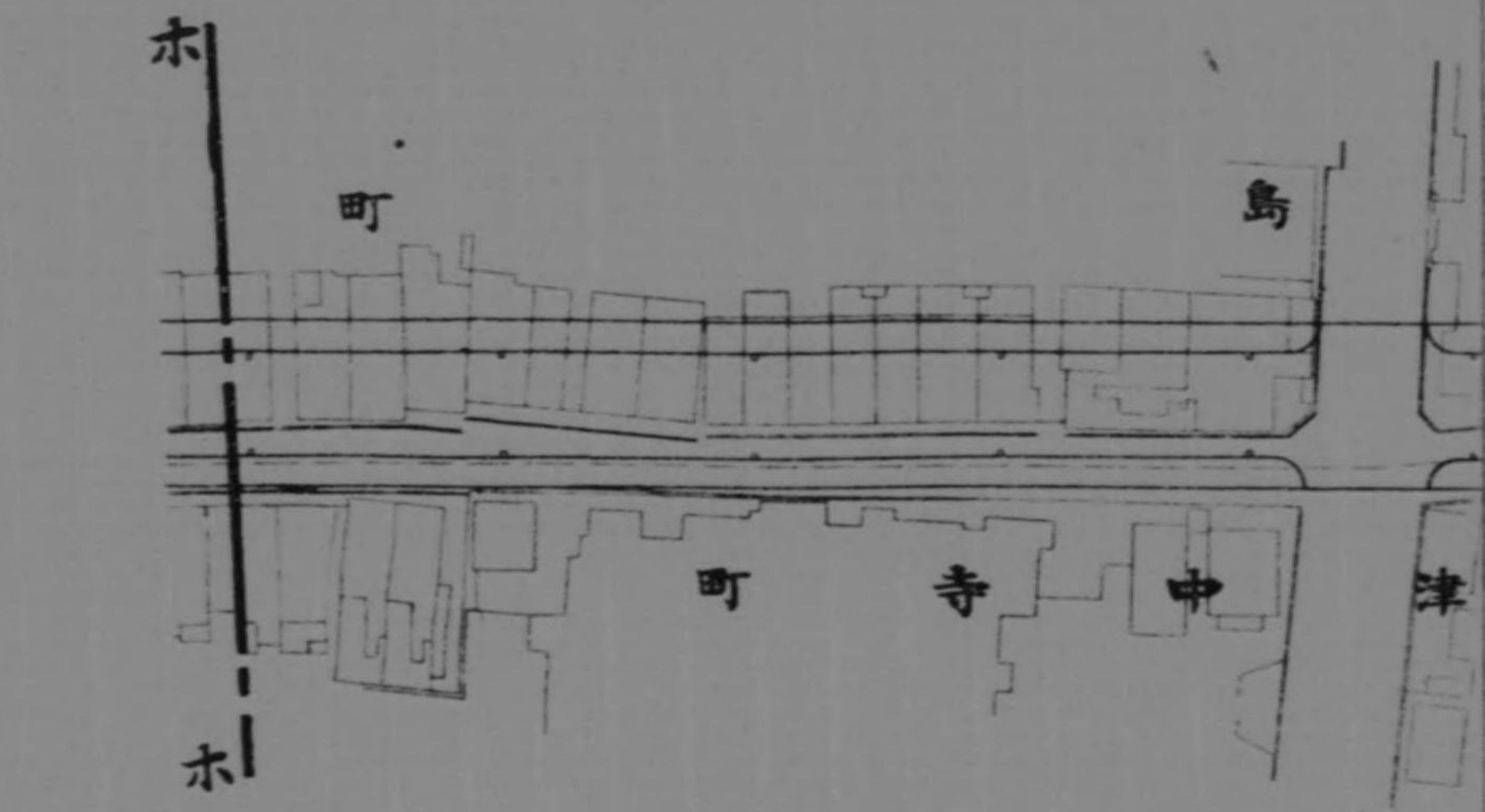


二等大路第二類第十三號
堀江五造線

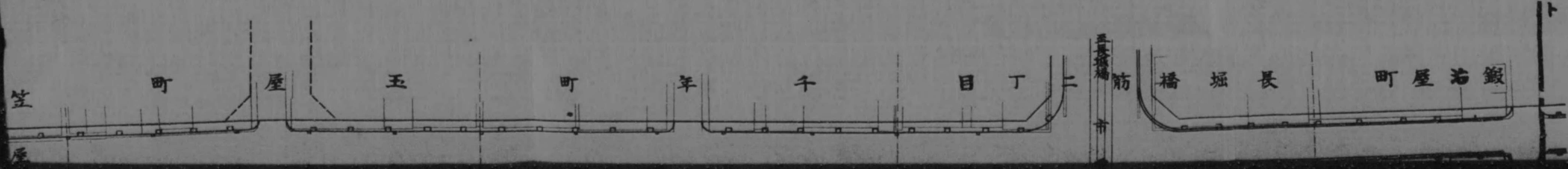
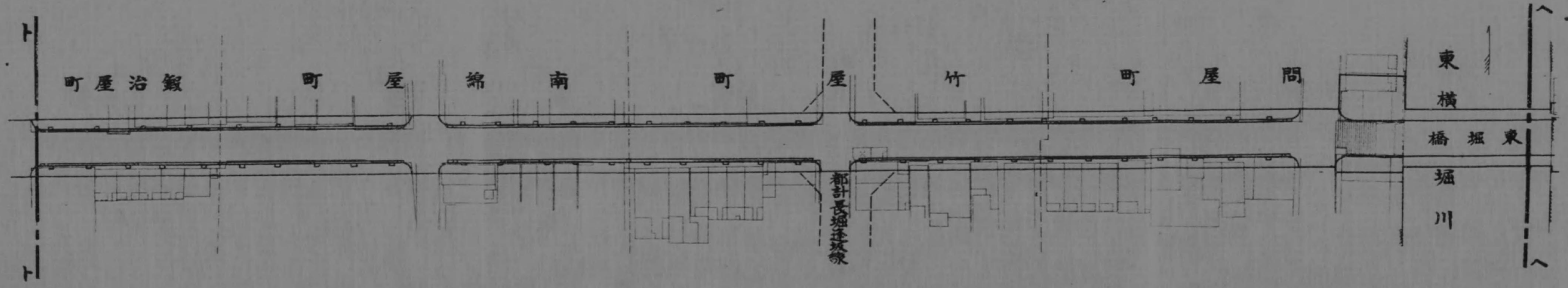
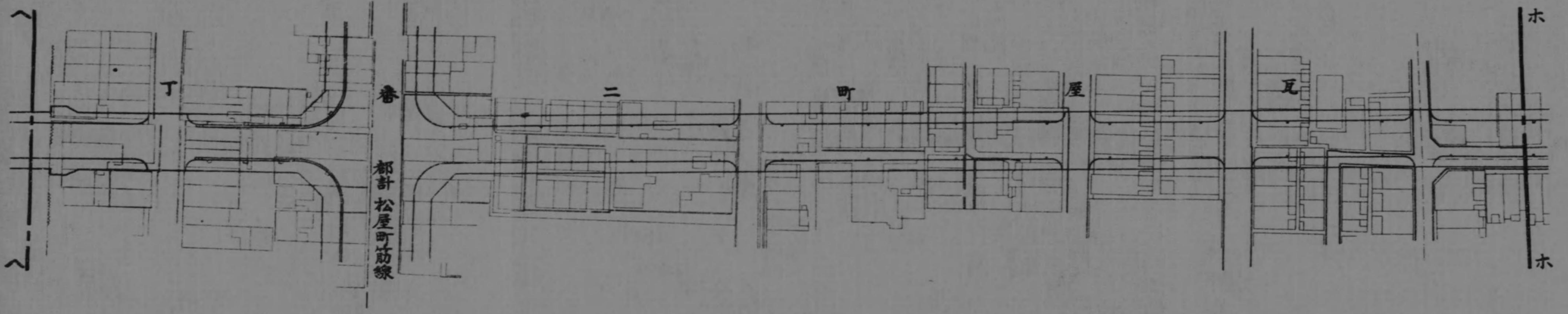
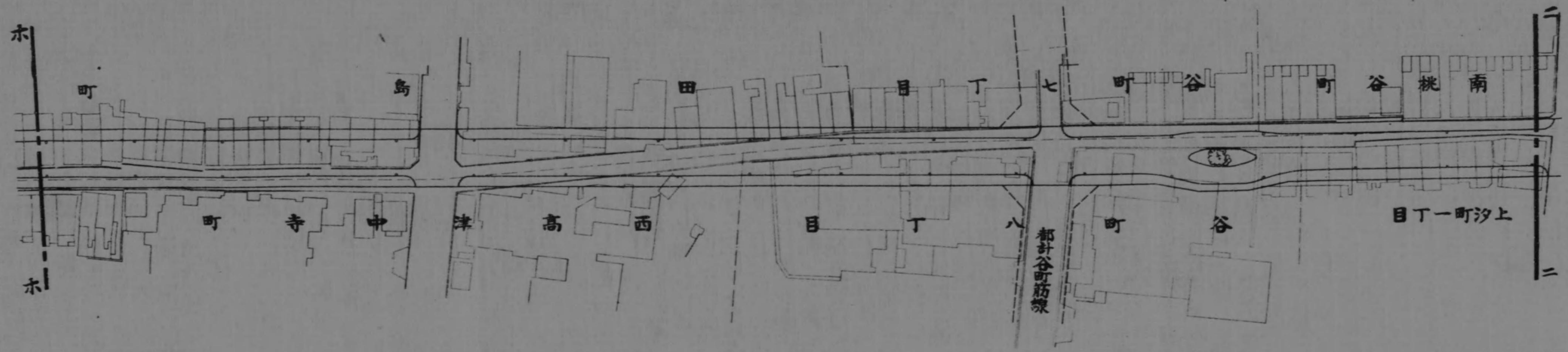
自木野一丁目
至上汐町





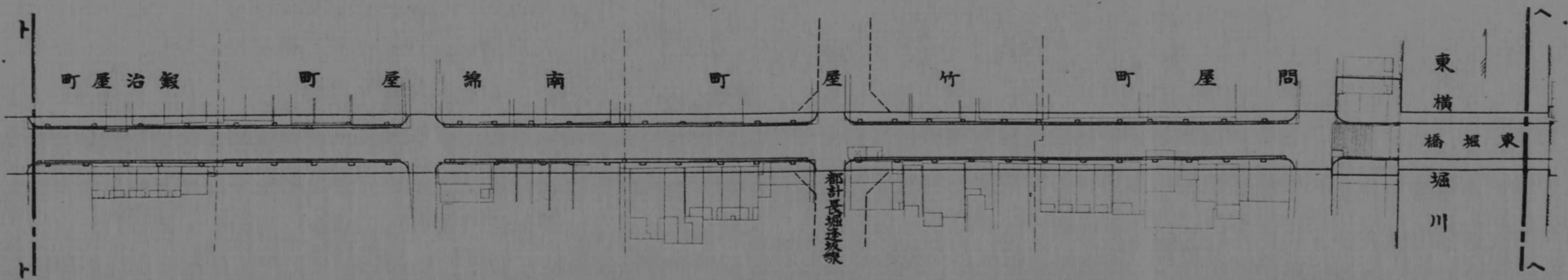
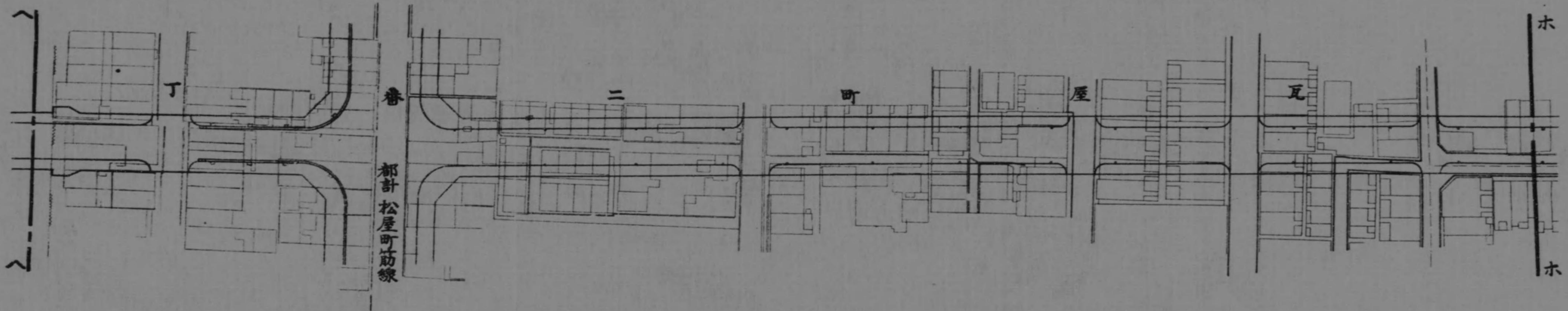
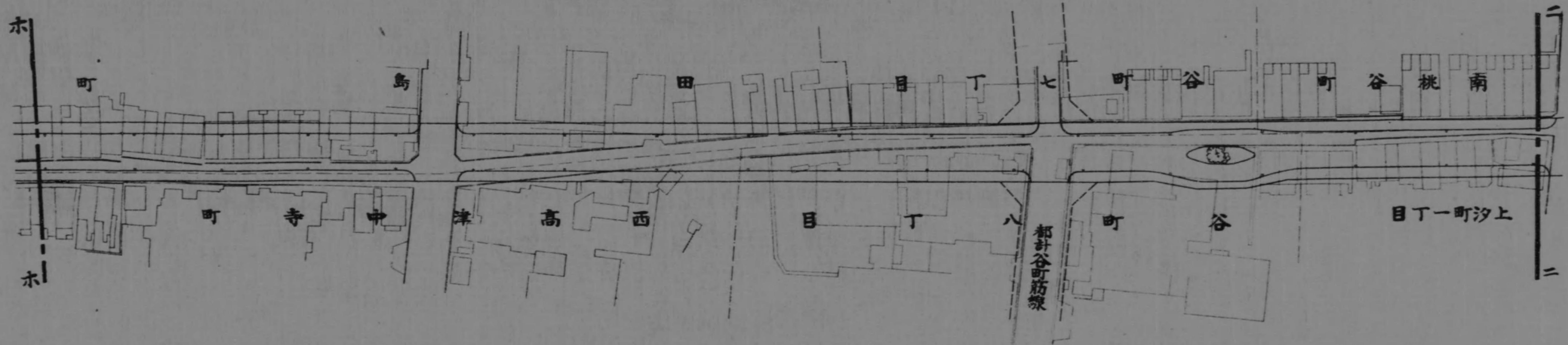


都計松屋町筋線



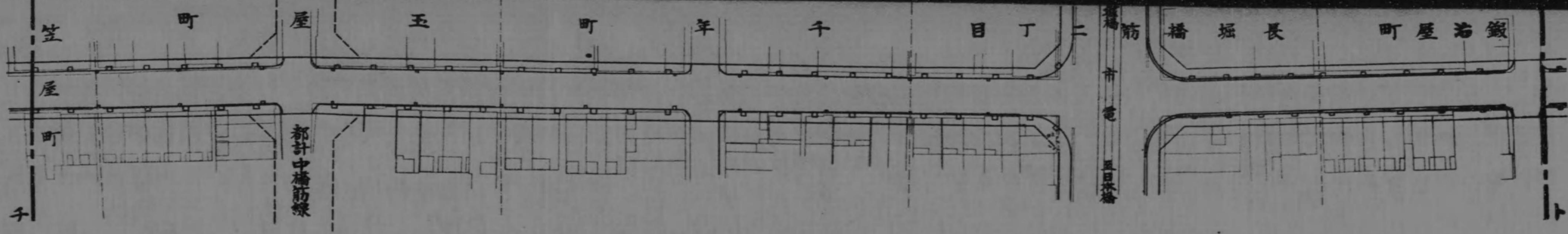
堀江玉造線

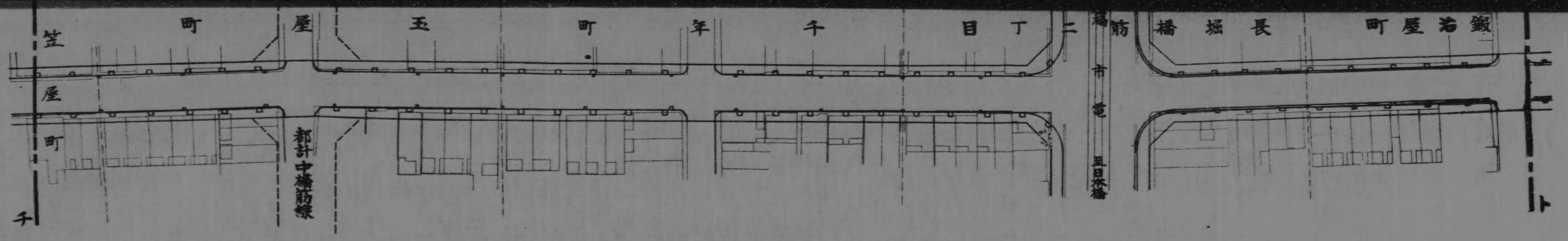
自
上
汐
町
一
丁
目
至
屋
町

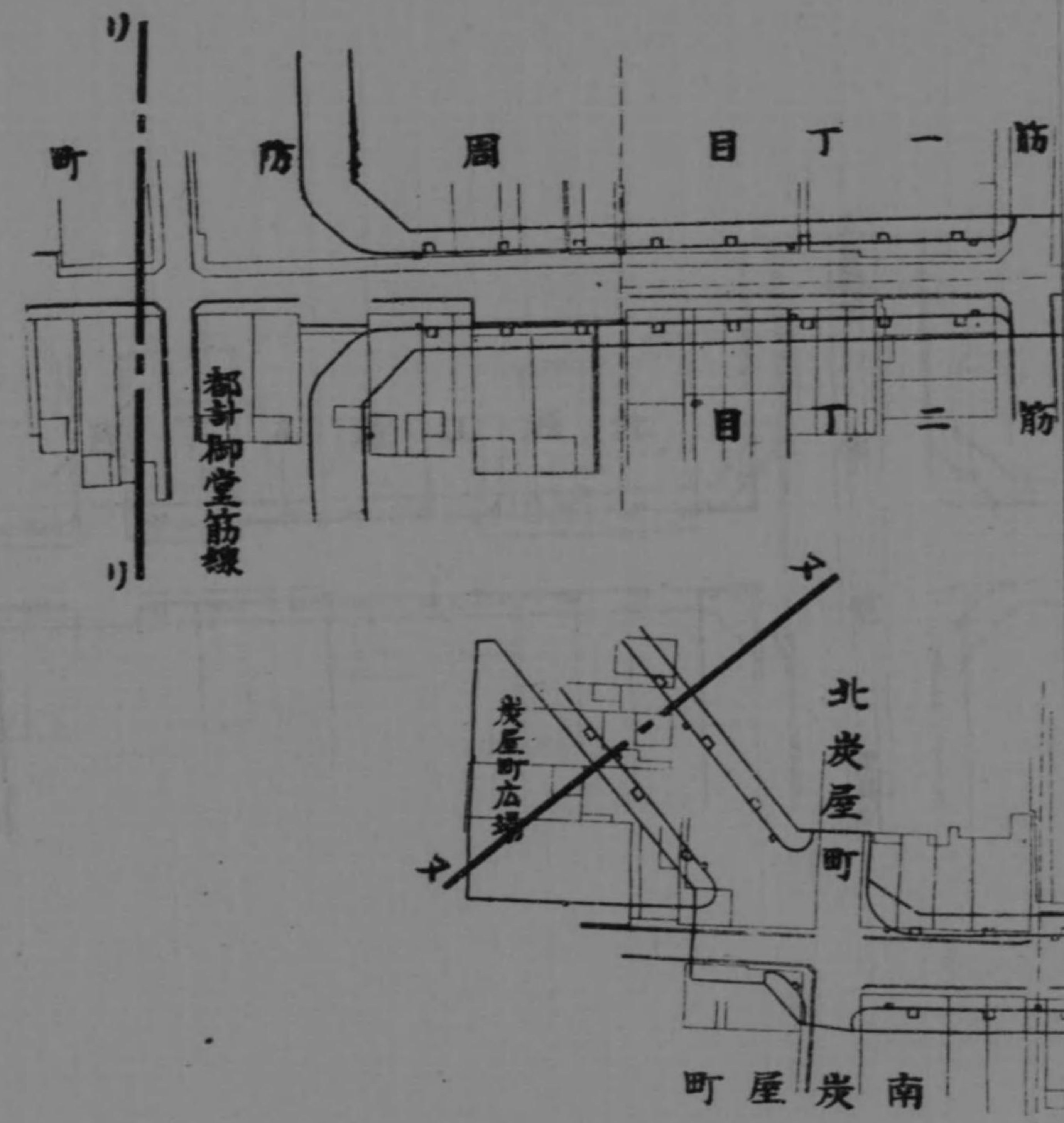


堀江玉造線

自
上
汐
町
一
丁
目
至
笠
屋
町

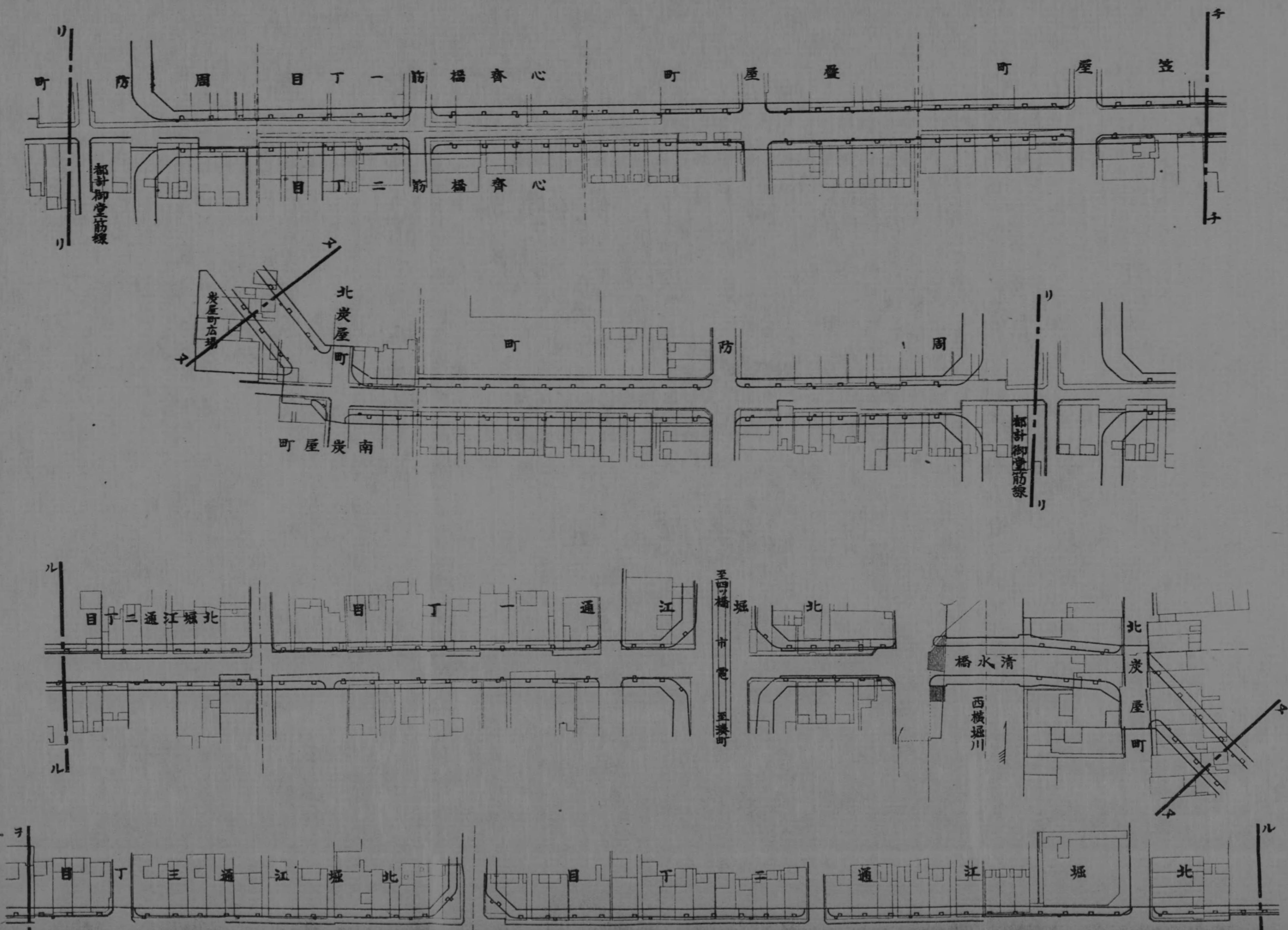






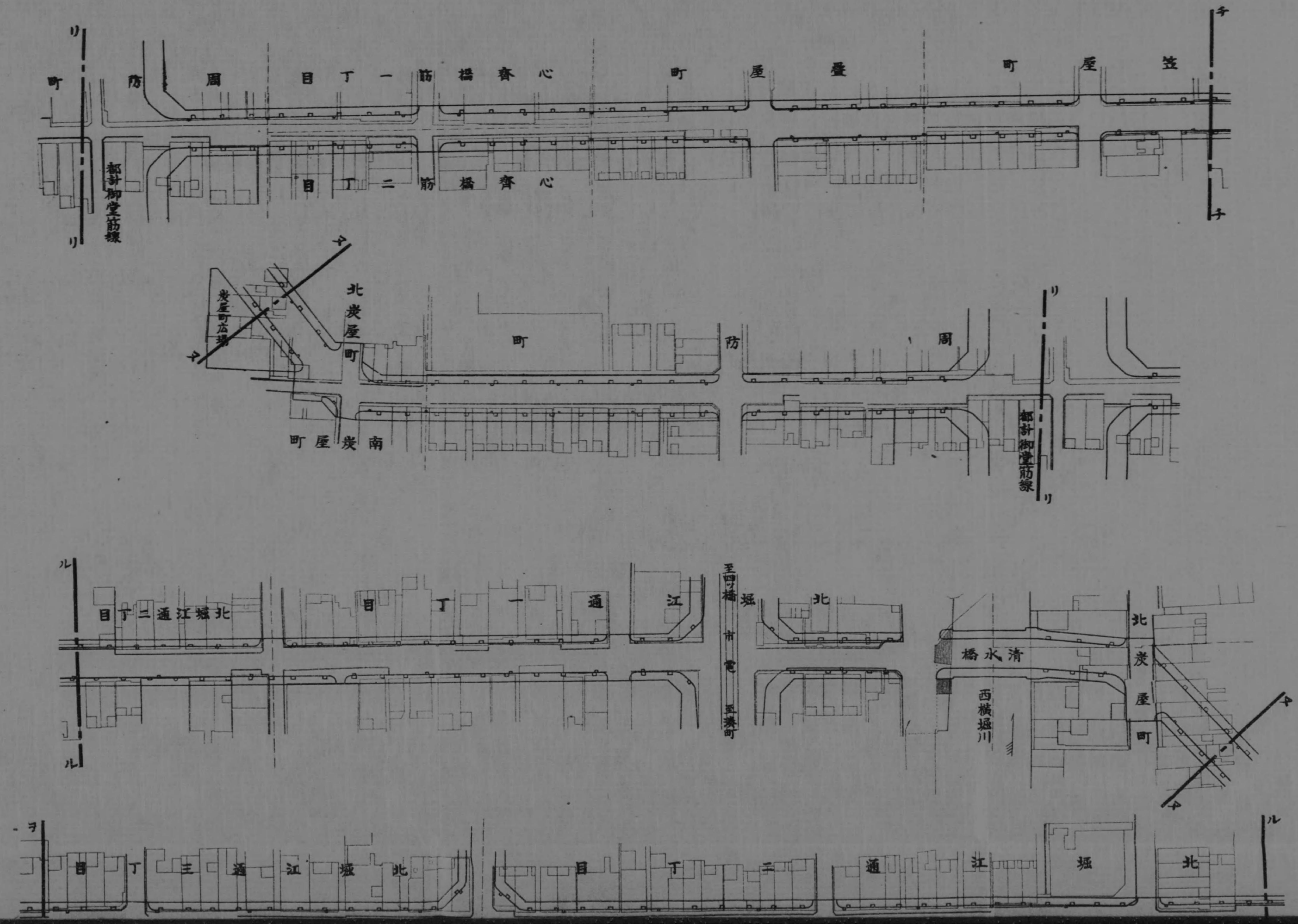
炭屋町

自王



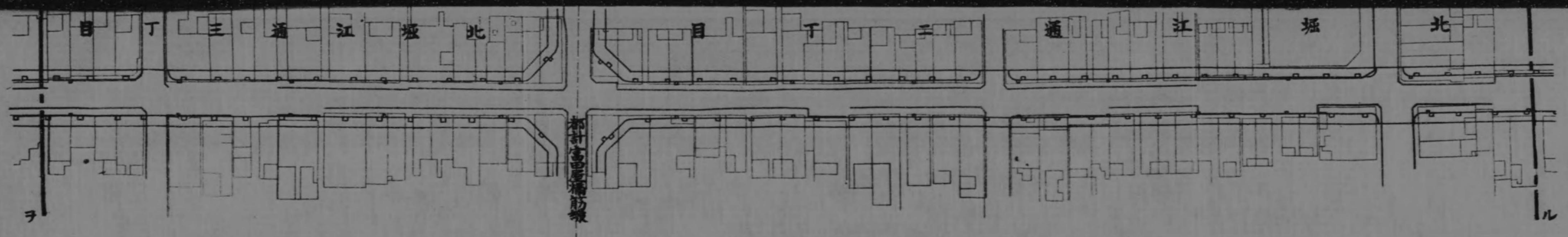
堀江玉造線

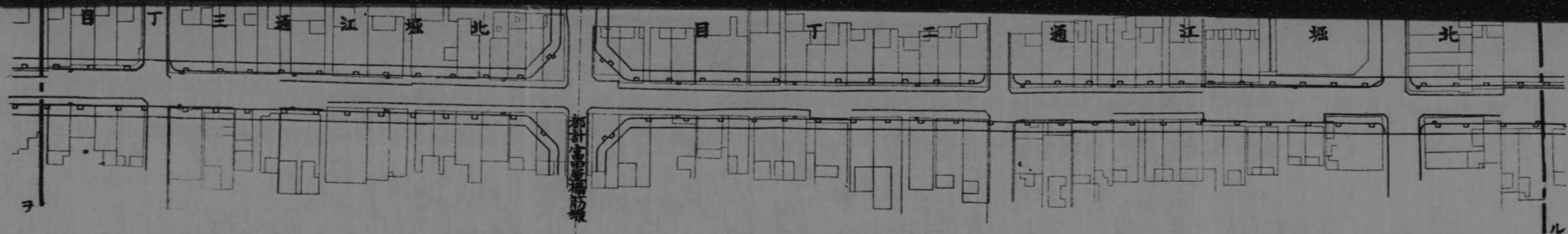
自笠屋町
至北堀江通三丁目

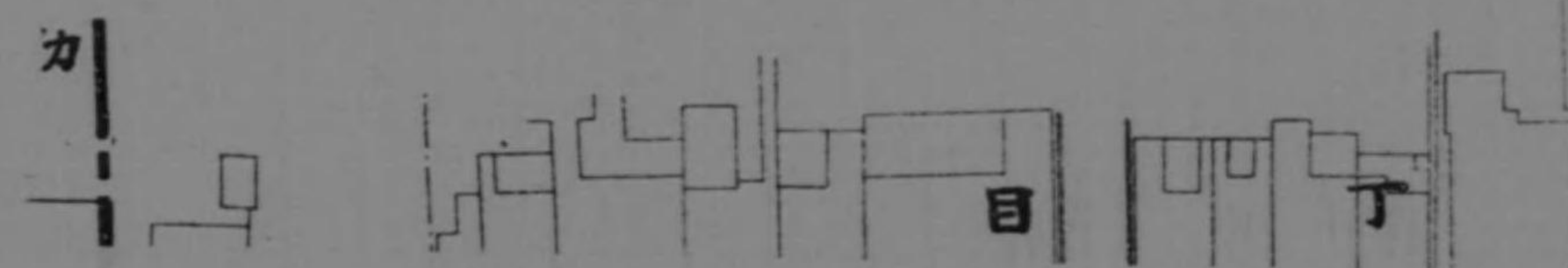
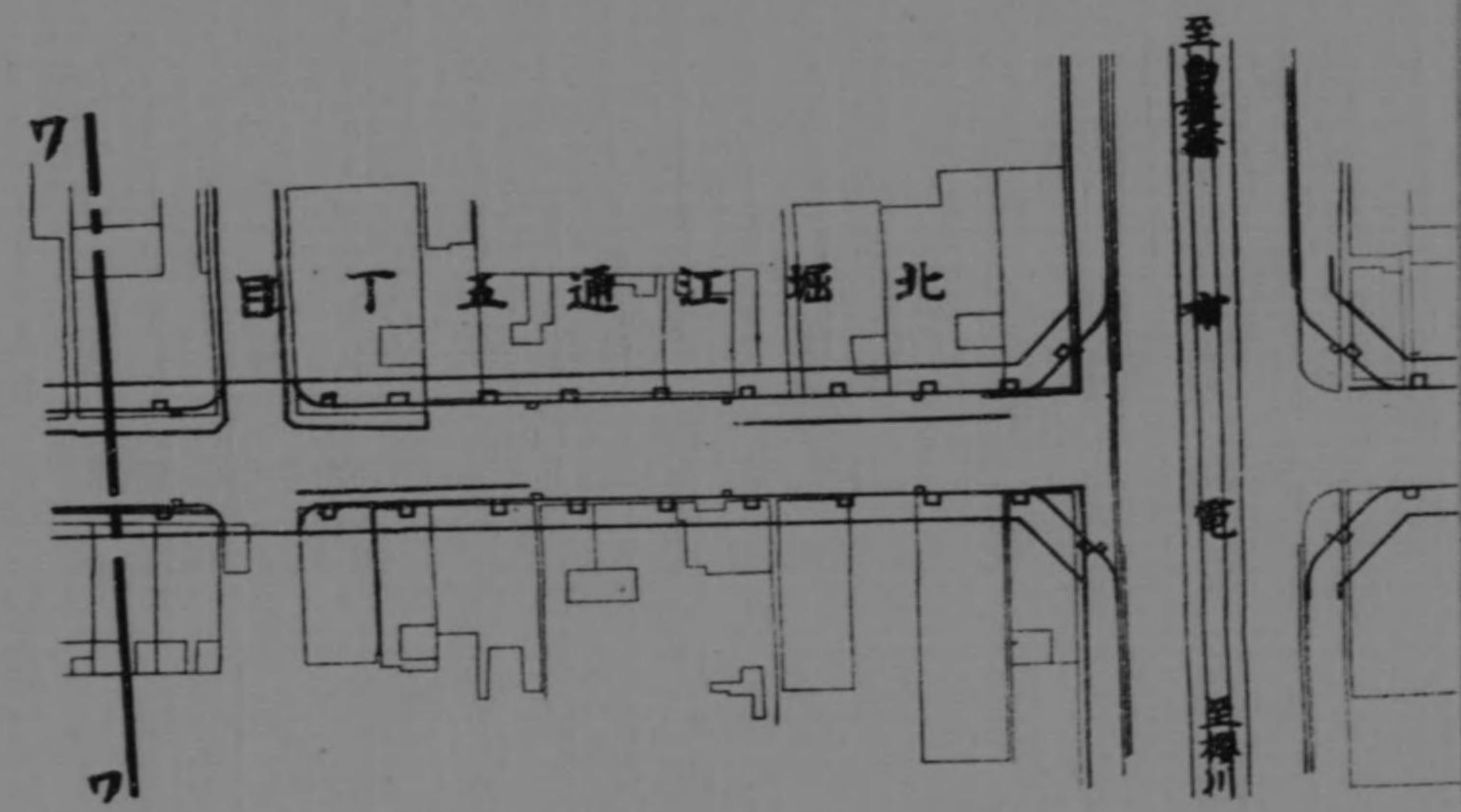


堀江玉造線

自北至南
 堀江通三丁目

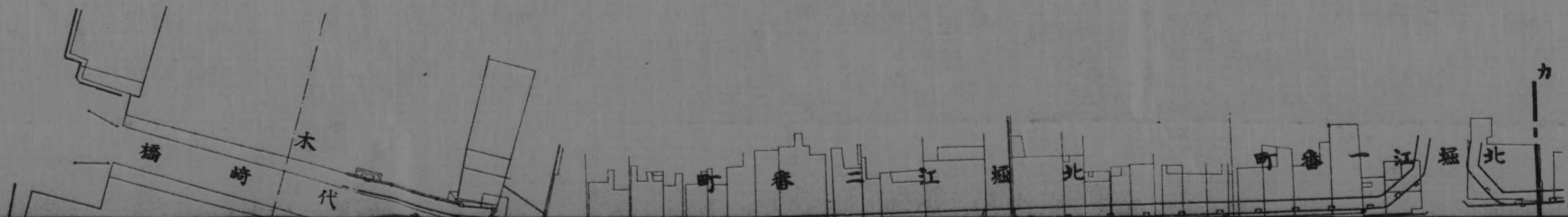
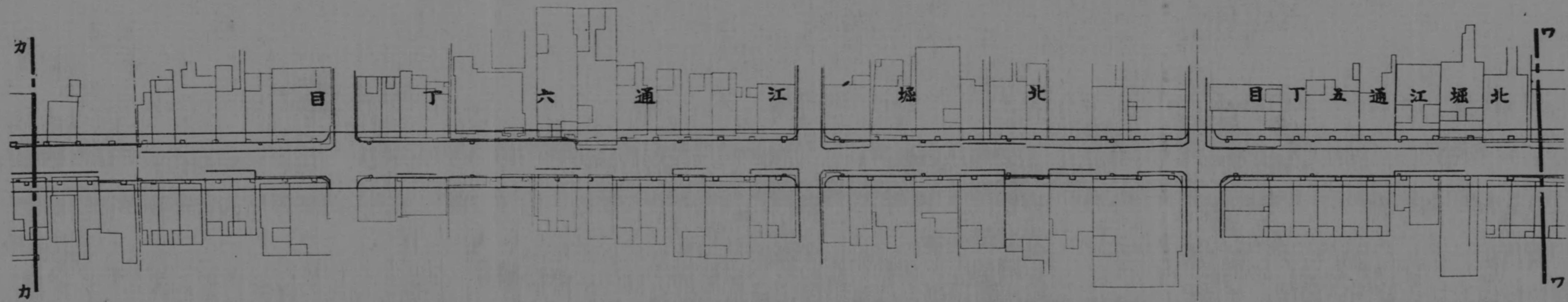
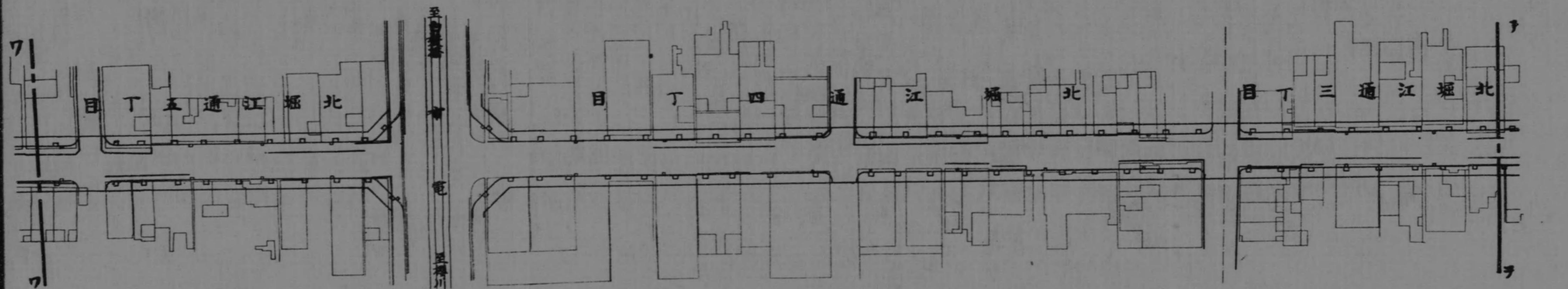






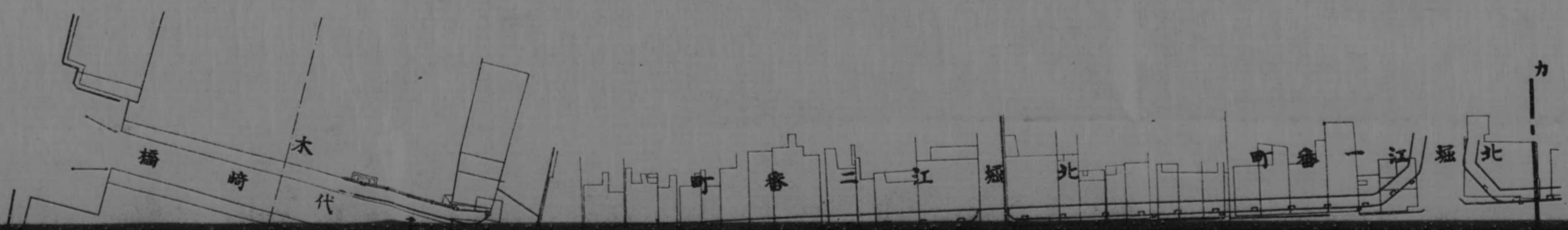
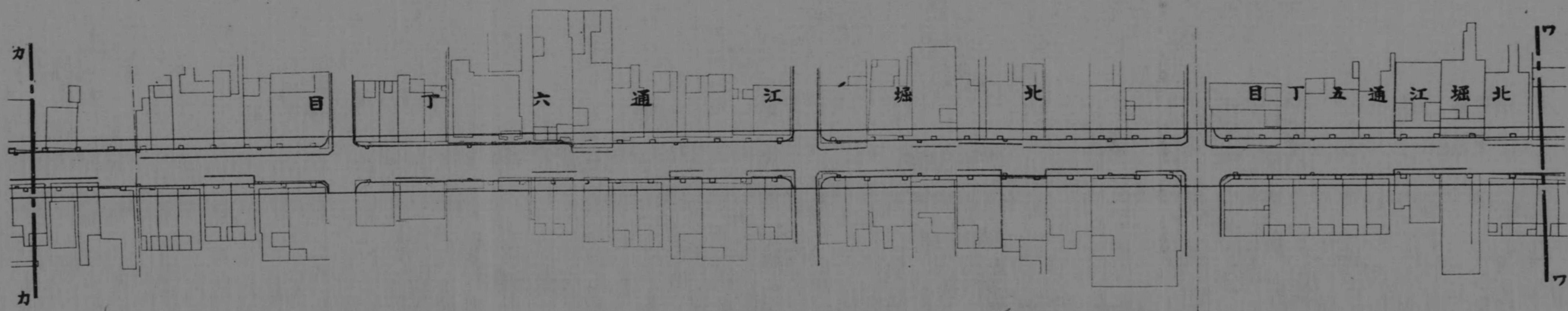
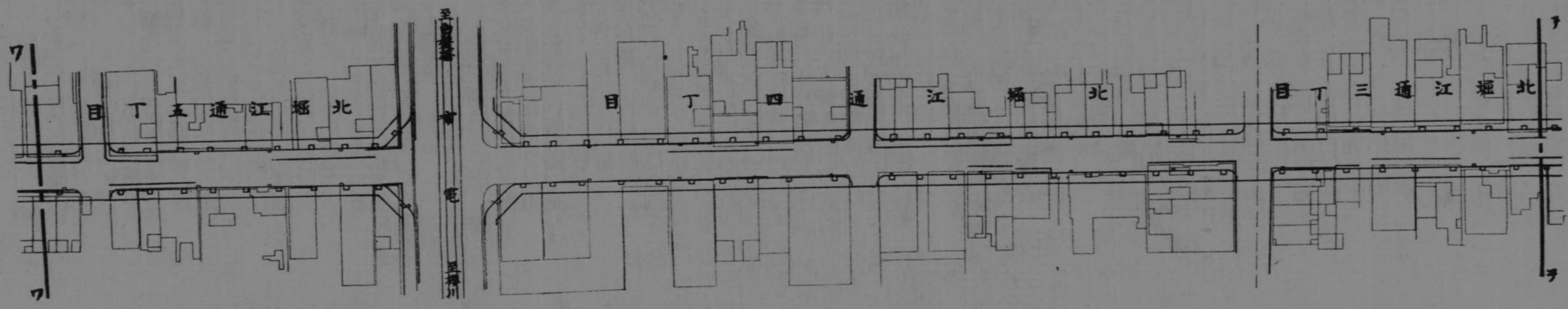
至星川

至星川
至星川
至星川
至星川
至星川



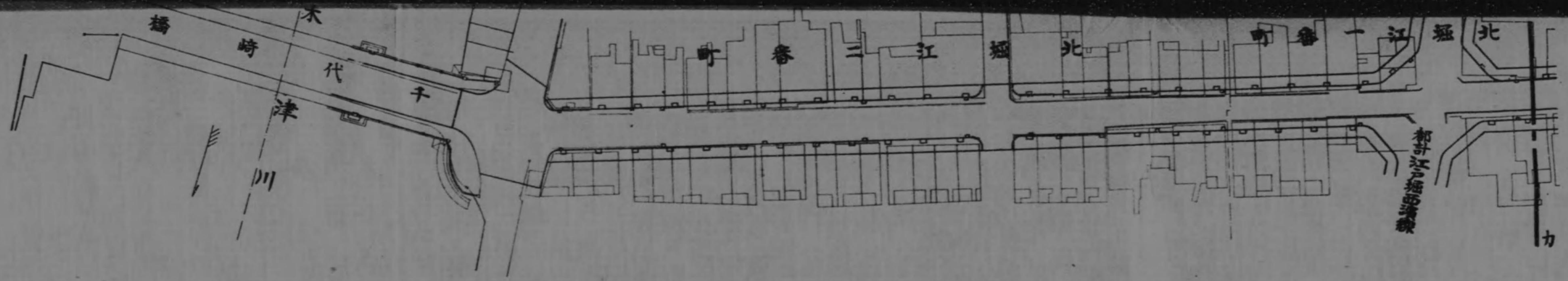
堀江玉造線

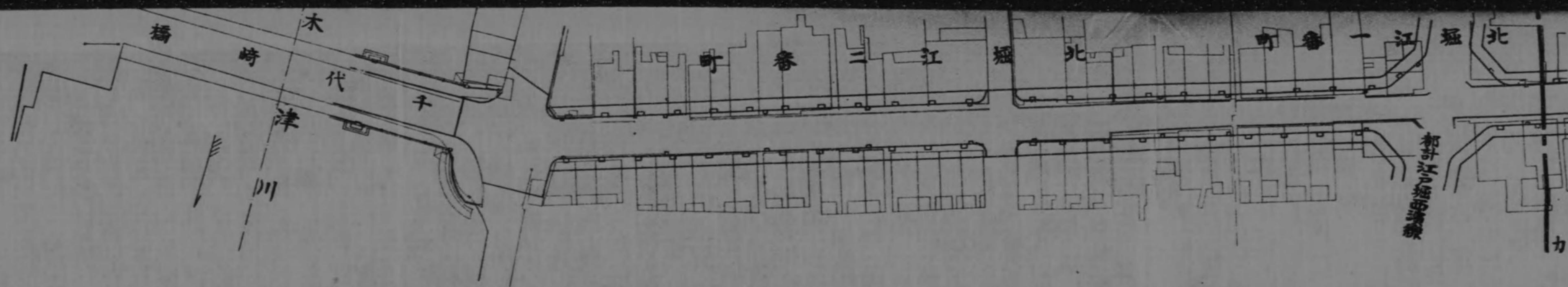
自北堀江通三丁目
至千代田崎橋



堀江玉造線

自北堀江通三丁目
至千代崎橋





第二編 施工編

〃 本事業に於て完成した道路は三十九路線、橋梁は百五十七橋である。街路鋪装並びに街路照明燈は本事業によつてはじめて公營の施設としてあらはれることとなつた。また橋梁は特に本市として特種ある構造物であるために、その機能、地理的條件並びに構造について格別の注意が拂はれた。〃

第二編 施工編

第一章 用地取得及び諸補償

第一節 概 説

第一次都市計畫事業の決定に伴ひ先づ着手されたのは事業用地の取得である。着手當時一部の市内電車軌道線を除いては幅員四間三分(七八米)以上の道路を有しなかつた大阪市内に、幅員八間乃至二十四間(二四五米—四三六米)の街路を設けやうとするのであつたら、總ての路線に土地買収、借入等の用地事務を必要とした。換言すれば、其の經費の大部分は用地の取得に關聯する支出であるといふ最も困難な既成市街地の改装と取り組まねばならなかつたわけである。所謂用地事務とは、公用又は公共事業に必要とする土地、建物の買収、交換、借入、寄附收受並びに土地收用手續等を言ふのであるが、いづれの場合にあつても地上物件の移轉及び家屋居住者の立退を必要とする事が多い。随つて土地臺帳調査に始り地上物件の移轉に終る用地事務は其の進行途上種々の難件障害に逢着する事が多く、一區間の完全買収に二ヶ年以上の日子を要した事も尠しとせない。用地買収の困難であつた理由を顧みるに、それは主として次の如き事情によるものであつたと考へられる。

一 買収にあつては、一般民間に行はれてゐる不動産取引の如く賣値買値を接近せし

めて其の妥協點を見出さんとする方法によらずして、すべて本市に於て客觀的妥當性ありと認むるものを査定し、之を買收價格として土地所有者の承諾を求めた爲め、土地所有者の所有地に對する主觀價值評價を考慮に入れ得なかつたこと。

二 地上物件移轉料として査定された金額は、當然建物新築費用よりも少額であつた爲に、建物の所有者は移轉物件を賣却し殘地に新築する場合は、市からの補償金以外に相當額の出費を必要としたこと。

三 居住者の立退に於ても、市は老舗料の補償をしなかつたから、他に立退くに付き老舗料を要した場合は前項と同様の出費を要したこと、等であらふ。

用地取得に伴ふすべての損失補償金の算定の根據は、土地收用法第四十七條以下並びに同法判例に之を求め、市の支出は總て法意の範圍外に出でざることを念とした。勿論損失補償金の算定、殊に無形財産に對する損失補償金の算定に付いては、査定者に依り異見の生じ易いものであるが、多年の經驗者の多數により各種の資料に基いて査定された補償金額は自ら絶對的のものとしたのであつて、土地所有者並びに關係人等と協議の結果定むるが如き方法は、今後共多量の用地買收を繼續せねばならない本市の立場上、到底採用出来なかつたわけである。従つて常に本市の査定額に易々として應諾する土地所有者並びに關係人よりも、不滿の意を表明する相手方が遙に多數であり、然も多くの場合土地所有者が要求したものは其の主觀價值の辦償であり、物件所有者及び居住者の要求したものは損失の補償ではなくして出費の辦償であつた。

斯くして大正十二年から昭和十五年に至る十五ヶ年の間に新設擴張街路のために取得した民有地の面積は、二十六萬三千八百二十一坪餘(約八七・九二九平方米)で、之に附隨して橋梁三十四の改築のために取得した用地並びに借用國有地、寄附收受地、讓受府有地、組替市有地、交換地、土地收用及び殘地買收によつて取得したる用地等を合すれば、其の面積三十萬八千九百八十三坪餘(約一〇二・四三一平方米)となり、その補償金額は一億六百四十四萬三千六百七十九圓餘、土地所有者及び關係人延人員は、二萬五千四十五人となる。この補償金額こそは、實に全事業費一億六千餘萬圓の六割五分に相當してゐるのである。

以上のほかに本事業には、本章第六節に記述の路幅整理なる特殊の事業がある。本市内東西南北四



↑ 建物移轉(御堂筋)



→ 街路の擴張(鶴橋線)

區の内、古來の道路境界を犯して家屋を建築したものは、明治四年大阪府達を以て「向後焼失新規建築等ノ場合ハ撤退セシム」る條件の下に、在來の分は其儘差置く事を認められてゐたのである。しかし、自然の撤却に委してゐたのでは、整理は遅々として進まず、交通保安上不都合の點が頗る多かつたので、大正六年に至り、市は家屋移轉見積額の半額を補給して既定の幅員に撤退せしめることとしたのである。

後間もなく市區改正設計の立案があり、更に本都市計畫事業の決定を見るに及び、前述路幅整理は本事業計畫中に之を包含して執行する事とした。路幅整理は、建物移轉費用の見積額の半額を補給するに過ぎないので、所有者には相當の苦痛であつて、年々坪數割（明治三十一年道路占用料の意味に於て設けられたる市税）を支拂つてもなるべく移轉工事の着手を遅延せしめんとする傾向が強し、その執行に付いては可成りの困難を伴つた。しかしして幹線街路計畫のある場所では、之が新設擴張の實施の際に路幅整理該當部分を撤退せしめる等の便宜手段を採ることとし、本事業に組入當時の要移轉面積六萬七千坪の内既に五萬餘坪を整理し得、其の移轉料としては三百十六萬五千餘圓を支出した。右の中には同時に關聯事業として街角用地のために買収した土地が八百二坪二合七勺あり、其の買収費は二十七萬九千九百餘圓であつた。路幅整理による物件移轉に際しては其の事業の性質上居住者に對する損失の補償は本市からは支拂はなかつた。

第二節 事業用地の取得

第一項 用地の買収

事業用地の取得方法は任意協議による買収を原則としたが特殊の場合又は特殊の土地に就いては夫々收用、交換、寄附、借入、國有地の管理換、府有地の拂下、市有地の組替等の方法も行はれた。買収手續の概要を述べれば凡そ次の如くである。

一 土地臺帳、地籍圖並びに及び戶籍簿登記簿調査

用地買収準備調査として先づ最初に、用地該當區域を所轄稅務署備付の地籍圖に就き稍々廣い範圍に抽出謄寫し、且つ土地臺帳により土地の地番、地目、地籍、所有者の住所氏名を調査する。又所轄登記所の土地登記簿に就き町名、地番、地籍、所有者の住所氏名、設定權利の有無等を調査する。

二 土地境界立會

次に期日及び場所を定めて關係土地所有者との立會を以て土地各筆の境界を決定し、官有道路、河川、堤塘、水路等に就いては夫々其の管理者の境界明示を受ける。

三 用地圖の作成

斯くして用地該當土地並びに其の境界を決定し、土地各筆の實測を行ひ、各筆毎に買収坪數を算出し、買収用地圖を作成する。

四 買收地の評價

次に買收地の価格を評價する。土地の評價は用地買收事務に於いて最も重要な事項で、価格の當否は買收協議の成否を左右し、事業の進捗に影響するわけである。

(イ) 賣買實例の調査

先づ用地費の算出の基本として賣買實例の調査を行ふが、これは事業用地附近の土地にして過去数年間に於て、本市並びに他の官公署によつて買收又は賣却せられたものに就き、其の賣買価格を調査するのである。斯くすることによつて實際賣買価格を知り得るから、此の實例は評價上最も有力な参考資料である。次に私人相互間に於ける土地賣買實例を調査する。私人間の賣買には必ず登録税算出のため賣買価格を記載するから、登記申請書によつて賣買価格を知り得る。然し乍ら登録税通脱のため實際賣買価格より低額に登記を申請するものもあるから、評價資料としては此の點を斟酌し、成るべく賣買當事者に就き實際賣買価格を確かめる。又勸業銀行、信託會社等の不動産金融機關の行ふ不動産擔保金融に於ける擔保価格をも調査し参考に供する。此の外、地租法に基く土地貸賃価格をも調査する。以上の評價資料を可及的詳細に調査圖に記入することにより、事業用地附近の地價の大勢を知り得るのである。

(ロ) 買收地明細圖の作成

此の明細圖には買收地各筆の位置、形狀並に交通關係等を詳細に表示する。例へば表

地と裏地と袋地、中間劃地と角劃地との別、方形、矩形、三角形、不整形の區別、面積の廣狹、道路、河川、軌道等との連絡狀態等を明かならしめる。本圖面は買收地各筆の評價買收價格決定の基礎資料となるのである。

(ハ) 其他の參考資料

第一に受益者負擔金に付き考慮する。即ち、用地を都市計畫法又は道路法に基く受益者負擔金賦課後に買收する場合には、一應之等負擔金の額を土地評價上の參考とする。負擔金の賦課は直ちに土地の増價を伴ふものではないが、賦課の原因たる事業の執行により該土地は何程かの利益を受け、或は將來受くべき事を豫想せられてゐるのであるから、買收価格は幾分増價すべきであらふ。殊に土地の貸賃價格の如きは、其の事業執行後と雖も直に改訂されるものではないから、斯る土地の評價に當つては賦課されたる負擔金額は特に有力なる資料となる。

第二に買收地並びに附近地の實際貸賃借料を調査する。稅務署査定 of 貸賃價格を參考とする事は既述の通りであるが、實際の貸賃借を見るに其の賃料は、稅務署査定 of 賃賃價格より遙に高率である。此の事は新市街地に於て特に甚だしい。其の原因は借地法の施行によつて賃借人の地位が非常に鞏固になつた爲に、將來の賃料増額並に解約申入等が困難である事を見越してゐると、將來賃料不拂に對する危険料をも之に含めてゐるからである。然し、此の賃料が障害なく恒久的に支拂はれる限り、土地は所有者に確實な收益を與へる譯で、資本としての土地の價格評定には之を度外視することは出来ない。

第三に近隣に於ける風評を探聞する。買収に何等關係を持たぬ近隣居住者にして長年同一場所に居住せる者に付き、それとなく附近地價の動向其の他を探聞することにより、時として思ひがけない事實を發見する事もある。

(三) 實地調査

總ての評價資料が揃ふと、最後に評價委員は實地に付き調査する。即ち、評價地所在域の性質と利用状態の適否、有益要素と有害要素との比較考量、近隣との調和性、交通の便否、地形、地勢、保健状態等を用地圖及び明細圖と照合しつつ調査し、注意事項を明細圖に記入し、最後に路線價及び角割地に對する増價率、奥行價格遞減率等を査定する。此の場合附近地の賣買實例として舉げられた土地も、一々實地に付き調査されることは言ふ迄もない。

(ホ) 評價委員會

本市に於ては、不動産の評價に關して不動産管理評價委員會の制度を設け、評價の統一と公正とを圖つてゐる。評價委員會は廣く不動産の取得、借入、管理、處分の爲に必要ある場合に、其の不動産の價格に付いて審議する事となつてゐる。従つて用地買收價格は、叙上の資料と調査に基いて本委員會に於て具體的に決定されるのである。

不動産管理評價委員會規程

(制定 昭和五年八月十二日
改正 昭和十二年七月)

第一條 市役所ニ不動産管理評價委員會(以下委員會ト稱ス)ヲ置キ不動産ニ關シ左ノ事項ヲ審議セシム

- 一 市及市ノ一部ノ不動産ノ管理及處分ニ關スル計畫ヲ定ムルコト
 - 二 市及市ノ一部ノ不動産ノ評價ニ關スルコト
 - 三 事業ノ用ニ供スル不動産ノ取得又ハ借入價格其ノ他一般不動産ノ評價ニ關スルコト
 - 四 前各號ノ外不動産ノ管理處分及評價ニ關シ必要ト認ムル事項
 - 第二條 委員會ハ委員長及委員若干人ヲ以テ之ヲ組織ス
 - 第三條 委員長必要アリト認ムルトキハ委員ニ非サル者ヲシテ會議ニ出席セシメ意見ヲ述ヘシムルコトヲ得
 - 第四條 委員長ハ會議ヲ總理シ會議ヲ召集シ其ノ議長トナル
 - 第五條 委員長事故アルトキハ委員長ノ指名シタル委員其ノ職務ヲ代理ス
- 名ス
- 常務委員會ハ委員會ノ委任ヲ受ケ其ノ權限ニ屬スル事項ヲ處理ス
 - 第六條 委員會ニ幹事及書記若干人ヲ置キ吏員中ヨリ市長之ヲ命ス
 - 幹事ハ委員長ノ指揮ヲ受ケ委員會ノ事務ヲ處理ス
 - 書記ハ上司ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ従事ス

附 則

明治三十五年達第一九號評價委員規程ハ之ヲ廢止ス

五 買收の協議

買收地各個の評價完了につゞいて買收協議に入る。協議は該地上物件移轉協議と併せ之を行ふものである。従つて自己の建物を所有する土地所有者には同時に土地建物に付いて

承諾を求め、何れか一に付いて不承諾の場合は、他も亦承諾なきものとして取扱ひ、土地収用手続をとることとなる。又土地所有者と建物所有者とが異なる場合は、土地所有者に對し、「借地権者から市に権利補償を求めた場合自己に於て一切の責任を以て解決する」旨の請書を提出せしめるか、又は、土地に付いての所有権以外の権利が消滅するまで一時土地代の一部の支拂を留保し、萬一市が之を解決する必要に逼られた場合の擔保とせしめるのである。居住者の立退に付いては、最初の頃は地上物件所有者をして之を實行せしめてゐたが、昭和二年土地收用法の改正によつて居住者も亦關係人として認められる事となつて以來、別個に補償する事とし、地上物件所有者と移轉協議の際、或は移轉契約後、補償金及び立退時期を明記した立退契約書を地上物件所有者に手交し、地上物件所有者から更に居住者に交付せしめる事とした。

六 所有權の移轉

土地買收協議完了の後、所有權の移轉登記を行ふ。道路用地に於ては一筆の土地を分割買收する場合が極めて多いからそれ等の土地については、先づ土地臺帳並びに同附屬地圖（地籍圖）の分筆を爲したる上、分筆並びに移轉登記を行ふのであるが、未登記物件及び各種の權利設定（抵當權、地上權、借地權、地役權等）登記あるものにして、之が保存登記或は權利の一部又は全部拋棄による抹消登記所有者名義變更更正並びに土地表示變更更正登記等を要するものも尠くなく、之等の分割手續並びに保存分筆抹消變更更正登記手續等は元々土

地所有者に於て爲すべきものであるが、事務の進捗を圖る意味から所要書類に捺印せしめ、或は所要書類を提出せしめて總て本市が代行することとした。

七 殘地買收

土地收用法第五十條には「土地の一部ヲ收用スルニ因リテ殘地ヲ從來用ヒタル目的ニ供スル事能ハサルトキハ土地所有者ハ其ノ全部ノ收用ヲ請求スルコトヲ得」と規定してゐる。所謂任意買收も此の法意に從つて取扱ひ、面積狹少、形狀不整な殘地を生じた場合は、出來る限り之を隣地主に賣却方を斡旋し、又は隣地主がその讓渡に應じない場合は本市に於て買收することとした。殘地が道路用地と水路との間に介在する場合の如く、之を一括利用し得る隣接地主なき場合は言ふまでもなく本市に於て買收したのである。斯くして買收した殘地坪數は二千六十六坪餘（六、八二九平方米）、件數に於て百三十四件、金額に於て七十七萬八千五百五十九圓餘である。

土地收用法第四十九條は「土地ノ一部ヲ收用又ハ使用スルニ因リテ殘地ノ價格ヲ減シ其他殘地ニ關シ損失ヲ生スヘキトキハ其損失ヲ補償スヘシ」とあるが、殘地は必ずしも常に利用價值を減少するものではなく、寧ろ一般には工事施行後は價格騰貴を見る事が多く、従つて價格騰貴による利益を計算する時は、利用價值減少による損失を補ふものと考へられる故に本市は之に對する補償を支拂はぬ方針をとつて來た。

第二項 土地の交換

用地買収に當つて、土地所有者が市有地を代償として要求した場合には土地の交換が行はれた。然し乍ら、實際問題としては極めて稀にしか實現せられない。蓋し、交換を可能ならしめる爲には、先づ相手方が身代り地として要求し得べき市有地、即ち、市が處分し得る土地を保有してゐなければならぬばかりでなく、交換價格に付いて兩者の意見が一致し、且つ又、該市有地價格が被買収地價格を甚だしく超過する場合に、相手方が差金を負擔し得る能力のある事が必要であるからである。土地所有者の中には單に漠然と身代り地の斡旋方を申出る者も少くないが、第三者の所有地を一旦市に買収し、之と當該用地とを交換するが如き事は到底其の繁に耐えない事であるのみならず、實際上其の効果を期待する事が出来ない場合が多く、斯る漠然たる要求に對しては其の申出を撤回し買収に應ずる様交渉するの外はなかつた。随つて交換問題が實現し得たのは、別表に見るが如く僅かに九件、面積千二百二十四坪（約四、〇四六平方米）、金額に於て二萬八百餘圓に過ぎない。

第三項 用地の寄附

都市計畫事業の國家的施設たるに鑑み、所要土地を地主が起業者に寄附する事は最も望ましい事であるが、之亦實際問題としてはあまり期待出來ず、たゞ所有地を寄附する事によつて用地外に存する殘地に相當利益を期待し得る場合に限りさうした例が認められる。内務省令大阪都市計畫事業道路新設擴張受益者負擔に關する件第十條には「左ノ各號ノ

一ニ該當スル場合ニ於テハ負擔金ヲ減免スルコトヲ得。但シ第二號及ビ第三號ノ場合ニ於ケル減免額ハ其ノ寄附額、工事費額又ハ提供額ヲ超ユルコトヲ得ズ」とし、第二號に「道路ノ新設又ハ擴張ニ要スル費用ヲ補足スル爲メ土地物件勞力若クハ金錢ヲ寄附シ又ハ市長ノ適當ト認ムル工法ニヨリ工事ヲ施行シテ之ヲ寄附シタルモノアルトキ」の定めがある。従つて本令の適用を受ける限り相當廣大な殘地を有する土地所有者は、事業用地を寄附する事により何等の不利を蒙らず、また市も用地費を節約し得ることとなる。本事業によつて土地の寄附を受けたものは六件、面積に於て一萬四千三十六坪餘（約四六、四〇〇平方米）に過ぎず、その大部分は泉尾縦貫線に於けるものである。

第四項 用地の借入

用地の借入は工事執行の必要上屢々起つた。先づ第一に工事用材料置場として、次に橋梁改築工事用として、其の他隨時の必要に應じて土地を借入れねばならなかつた。特に橋梁改築の爲に假橋用通路或は橋臺工事用地として借地した場合にして地上家屋を移轉せしめる必要のあつた際の如きは相當な困難を伴つたものである。用地買収の場合は買収區域の明示によつて家屋所有者は直に家屋の切取、移轉、或は新築を爲し得るが、一時借用の場合には家屋所有者は工事の竣功に至るまで家屋の復舊を行ひ得ず、且つ當該區域が防火地域である場合の如きは復舊家屋は防火構造と爲す必要がある等、家屋所有者としても苦痛は甚だ大であり、此等の事情は借地事務をして買収事務以上に困難ならしめたのである。